



履修の手引き

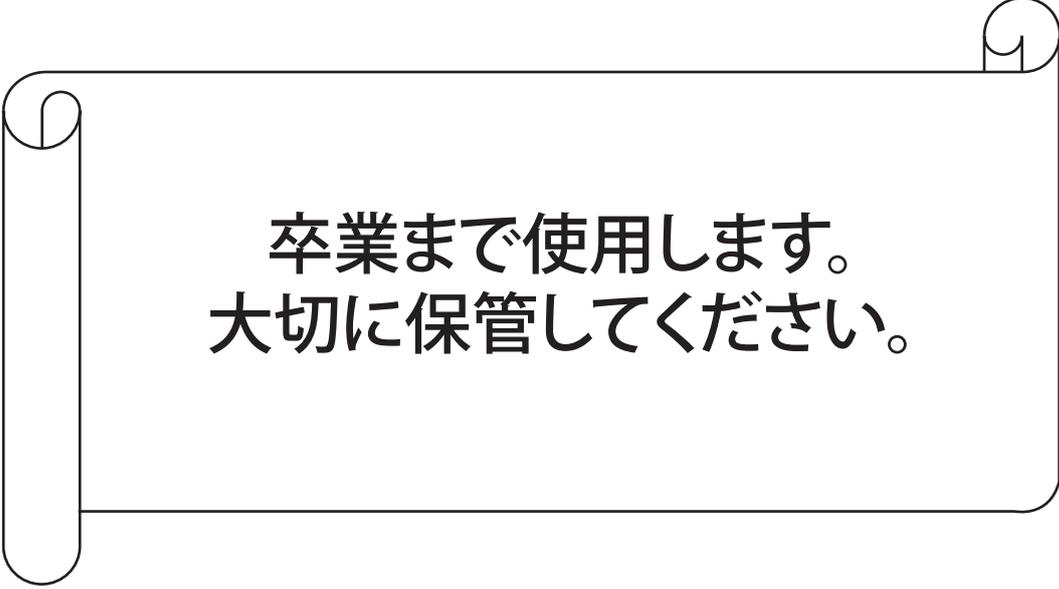
令和6年度 入学生用



健康科学部・医療科学部

Nagoya Women's University

名古屋女子大学



卒業まで使用します。
大切に保管してください。

I. はじめに	4
II. 学生支援センターの場所	4
III. 授業について	
1. 授業の開講形態	5
2. 授業時間割	5
3. 授業・試験時間	5
4. 授業科目の種類	5
5. 休講	6
6. 補講	6
7. 出席確認	7
8. 欠席・遅刻・早退	8
9. オフィスアワー	8
10. ポータルサイト	8
IV. 履修について	
1. 単位制度	9
2. 卒業要件	9
3. 履修登録単位数の上限設定(CAP制)	9
4. 履修登録と手順	11
5. 履修登録の留意点	12
6. 特別履修届の提出について	12
7. 免許・資格の申請、取り消しについて	12
8. 履修登録時のチェックシート	13
9. シラバスの見方	14
10. 教育課程	15
11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』	15
12. 科目ナンバリングについて	16
13. 単位互換制度	17
14. 海外留学	17
V. 試験について	
1. 試験の種類と方法	18
2. 期末試験	18
3. 追試験	18
4. やむを得ない理由を証明する書類	18
5. 再試験	18
6. 追試験・再試験手続一覧	19
7. 受験資格	19
8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)	19
9. 追試験・再試験の手続きの流れ	21

VI. 成績評価について	
1.成績の評価・単位の認定	22
2.成績の通知	22
3.成績の問い合わせ	22
4.GPAについて	22
VII. 規程	23
VIII. 教務関係の用語集	23

《 学 部 別 編 》

健康科学部

1.ディプロマポリシー(学位授与の方針)	24
2.カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)	26
3.教育課程	
全学共通科目	28
健康栄養学科	29
(1) 教育目的について	29
(2) 授業科目について	29
(3) 教育課程について	32
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	34
看護学科	
(1) 教育目的について	41
(2) 授業科目について	41
(3) 3年次への進級要件について	43
(4) 教育課程について	44
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	47
教育の基礎的理解に関する科目等	52
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	53
4.免許・資格	
(1) 教員免許状	55
栄養教諭一種免許状	57
(2) 管理栄養士(健康栄養学科)	58
(3) 食品衛生監視員および食品衛生管理者(健康栄養学科)	61
履修モデル(管理栄養士国家試験受験資格取得)	62
(4) 看護師(看護学科)	65
(5) 保健師(看護学科)	66
履修モデル(看護師コース)	68
履修モデル(保健師コース)	70

医療科学部

1.ディプロマポリシー(学位授与の方針)	72
2.カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)	73
3.教育課程	
全学共通科目	77
理学療法学科	
(1) 教育目的について	79
(2) 授業科目について	79
(3) 進級要件について	81
(4) 教育課程について	82
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	85
履修モデル(理学療法学科)	90
作業療法学科	
(1) 教育目的について	93
(2) 授業科目について	93
(3) 進級要件について	95
(4) 教育課程について	96
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	99
履修モデル(作業療法学科)	104
4.免許・資格	
(1) 理学療法士(理学療法学科)	106
(2) 作業療法士(作業療法学科)	107

I.はじめに

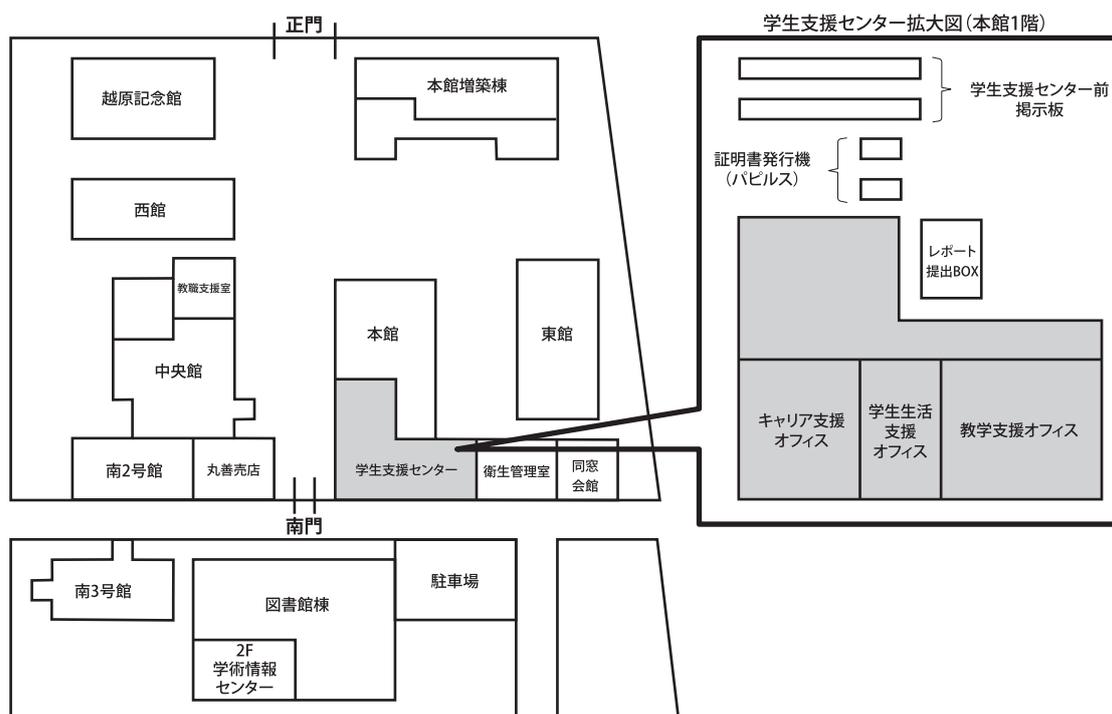
大学の勉学には、これまでの小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たなければならないということです。その際にこの『履修の手引き』が大きな役割を果たします。卒業するまで必要に応じて活用し、単位数が不足して卒業できないということのないよう十分注意してください。

《共通編》は、授業・履修・試験などの説明です。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。単位を修得するためには「履修登録」をしたうえで、授業に出席しなければなりません。履修登録には期日が決められている上、履修計画を立ててから手続きをする必要があります。この手引きをよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず熟読してください。

《学部別編》には、教育課程(カリキュラム)が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画(シラバス)」とともに活用してください。免許や資格については、《学部別編》の「4.免許・資格」で詳しく説明しています。

学生の皆さんは、この『履修の手引き』を卒業まで大切に保管し、活用するようにしてください。また、不明点がある場合は、指導教員や学生支援センター教学支援オフィスでたずねてください。

II.学生支援センターの場所



Ⅲ.授業について

1.授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講………1年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講………原則として前期あるいは後期の半年間授業が行われます。
- 3) 集中講義………上記の通年 または 半期開講科目が、教育上特別な理由があると認められる場合、あるいは特別な事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間で集中的に授業が行われます。

2.授業時間割

ポータルサイトで確認ができます。また、学生支援センター前ホール掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも、ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

授業等の日程は、学事カレンダーとしてポータルサイトと大学ホームページに掲載しています。

ポータルサイト:TOP>年間予定>学事カレンダー

大学ホームページ:HOME>在学生の方へ>年間スケジュール

3.授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2限	9:00～10:30	1・2・3限	9:00～11:20
3・4限	10:40～12:10	2・3・4限	9:50～12:10
5・6限	13:00～14:30	5・6・7限	13:00～15:20
7・8限	14:40～16:10	7・8・9限	14:40～17:00
9・10限	16:20～17:50		

大学の授業時間は、通常45分を「1時間」の授業とみなし、「2時間」(=90分)の授業が基本となります。

4.授業科目の種類

授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ1単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目(1単位に必要な授業時間数は15時間)

1単位の場合(毎週2時間の授業)×8回…半期科目

2単位の場合(毎週2時間の授業)×15回…半期科目

4単位の場合(毎週2時間の授業)×30回…通年科目

演習科目(1単位に必要な授業時間数は30時間)

1単位の場合(毎週2時間の授業)×15回…半期科目

2単位の場合(毎週2時間の授業)×30回…通年科目

実験・実習・実技科目(1単位に必要な授業時間数は45時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ1、2に必要な授業時間数は30時間)

1単位の場合(毎週3時間の授業)×15回…半期科目

2単位の場合(毎週3時間の授業)×30回…通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、各学科の「教育課程」の表を参照してください。

5.休講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示およびポータルサイトから連絡します。
- 2) 休講掲示やポータルサイトからの連絡がなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員が現れない場合は、学生支援センター教学支援オフィスに連絡して、指示を受けてください。
- 3) 地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は次のとおり取り扱います。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合	発表時	発表以降、大学から授業、試験再開の連絡があるまで休講
	南海トラフ地震臨時情報の「調査中」、「調査終了」、「巨大地震注意」が発表された場合であっても、平常通り授業、試験を実施します。		
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前6時現在発令されている場合	午前中休講
		午前10時現在発令されている場合	全日休講
交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JRのいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合(その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する)	午前6時現在ストが継続している場合	午前中休講
		午前10時現在ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想されるときは、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。(授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センター教学支援オフィスで必要な手続きをすることにより欠席にはなりません。)

- ①名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ②災害等により、交通機関が不通になった場合
- ③上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～③により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センター教学支援オフィスで所定の手続きをすれば、追試験を受験できます。

6.補講

休講のため規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次のいずれかの方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、ポータルサイトの年間予定タブに掲載されている「学事カレンダー」で確認してください。

- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示し、ポータルサイトから連絡します。

※ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。メッセージ転送設定をすると登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法は、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

<ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス>



ポータルサイト:TOP (HOME) >ポータルサイトの使い方

URL:https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf

7.出席確認

講義室には出入口付近に、出席管理システムと連携した学生証の認証によるカードリーダーを設置しています。カードリーダーが設置されている教室では、学生証をかざして出席の認証を行ってください。

学生証の認証のためには登録が必要です。入学時のオリエンテーション等で登録日程を連絡しますので、必ず登録してください。登録日に欠席した場合は、学生支援センター教学支援オフィスへ申し出てください。

学生証で出席の認証をした場合、出席状況を出席管理システムで確認できます。出席管理システムでは、出席状況の確認や欠席届を提出することができます。

出席管理システムと学生証による認証方法については、以下のマニュアルを確認してください。

<出席管理システムへのアクセス>



ポータルサイト:TOP (HOME) >学内リンク>出席管理システム

URL:<https://attendance.cn-management.jp/asp/student/index.php>

<出席管理システムマニュアルへのアクセス>

ポータルサイト:TOP (HOME) >学内リンク>出席管理システムマニュアル

URL:[https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(S\).pdf](https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(S).pdf)



<出席管理システム(よくある質問)へのアクセス>



ポータルサイト:TOP (HOME) >学内リンク>出席管理システム(よくある質問)

URL:[https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(SQ&A\).pdf](https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(SQ&A).pdf)

<学生証による認証方法(動画)へのアクセス>

URL:<https://cn-solution.jp/movie/>



- ◆学生証の認証による出席の確認は、授業開始9分前から可能です。
- ◆学生証を忘れた場合、または学生証の認証が正しくされなかった場合、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。
- ◆学生証が登録されていない場合、カードリーダーにかざすと「登録がありません」とメッセージが流れます。
- ◆学生証による認証の反応が悪い場合は、再登録が可能です。学生支援センター教学支援オフィスへ申し出てください。また、学生証を再発行した場合は、再度登録が必要です。

8.欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に準ずるP.18参照)で授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出してください。「欠席届」は、出席管理システムを利用している授業の場合は、出席管理システムから提出できます。その他の授業の場合は、学生支援センター教学支援オフィスで配布している用紙に記入して、提出してください。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは、次のとおりです。
 - ①授業開始時間に遅れた者は、遅刻として取り扱います。
 - ②授業終了まで受講していない者は、早退として取り扱います。
 - ③遅刻及び早退は、計3回をもって欠席1回とみなします。
 - ④1回の授業時間の3分の1以上(講義・演習科目は30分以上、実験・実習科目は45分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

9.オフィスアワー

教員は学生からの様々な質問に応じるための時間「オフィスアワー」を設けています。「オフィスアワー」の時間帯には教員が研究室に在室し、授業内容やその他学修に関する様々な相談を受け付けています。各教員のオフィスアワーの設定時間は、教員によって異なりますので、オフィスアワー一覧表で確認してください。学生ポータルサイトの「オフィスアワー」からも確認できます。各教員の研究室の場所も記載されています。

<オフィスアワー一覧表へのアクセス>



ポータルサイト:TOP (HOME) > My時間割 > オフィスアワー
URL: https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/office_hour/office_hour.pdf

10.ポータルサイト

ポータルサイトとは、大学からのお知らせや履修登録、成績発表など大学生活を送るうえで必要な様々な機能が集約されたサイトです。手続きなどの重要なお知らせを見落とさないよう、気を付けてください。履修登録漏れ、試験などに係る申請不備による不利益はすべて自己責任となりますので、ポータルサイトからの配信はこまめにチェックしましょう。

<ポータルサイトへのアクセス>



大学Webサイト > 在校生の方へ > ポータルサイト
URL: <https://portal.nagoya-wu.ac.jp/campusweb/top.do>

<ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス>

ポータルサイト:TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方
URL:https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf



Ⅳ.履修について

1.単位制度

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて45時間の学修時間を必要とします。

2.卒業要件

大学を卒業するためには、4年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、下表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

卒業に必要な単位数 ※括弧内の数字は、必修科目の単位数(内数)

【健康科学部】

学科	全学共通科目	健康科学部 共通科目	学科 専門科目	自由 選択科目	合計
健康栄養学科	18(7)以上	76(51)以上		30以上	124(58)以上
看護学科	13(9)以上	112(110)以上		—	125(119)以上

【医療科学部】

学科	全学共通科目	学部学科間 共通科目	専門基礎 分野科目	専門 分野科目	合計
理学療法学科	14(7)以上	113(106)以上			127(113)以上
作業療法学科	29(14)以上		101(100)以上		130(114)以上

自由選択科目

科目区分の制限はありません。各科目区分で定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位数で充足されます。

単位互換科目

単位互換制度を利用して取得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。詳しくはP.17「13.単位互換制度」を確認してください。

3.履修登録単位数の上限設定(CAP制)

各学期・年間の履修登録をする際に、履修登録単位数の上限を設定しています。履修登録単位数の上限を設定することをCAP制といいます。

履修登録単位数の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1単位を修得するにあたって必要な学修時間45時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

1) 全学部学科で上限単位数から除外する科目等

①「大学、短大以外の教育施設等における学修」及び「入学前の既修得単位」の認定単位

②全学共通科目:「建学のこころ」

2) 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目及び名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。

3) 学長が特に必要と認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。

4) 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。

なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修登録単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

学部	学科	履修登録の上限単位数								その他条件単位数から除外する科目
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
健康科学部	健康栄養学科	49		48		48		48		「国際健康栄養演習(海外研修)」、教育の基礎的理解に関する科目等
	看護学科	48		49		48		48		
医療科学部	理学療法学科	42		42		42		42		臨床実習
	作業療法学科	42		42		42		42		臨床実習

4.履修登録と手順

具体的な日程は、オリエンテーションで配布する「Web履修登録日程表」を参照してください。

オリエンテーション

- 新入生オリエンテーション、在学生オリエンテーションで履修登録の説明を聞きます。

履修計画

- 「履修の手引き」や「シラバス」、「時間割表」を参照し、必修科目や資格取得に必要な科目を確認して、1年間の履修計画を立てます。
- 1年間に履修できる単位数には上限があります。(履修の手引きP.10参照)
- 科目によって、履修するための条件(前提科目)があります。そのため資格取得に必要な専門科目を全て履修してから、全学共通科目の履修を計画しましょう。

Web履修登録

- 履修計画をもとに、ポータルサイトで履修登録を行います。前期に後期科目の履修登録も行います。
- ポータルサイトで履修登録できない科目は、学生支援センター教学支援オフィスで「特別履修届」を受け取り、記入して提出します。
- 履修登録期間は、受講する科目を検討する期間です。初回の授業から出席してください。
- 後期の履修登録期間は、後期科目のみ追加・削除が可能です。

資格申請

- 取得を希望する免許・資格を申請します。
- 資格申請することで、卒業学年時に資格取得見込判定の確認ができます。

一次抽選

- 履修者数に人数制限のある科目の抽選を行います。
- 抽選科目の履修を希望する場合は、一次抽選日までに履修登録を行い、抽選結果を必ず確認してください。抽選結果が決まる前の授業にも出席してください。
- 後期は、履修者数に余裕がある抽選科目の追加登録(先着順)が可能です。(後期は抽選を行いません。)
- 教科書は当選してから購入してください。

二次抽選

- 履修者数に余裕がある科目の二次抽選に申し込むことができます。

履修確認

- 履修計画とWeb履修登録した科目が合っているか、履修登録漏れがないか確認します。
- 履修登録の修正が必要な場合は、「履修追加登録願」を記入し、指導教員の確認をうけて、学生支援センター教学支援オフィスへ提出します。

履修登録科目の確定

- 履修登録科目が確定します。

5.履修登録の留意点

- 1) 「履修の手引き」で卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、「授業計画(シラバス)」を熟読して1年間の履修計画を立ててください。
(注)履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。
- 2) 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。
- 3) 登録ミス、登録漏れのないように注意してください。
- 4) 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ずポータルサイトで受講可能か確認してください。
- 5) 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。
- 6) 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。
- 7) 授業科目については、履修できる学年(配当学年)が決まっています。下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。なお、配当学年において、卒業必修科目を修得できなかった場合、次年度以降の該当科目の履修登録については、学生支援センター教学支援オフィスでの手続きが必要となります。

6.特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、「特別履修届」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。
「特別履修届」は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

- 1) 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- 2) 全学共通科目(外国語科目)を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合、専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- 3) 読替を要する科目を履修する場合

7.免許・資格の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録は、履修登録期間中にポータルサイトの「資格申請・取消」から必ず行ってください。
また、卒業学年の後期履修登録期間に登録済みの免許・資格を取り消す場合は、「免許・資格申請書」を提出してください。申請書は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

8.履修登録時のチェックシート

履修登録および資格申請の追加・削除は、履修登録期間以外は原則認められません。そのため、履修登録時は、下のチェックシートを活用して、慎重に手続きを行ってください。

項目	内容	チェック欄			
		1年次	2年次	3年次	4年次
		前期 後期	前期 後期	前期 後期	前期 後期
① 履修計画	現在の単位修得状況、卒業要件、資格要件を確認して、1年間の履修計画を立てましたか？ (後期では、前期成績を確認して計画の見直しをしましたか?) ※履修できる単位数には上限があります。(P.10参照)	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
② 履修登録、 免許・資格 申請	専門科目の選択科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	集中講義(実習関連・卒業研究などを含む)は登録しましたか？ ※特に、後期の集中講義科目は履修登録忘れが起きやすいです。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	全学共通科目および教職科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	希望する免許・資格の申請登録はしましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】進級・卒業および資格取得の見込判定結果を確認しましたか？ ※判定が「可」にならないと、見込証明書の発行はできません。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】前年度単位修得できなかった科目などWeb履修登録ができなかった科目は、 学生支援センター・教学支援オフィスで申請しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
③ 申請内容 確認	Web履修登録完了後、ポータルサイトに「履修登録受付完了」メッセージが届きましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	抽選科目の結果(当落)を確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	履修登録修正期間に、ポータルサイトの「My時間割」で申請内容が反映されているか 確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】履修登録修正期間に「履修追加登録願」を提出した場合、後日「My時間割」 に申請内容が反映されていることを確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓

履修にJUN

9.シラバスの見方

シラバスはポータルサイトからアクセスできます。授業を選択する時には、シラバスを熟読してください。

シラバス参照			
検索結果一覧へ戻る お気に入り追加する			
科目名	建学のこころ		
講義コード			
担当者	越原 もゆる		
学年	1年		
対象学科・専攻			
クラス			
単位数	1		
開講時期	前期		
授業形態	講義		
備考			
授業の目的と概要	UAO 0 00 L 101 Z (1)本学創設者の生家に関する越原学舎で学ぶことにより、学園「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2)共同生活を通じて自己啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学習の目標を立て、その設計を確かなものとする。		
授業の到達目標	DP1と2 ・本学創設の歴史や時代背景を理解し、学園「親切」の意味を深く考え、創設者の現代社会を生きる学生へのメッセージを読み取るができる。 ・共同生活を通じて自己啓発に努め、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、大学4年間の学習の目標を立てることができる。		
授業計画概要	1.学長講義 本学創設者の生家において、各種の資料を精用しながら、「親切」を学園として本学園を創設するに至った創設者越原春子先生の足跡を学び、女性の生き方について考えるとともに、学生各自のこれからの勉学の在り方を考える。 2.学科別講義・学習 テキストとして『美濃少女がもえのぼる』等を読み、建学の精神を学ぶとともに、越原研修について、春子先生の足跡を辿り、その遺徳を感ずる。 3.「大学で学ぶということ」を読み、大学生としての学習や生活について自覚すると共に、その意味を学ぶ。		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>学長講義と学科別講義および学習</td> </tr> </table>	第1回	学長講義と学科別講義および学習
第1回	学長講義と学科別講義および学習		
学修上の留意事項	新入生オリエンテーションから「建学のこころ」は始まるので、学園の理念や健康栄養学科の目的などを十分に理解すること。越原記念館2階や越原(あっぱら)研修への準備段階でも主体的で積極的な参加が望まれる。また、越原学舎では共同生活を楽しく進めるとともに、自己規律の育成に努めること。コロナウイルス感染予防対策のため、授業内容が変更した時は、指導教員の指示に従って学習する。		
授業外学修の指示	事前に『美濃少女がもえのぼる』『建学のこころ(越原研修のしおり)』等を熟読し、越原記念館展示室を閲覧しておくこと。 越原(あっぱら)研修の事前には「大学で学ぶということ」を読み進めておくこと。 『もえのぼる』を事前読み、事後はそのレポート作成などにより合計180分×7、5の予習・復習が必要である。		
学修eポートフォリオ	学修eポートフォリオおよび教職「履修カルテ」の対象科目ではありません。		
成績評価基準	DP2と3に基き成績評価はオリエンテーション参加や研修参加に対する積極性や自発性、協調性、責任感などについて評価する(準備における参加率20%、研修における参加率40%)。さらにレポート(40%)により合計100点とし評価する。レポートは添削して返却する。SABCCDの評価は大学の成績評価基準に従う。評価の詳細は添付されているルーブリックを参照する。		
テキスト			
テキスト(自由入力)	越原春子日評美濃少女(みののあとの) 越原一郎(編)学校法人越原学園発行 『大学で学ぶということ』名古屋女子大学・名古屋女子大学短期大学部編		
参考資料ファイル	65年建学のこころルーブリック.pdf 建学のこころルーブリック-F5		
担当者の実務経験	なし		
参考図書			
検索結果一覧へ戻る 印刷			

基本情報

科目名、授業担当教員、対象学科、学年、単位数、開講時期など

授業の目的と概要

科目ナンバリングと授業の教育目標を確認できます。

授業の到達目標

授業終了時に身につく能力、何ができるようになるかを確認できます。またディプロマポリシーとの関連を確認できます。

授業計画

各回の授業内容を確認できます。授業担当者が複数人の場合、授業回数ごとの担当教員が記載されています。

学修上の留意事項

授業を履修するうえで必要な取り組みと、条件(前提科目)を確認できます。

授業外学修の指示

授業以外に必要な予習・復習の学修内容と時間が記載されています。

成績評価基準

成績評価の基準と割合が記載されています。

テキストと参考図書

- ・テキスト:授業で使用する教科書です。購入してください。
- ・参考図書:授業に関連する参考資料です。図書館に所蔵されています。

10.教育課程

教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と学科専門科目に分けて編成されています。そして、それぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目および選択必修科目があり、体系的に修得するように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1や2と番号が振られている科目を2から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

選択必修科目

教育課程のうち、特定の科目の中から一定の単位を必ず修得しなければならない科目

- 上記のほか各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

11.『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。詳しくは《学部別編》で確認してください。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(学位授与の方針)と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

12.科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、学修の段階や順序等を数字で表示することにより、教育課程の体系をわかりやすくし、履修登録時の目安とするために設定しています。科目ナンバリングのコードは、以下の構成となっています。

例) 大学全学共通科目「日本国憲法」の場合

UA0 0 32 L 2 06 L - N2T1T3T4T5T6T7

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①と②の間の「0」は予備コードです。

①学部・学科コード(アルファベット3文字) ※専攻コードがない場合は、末尾が0になります。

大学

学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード
大学全学共通科目	UA0	健康科学部学科間連携科目	HB0	医療科学部学科間共通科目	MB0
家政学部生活環境学科	EE0	健康科学部健康栄養学科	HH0	理学療法学科	MP0
家政学部教職課程	ET0	健康科学部看護学科	HN0	作業療法学科	MO0
		健康科学部教職課程	HT0	児童教育学部児童教育学科	CC0

学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード
短大 全学共通科目	CA0	生活学科	AL0	保育学科第一部・第三部	EC0

②分野コード(数字2文字)

図書館の分類表と同じ分類(日本十進分類法の2次区分表)を使用し、科目の分野を表現しています。

③授業形態(アルファベット1文字)

授業形態	コード								
講義	L	演習	E	実験	M	実習	T	実技	P

④科目分類(数字またはアルファベット1文字)

各学科の教育課程の科目分類ごとに区分しています。全学共通科目は数字1文字、専門科目はアルファベット1文字です。

⑤授業識別番号(数字2文字)

科目分類と合わせて、授業を識別するための個別コードです。

⑥レベル(アルファベット1文字)

レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード
基礎的な内容	L	発展的な内容	M	卒論・実習系	H	その他	Z

⑦資格コード(アルファベットと数字で2文字)

資格取得に関係する科目には、資格コードが付与されています。

資格名称	コード	資格名称	コード	資格名称	コード
一級建築士受験資格	A1	保育士	H1	幼稚園教諭一種免許状	T1
二級建築士・インテリアプランナー受験資格	A2	秘書士	S1	幼稚園教諭二種免許状	T2
テキスタイルアドバイザー	C1	医療秘書実務士	S2	小学校教諭一種免許状	T3
フォーマルスペシャリスト ブロンズライセンス	C2	情報処理士	J1	中学校教諭一種免許状(国語)	T4
ドレメ式教員認定	C3	上級情報処理士	J2	中学校教諭一種免許状(家庭)	T5
栄養士免許証	E1	ビジネス実務士	J3	高等学校教諭一種免許状(家庭)	T6
管理栄養士 国家試験受験資格	E2	上級ビジネス実務士	J4	栄養教諭一種免許状	T7
食品衛生監視員及び 管理者任用資格	E3	看護師国家試験受験資格	N1	理学療法士国家試験受験資格	R1
フードコーディネーター	F1	保健師国家試験受験資格	N2	作業療法士国家試験受験資格	R2
フードスペシャリスト	F2	養護教諭二種免許状	N3		

13.単位互換制度

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

1) 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位修得が可能です。下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

①名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授 業 科 目	授業形態	単位数
生活マナー演習	演習	1
簿記演習3	演習	1

②履修対象者

1年生後期から2年生の学生

③単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の自由選択科目の単位数として算入されます。

④履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4月第2木曜日まで

後期科目：9月第2木曜日まで

2) 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位修得が可能です。詳しくは、学生支援センター前ホール掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認して手続きしてください。

URL: <https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

14.海外留学

留学先で修得した授業科目の単位は60単位を上限として、本学で修得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

海外留学については、学生生活の手引き「翔」または、大学ホームページの「留学制度・奨学金制度」を参照してください。海外交流室または学生支援センター学生生活支援オフィスに相談することもできます。

<留学制度・奨学金制度へのアクセス>



大学Webサイト>在校生の方へ>留学制度・奨学金制度

URL: <https://www.nagoya-wu.ac.jp/students/ryugaku.php>

V. 試験について

1. 試験の種類と方法

試験の種類は、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

2. 期末試験

- 1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といいます。
- 2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

3. 追試験

- 1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。
 - ① 試験時間割に掲載された筆記試験を実施した授業科目
 - ② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目
- 2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。
- 3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。
- 4) 追試験の受験は、欠席理由が「4. やむを得ない理由を証明する書類」の項目に記載されている欠席理由のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類の提出が必要です。①から⑦は願い出の受理により追試験の受験が認められますが、⑧は教授会および学長が許可した場合に受験が認められます。

4. やむを得ない理由を証明する書類

	欠席理由	提出書類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	学則第14条に定める資格を取得するために必要な校外実習	証明書不要
⑥	就職試験(会社訪問は除く)の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他①から⑦に準ずるものとして学長が認めたもの	理由を証明する書類

5. 再試験

- 1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期及び通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。再試験期間は、学事カレンダーで確認できます。なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。
- 2) 願い出が遅れた場合は受験資格はありません。
- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験と再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目の場合は、前・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。

4) 校外実習(教育実習・臨地実習など)が不合格になった場合の再試験は実施しません。

6.追試験・再試験手続一覧

	追 試 験		再 試 験	追試験・再試験で 不合格科目の再試験 (4年生のみ)
	欠席理由①～⑦	欠席理由⑧		
提出書類	試験欠席届＋証明書類＋追試験申込書		再試験申込書＋ 再試験願出書	再試験申込書＋ 再試験願出書
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) 追試験申込書は受験 許可後に提出	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし	前・後期それぞれ 1科目
提出先	学生支援センター教学支援オフィス			
受験手数料	1科目につき1,000円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき2,000円	1科目につき2,000円

7.受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない授業科目。
- 2) 当該授業科目の規定授業時間数(半期8回、15回、通年30回)の3分の2以上出席していない者。
- 3) 学生証を所持していない者。
- 4) 試験開始後15分以上遅刻した者。
- 5) その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

8.受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

〈受験態度〉

受験の際は、終始公正な態度を保ち、少しでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

〈監督者の指示の遵守〉

試験室においては、常に監督者の指示に従う。

指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

〈学生証の提示〉

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机の上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターにおいて仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料1,000円が必要となる。

また、学生証を紛失した場合は願い出れば、翌日の午前9時には再発行される。(手数料4,400円が必要)

〈不正行為〉

受験の際、万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第46条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

〈所持品の扱い〉

試験中は学生証、筆記用具（特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ）、監督者が許可したもの以外は机の上に置かない。その他の手荷物も机の中に入れて、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

〈参照許可物件〉

問題用紙に参照許可物件（テキスト、ノート、辞書等）が明示されている場合のみ、参照が許可される。

〈遅刻〉

遅刻は試験開始後15分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。なお、遅刻により受験できなかった科目は欠席となる。

〈退室〉

試験開始後30分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

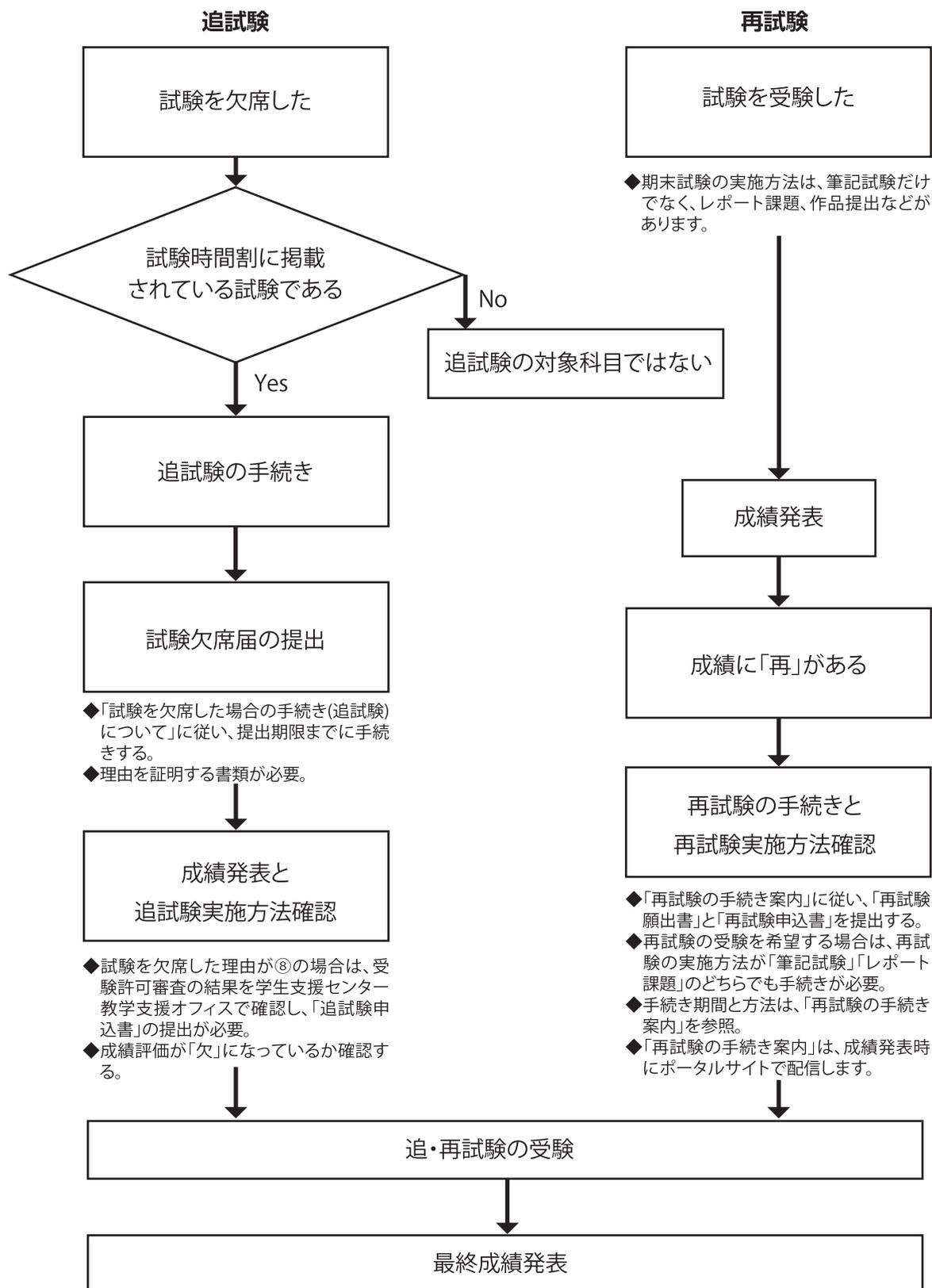
〈再入室の禁止〉

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

〈答案用紙〉

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや、白紙のものも提出する。

9.追試験・再試験の手続きの流れ



成績評価について

- ◆卒業学年に限り、追再試験の再試験(前後期各1科目:必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験・看護師国家試験・保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目に限る)を実施する場合があります。手続きは、最終成績発表日に受け付けます。
- ◆「試験規程」は、ポータルサイトの学内リンクタブの「規程一覧」の中にあるので確認してください。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA評価平均が下位25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準
- 5) 成績上位者の表彰の選抜基準
- 6) 退学勧告を行う判定基準

<GP (グレード・ポイント)>

最終成績評価 (S : 4、A : 3、B : 2、C : 1、不認定 : 0、失格 : 0、認定 : -)

<不合格科目等の取り扱い>

成績評価が不合格の科目、失格となった科目、試験を欠席した科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

<GPAの算出式>

各科目の成績評価を成績値 (GP) に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$GPA = \frac{(4 \times S \text{ の修得単位数}) + (3 \times A \text{ の修得単位数}) + (2 \times B \text{ の修得単位数}) + (1 \times C \text{ の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

VII. 規程

学則や各種規程は、ポータルサイトに掲載しています。

<規程一覧へのアクセス>



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 規程一覧

URL: <https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/kitei/kitei-index.htm>

VIII. 教務関係の用語集

<教務関係用語集へのアクセス>



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 教務関係の用語集

URL: https://gakusei.nagoya-wu.ac.jp/portal/pdf/rishuyoko/kyomu_yogo.pdf

健康科学部

1.ディプロマポリシー(学位授与の方針)

健康科学部

健康科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学位授与の規定では、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、女性のもつ能力を活かした専門的職業人としての使命感や責任感が持てる人であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

健康栄養学科

本学科所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士(健康栄養学)の学位を授与します。

- 1) 知識・技能:食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な基礎知識と応用力を身に付けていること。
 - (1)食物や栄養、病態について科学的根拠に基づく正しい知識・技能を修得し、さまざまな対象者に応じて適切な栄養管理、栄養教育を行うことができる。
 - (2)栄養バランスの重要性とともに食べるタイミングと健康との関連について理解し、多様化するライフスタイルに応じた食支援ができる。
- 2) 思考・判断・表現:食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身に付け、自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力があること。
 - (1)対象者の身体状況を正確に把握し、適切な栄養管理、栄養教育のプランを立案できる。
 - (2)対象者から情報を引き出すとともに適切なアドバイスを分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3) 主体性・多様性・協働性:管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができること。
 - (1)複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集・分析し、自ら行動して問題を解決しようとする実行力を持っている。
 - (2)食品、教育、福祉、医療等のさまざまな分野において、協働する他の専門職との相互理解に主体的に取り組むことができる。

看護学科

本学所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、学士(看護学)を授与します。

- 1) 知識・技術:看護に必要な基礎的知識を身に付け、看護分野における専門的知識・技術を広く学修することができる。
 - (1) 看護について科学的根拠に基づく正しい知識・技術を修得し、保健・医療・福祉・教育等の場において、それらの知識・技術を活かすことができる。
 - (2) 豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要とされる「人間および生命の尊厳」に関する知識・技術を修得することができる。
- 2) 思考・判断・表現:科学的思考力のもと、効果的に看護を実践するため、人々の健康に関する課題を把握し、問題を解決するための思考力と判断力を身に付け、自分の考えを表現する能力を身に付けることができる。
 - (1) 看護の対象となる人を全人的にとらえ、科学的・論理的思考に基づいて判断し、人々の健康に関する課題を解決することができる。
 - (2) 自己理解を深め、基本的な表現力を獲得し、他者とのコミュニケーションを図ることができる。
- 3) 主体性・多様性・協働性:保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野を持ち、専門的知識や技術を獲得するために主体的に学修を続け、多面的な観点から問題に取り組み、保健医療チームの中で協働することができる。
 - (1) 地域的・国際的動向に関心をもって学修を続け、保健・医療・福祉・看護の課題に対して主体的に取り組むことができる。
 - (2) 複雑化した健康問題に対して、多様な角度から情報を収集・分析し、多面的な観点から健康問題を解決できる。
 - (3) 保健・医療チームの中で多職種と協働的にコミュニケーションをとり、専門職として責任ある行動がとれる。

2.カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

健康科学部

健康科学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを医療科学部・家政学部・児童教育学部と可能な限り共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成します。第二に、2学科それぞれに多くの専門科目を設置して体系的な教育課程を実現しつつ、有機的連携を保ちます。健康栄養学科においては、将来管理栄養士として活躍できる人材を養成するために必要な専門科目を多く設置し、国家試験合格を支援しています。看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。学部全体(学士課程)では、女性として活かしたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

健康栄養学科

1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、食と健康に関する専門知識と技能、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技能を修得し、医療職とも連携できる管理栄養士としての能力を育成します。

2. 教育課程の編成と特色

1) セメスター制とGPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直し、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭免許などの取得可能性について確認できます。また、GPA(Grade Point Average)を活用して学生指導を充実させます。

2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように設置します。

3) 専門科目群

管理栄養士養成課程として、理論と実践の一体的な専門教育を目指したカリキュラム編成を行い、必修・選択等の割合を適切に配置して系統的に編成します。また、学生が自らの興味関心あるいは将来の職域をふまえてより深い専門知識や技能を修得するために、発展・応用科目を設置します。さらに、医療科学部ならびに看護学科との連携のもと学部・学科間連携科目を設置します。

4) 学修成果測定

- (1)ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- (2)学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行っていきます。
- (3)管理栄養士が必要とする学修成果や学修達成度の評価を行います。

5) 学修環境

- (1)管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2)管理栄養士が必要とする知識と技能の統合のための科目「健康栄養学総合演習」を設置します。
- (3)授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (4)総合学修のための自習室を準備します。

看護学科

1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーに掲げた目標の達成に向け、看護学の領域はもとより、特に、医療系職能育成における専門知識と技術、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技術を修得し、多職種とも連携できる看護専門職者としての能力を育成します。

また、教育課程においては、本学の強みである“人の生きる力を創る幼児教育”と“人の生きる力の基本を創る『食と生活』の健康栄養学”の異分野融合による特色ある教育をめざします。

- 1) 大学での学びの導入として、初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚と総合的に“人”“生活”を捉え多面的なケアを担う基礎をめざします。また、「学士力」育成をめざし、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように科目を配当します。
- 2) 学園訓「親切」の心をこれまでの100年とこれからの100年をつなぐ役割を担い、その心を未来に橋渡しするという考え方を基盤として、「人間」「環境」「食」「福祉」「健康」「看護」の概念のもとに「看護学」を構築します。
- 3) 医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとし、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の5領域で体系化しています。この科目内では、本学の特色である『食と生活』に焦点を当てた、噛む(『食=噛む』)ことと脳の活性化や、噛む力を維持するための口腔ケアなども学ぶ授業展開とします。
- 4) 健康栄養学科との連携を図るため、二段階で学科間連携科目を設置します。第一段階では「健康の基盤は栄養であること」を重視した基礎的な必修科目群を開講し、第二段階では臨床的観点から栄養学を学修するための学科間連携科目群を選択できるように環境を整えます。

2. 教育課程の編成と特色

1) セメスター制とGPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより、学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能となり、GPA (Grade Point Average) を活用した学生指導を充実させることができます。

2) 学修成果測定

- (1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- (2) 学修(e) ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行っていきます。
- (3) 年次で学科が必要と定めている教科目の修得結果が、学科の定める規準を満たし、3年次以降の教科目を履修する基礎レベルに達しているかを確認する進級基準を設けています。
- (4) 看護師が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技術に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。

3) 学修環境

- (1) 看護師・保健師の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (2) 授業担当者とクラス担任の緊密な連絡と情報交換により、きめ細かい指導を行います。
- (3) 授業以外における看護基礎技術のきめ細かい指導を行います。
- (4) 授業時間以外の基礎・成人看護学実習室の開放を行います。

3.教育課程

全学共通科目

■健康科学部開講科目

授業科目	単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	栄教一種免	保健師	備考
	必修	選択		1年		2年		3年		4年					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
人間形成科目	建学のこころ	1	講義									1			
	総合女性学	2	講義									2			
	キャリア入門	2	講義									2			
一般教育科目	哲学の方法	2	講義									2			
	心のしくみ	2	講義									2			
	文学の表現と鑑賞	2	講義									2			
	歴史に学ぶ	2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	国際事情	2	講義									2			
	日本国憲法	2	講義									2	◎	◎	健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年
	くらしの経済	2	講義									2			
	生活と地理	2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は1・2年
	数学の世界	2	講義									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	一般化学	2	講義									2			
	生命のしくみ	2	講義									2			
	生活の物理	2	講義									2			健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年
地球環境と人間	2	講義									2			健康栄養学科は1・2年 看護学科は1・2・4年	
初年次セミナー	2	講義									2				
芸術科目	音楽	1	演習									2			
	美術	1	演習									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
	書道	1	演習									2			健康栄養学科は2・3年 看護学科は2・4年
外国語科目	Basic English 1	1	演習									2	◎	◎	
	Basic English 2	1	演習									2	◎	◎	
	Advanced English 1	1	演習									2			
	Advanced English 2	1	演習									2			
	総合英語 A-1	1	演習									2	◎	◎	
	総合英語 A-2	1	演習									2	◎	◎	
	総合英語 B-1	1	演習									2			
	総合英語 B-2	1	演習									2			
	初級フランス語 1	1	演習									2			「初級フランス語 2」または「初級中国語 2」は、「初級フランス語 1」または「初級中国語 1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語 1」または「初級中国語 1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級中国語 2」は履修できません。
	初級フランス語 2	1	演習									2			「初級中国語 2」は履修できません。
	中級フランス語	1	演習									2			「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語 2」「初級中国語 2」の単位を修得していないと履修できません。
	初級中国語 1	1	演習									2			
初級中国語 2	1	演習									2				
中級中国語	1	演習									2				
情報・表現科目	情報処理演習 1	1	演習									2	◎	◎	看護学科は必修
	情報処理演習 2	1	演習									2	◎	◎	看護学科は必修
	日本語表現法 1	1	演習									2			
	日本語表現法 2	1	演習									2			
体育・健康科目	健康科学	2	講義									2			
	スポーツ 1	1	実技									2	◎	◎	
	スポーツ 2	1	実技									2	◎	◎	

(注) 1. 栄教教諭一種免許状、保健師国家試験受験資格(養護教諭二種免許状に必要な科目を含む)を取得するためには、◎印(必修)の単位を修得すること。

2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

健康栄養学科

(1)教育目的について

食と健康に関する専門知識と技能とともに、科学技術の進展やグローバル化に対応できる専門知識と技能を修得し、医療職とも連携できる管理栄養士の育成を目的とします。

(2)授業科目について

私たちの食生活の現状は、さまざまな食物を手に入れることができ、食の外部化とも相まって多様で豊かな食生活を営んでいるようにみえます。しかし、食物や栄養と健康に関する正しい知識が不十分なことにより、栄養のアンバランスを生み、生活習慣病をはじめとする慢性疾患の増加が問題となっています。また、少子化・超高齢化のなかで疾病構造は大きく変化してきています。「食と健康」の問題を解決することは社会的課題となっており、ますます食物・栄養分野の専門家の役割と重要度が高まると考えられます。

このように、健康をめざした「食」分野からの問題解決が求められている状況に対応して、健康栄養学科は次のことを教育のねらいとしています。

- (1) 食品の安全性、嗜好性、機能性など、食品に関する幅広い専門的知識を習得した食の専門家を養成します。
- (2) 小児、高齢者など各ライフステージにおいて、身体状況、栄養状態の改善のために計画、実践、評価ができる総合的能力を養い、地域保健に貢献できる人材を育成します。
- (3) 傷病者の病態の改善に、管理栄養士の立場からチーム医療の一員として貢献できる能力を養います。
- (4) 保健、医療、福祉活動のグローバル化に対応し、国際健康栄養演習(海外研修)を通して国際感覚豊かな管理栄養士の育成をめざします。

以上のような教育目標を達成するために、健康栄養学科では理論と実践の一体的な教育をめざしたカリキュラム編成をしています。

なお、指定の科目の単位を修得すれば、卒業と同時に栄養士免許証と管理栄養士免許取得のための国家試験受験資格が得られます。さらに、食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格が得られます。また、栄養教諭に関する専門科目や教育の基礎的理解に関する科目等の単位を修得すれば栄養教諭一種免許状が取得できます。

全学共通科目・基礎関連科目(健康科学部共通科目)

幅広い視野に立った豊かな人間性を育成し、専門科目の学修の基礎づくりをします。

専門科目

専門科目は専門基礎分野と専門分野に分かれています。専門基礎分野は健康と栄養・食物をめぐる諸問題を科学的に考えるために必要な知識を修得する科目群であり、専門分野は専門基礎知識に基づいて具体的な方法と技術を修得する科目群です。また、管理栄養士としての総合力を修得し、問題を解決する能力を高めるための総合科目群があります。

〔専門基礎分野〕

- * 学科基礎科目:化学や生物などの基礎的な科目について修得します。
- * 社会・環境と健康:社会や環境と健康の関わりについて理解します。
- * 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち:人体の構造や機能を系統的に理解した上で、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を学びます。

- * 食べ物と健康:食品の各種成分、加工、調理について学び、人体の栄養面や安全面などへの影響、衛生管理の方法、評価を理解します。

[専門分野]

- * 基礎栄養学:エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解します。
- * 応用栄養学:妊娠、成長、加齢などライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方や方法を理解します。
- * 栄養教育論:健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集と分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養い、対象に応じた栄養教育のあり方と方法を修得します。
- * 臨床栄養学:傷病者の病態や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法を修得します。
- * 公衆栄養学:地域における保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得します。
- * 給食経営管理論:給食運営や関連の資源を総合的に判断し、マネジメントを行う能力を養います。

[総合科目群]

- * 総合演習:管理栄養士として必要な専門分野の知識および技能について統合をはかります。
- * 臨地実習:医療機関、特定給食施設、保健所などの実践活動の場において、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識と技能を修得します。
- * 発展・応用科目:健康科学や口腔と健康に関するより専門的・実践的な知識を修得し、職能人としての能力を養います。また、「国際健康栄養演習(海外研修)」では海外における食と健康に関する課題や栄養士の活動状況について講義や見学などを通して学びます。
- * 学部・学科間連携科目:看護学科や医療科学部の専門科目において、本学科の教育目的と関連の深い内容の講義を選択できます。
- * 栄養教諭:栄養教諭の役割、食育の意義、食に関する教育の理論と方法について学ぶとともに、子どもの食をとりまくさまざまな課題の解決に取り組むことができる能力を養います。
- * 総合:「アカデミックスキルズ」は健康栄養に関する先端研究への理解を深めるために、卒業研究・卒業演習と連動させて文献検索、文献紹介、専門用語解説などの講義とともに論文を講読します。「健康栄養学特論」は専門基礎分野、専門分野の知識を統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養います。
- * 卒業研究・卒業演習:専門領域に関する研究を通して自己実現をはかることをめざします。

(3)教育課程について

健康栄養学科 専門科目

健康栄養学科

授 業 科 目		単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	履 修 コ ー ス		
		必 修	選 択		1年		2年		3年		4年			A	B	C
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
(学 部 共 通 科 目)	健 康 科 学 概 論	2		講義									2			
	基 礎 化 学 (有 機 化 学 を 含 む)	2		講義									2			
	基 礎 生 物 学	2		講義									2			
	情 報 処 理 概 論	2		講義									2			
	基 礎 統 計 処 理	2		講義									2			
科 学 科 基 礎	栄 養 の 基 礎 化 学 演 習	1		演習									2			
	栄 養 の 基 礎 生 物 学 演 習	1		演習									2			
	健 康 栄 養 学 基 礎 実 験	1		実験									3			
と 社 会 ・ 健 康 環 境	健 康 管 理 概 論	2		講義									2		○	
	公 衆 衛 生 学	2		講義									2	○	○	
	公 衆 衛 生 学 実 験	1		実験									3		○	
	社 会 福 祉 概 論	2		講義									2	○	○	
疾 人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 成 り 立 ち	解 剖 生 理 学 1	2		講義									2	○	○	
	解 剖 生 理 学 2	2		講義									2	○	○	
	解 剖 生 理 学 実 験	1		実験									3	○	○	
	構 造 生 化 学	2		講義									2	○	○	
	代 謝 生 化 学	2		講義									2		○	
	生 化 学 実 験	1		実験									3	○	○	
	運 動 生 理 学	2		講義									2		○	
	運 動 生 理 学 実 験	1		実験									3		○	
	病 態 と 治 療 の 基 礎	2		講義									2	○	○	
	病 態 と 治 療 (疾 病 論) 1	2		講義									2		○	
病 態 と 治 療 (疾 病 論) 2	2		講義									2		○		
食 べ 物 と 健 康	食 品 学 1	2		講義									2	○	○	
	食 品 学 2 (食 品 加 工 学 を 含 む)	2		講義									2	○	○	
	食 品 学 実 験 1	1		実験									3	○	○	
	食 品 学 実 験 2	1		実験									3		○	
	食 品 衛 生 学 (微 生 物 学 を 含 む)	2		講義									2	○	○	
	食 品 衛 生 学 実 験	1		実験									3	○	○	
	調 理 学	2		講義									2	○	○	
	調 理 学 実 習 1	1		実習									3	○	○	
	調 理 学 実 習 2	1		実習									3	○	○	
調 理 科 学 実 験	1		実験									3	○	○		
基 礎 栄 養 学	基 礎 栄 養 学	2		講義									2	○	○	
	基 礎 栄 養 学 実 験	1		実験									3	○	○	
応 用 栄 養 学	応 用 栄 養 学 1	2		講義									2	○	○	
	応 用 栄 養 学 2	2		講義									2	○	○	
	応 用 栄 養 学 3	2		講義									2		○	
	応 用 栄 養 学 実 習	1		実習									3	○	○	
栄 養 教 育 論	健 康 行 動 科 学	2		講義									2		○	
	栄 養 教 育 論	2		講義									2	○	○	
	栄 養 カ ウ ン セ リ ン グ 論	2		講義									2	○	○	
	栄 養 教 育 実 習	1		実習									3	○	○	

授 業 科 目		単位数 必 選 修 択		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	履 修 コ ー ス		
					1年		2年		3年		4年			A	B	C
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
臨床栄養学	臨床栄養学 1	2		講義								2	○	○		
	臨床栄養学 2	2		講義								2	○	○		
	臨床栄養学 3	2		講義								2		○		
	臨床栄養管理学	2		講義								2		○		
	臨床栄養学実習	1		実習								3	○	○		
	栄養ケアプロセス実習	1		実習								3		○		
公衆栄養学	公衆栄養学 1	2		講義								2	○	○		
	公衆栄養学 2	2		講義								2		○		
	公衆栄養学実習	1		実習								3		○		
給食経営管理論	給食経営管理論	2		講義								2	○	○		
	フードマーケティング論	2		講義								2		○		
	給食経営管理基礎実習	1		実習								3	○	○		
	給食経営管理応用実習	1		実習								3	○	○		
	食事管理計画演習	1		演習								2		○		
演習	臨地実習事前事後演習 1	1		演習								2		○		
	臨地実習事前事後演習 2	1		演習								2		○		
	健康栄養学総合演習	1		演習								2		○		
臨地実習	給食の運営	1		実習								-	○	○		
	臨床栄養学臨地実習 1	1		実習								-		★	管理栄養士国家試験受験資格取得には、3単位以上選択必修	
	臨床栄養学臨地実習 2	1		実習								-		★		
	公衆栄養学臨地実習	1		実習								-		★		
	給食経営管理臨地実習	1		実習								-		★		
発展・応用科目	健康科学	栄養管理学実習	1		実習							3				
		代謝栄養学	1		講義							1				
		分子生物学	1		講義							1				
		食品機能論	1		講義							1				
		薬理学	1		講義							1				
	健康と口腔とコミュニケーション	口腔健康科学・技術演習	1		演習								2			
		口腔機能障害学	1		講義								1			
		摂食嚥下リハビリテーション学・技術演習	1		演習								2			
		健康栄養のための英語基礎演習	1		演習								2			
		健康栄養のための英語応用演習	1		演習								2			
国際健康栄養演習(海外研修)	2		演習								4					
学部・学科間連携科目	看護	災害看護論	1		講義							1			2単位以上 選択必修	
		チーム医療連携論	1		講義							1				
		認知症看護援助論	1		講義							1				
	リハビリ	リハビリテーション概論	2		1	講義						1				
		健康増進と理学療法	1		1	講義						1				
		内部障害と作業療法	1		1	講義						1				
栄養教諭	栄養教諭概論	2		2	講義						2		○			
	学校栄養教育論	2		2	講義						2		○			
総合科目	アカデミックスキルズ	2		2	講義						2					
	健康栄養学特論	1		1	演習						2					
卒業	卒業演習	3		3	演習						-					
	卒業研究	6		6	演習						-					

(注) 1. A欄の○は栄養士免許取得に必要な専門科目。B欄の○は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な専門科目。★は選択必修科目。C欄の○は栄養教諭一種免許取得に必要な必修科目(4.免許・資格)の(1).教員免許状を参照。

2. 「給食の運営」・「臨床栄養学臨地実習 1」・「臨床栄養学臨地実習 2」・「公衆栄養学臨地実習」・「給食経営管理臨地実習」は、「臨地実習事前事後演習 1」を履修していないと履修できません。

3. 「健康栄養学総合演習」は、「健康栄養学特論」を履修していないと履修できません。

4. 「卒業研究」・「卒業演習」は、「アカデミックスキルズ」の単位を修得していないと履修できません。

5. 「卒業研究」・「卒業演習」は、いずれかを選択し履修すること。

〈健康栄養学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 食物学や栄養学を中心に幅広く学修し、管理栄養士に必要な資質を高め、基礎知識と応用力を身につけている。
②思考・判断・表現	②DP2 食物や栄養に関する事柄について、問題点を把握し解決するための思考力と判断力を身につけ、自分の考えや知識を正確に伝えることができる表現力がある。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 管理栄養士養成課程での学修を基に、常に研鑽を積み、新たな問題や課題に対して積極的に取り組み、責任ある行動や言動ができる。

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ			○	◎
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー		◎	○	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法1	T4	◎	○	
		HH0 0 54 L a 11 L	情報処理概論		◎	○	
		HH0 0 49 L a 01 L	健康科学概論		◎	○	
		HH0 0 43 L a 02 L	基礎化学(有機化学を含む)	E3	◎	○	
		HH0 0 43 E b 01 L	栄養の基礎化学演習		◎	○	
		HH0 0 46 E b 02 L	栄養の基礎生物学演習		◎	○	
		HH0 0 49 M b 03 L	健康栄養学基礎実験		○	◎	
		HH0 0 49 L c 11 L	健康管理概論	E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 L d 11 L	解剖生理学1	E1E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 L e 11 L	食品学1	E1E2E3	◎	○	
HH0 0 59 L e 21 L	調理学	E1E2E3	◎	○			
HH0 0 59 T e 22 L	調理学実習1	E1E2E3	◎	○	○		
1	2	UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情		◎	○	
		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済		◎	○	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学		◎	○	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		◎	○	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語1		◎	○	
		UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語1		◎	○	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1N2	◎	○	
UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○			
1	後期	UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	○	◎	
		UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法2	T4	○	◎	
		HH0 0 46 L a 03 L	基礎生物学		◎	○	
		HH0 0 49 L c 12 L	公衆衛生学	E1E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 L d 12 L	解剖生理学2	E1E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 L d 21 L	構造生化学	E1E2E3	○	◎	
		HH0 0 49 L e 12 L	食品学2(食品加工学を含む)	E1E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 M e 13 M	食品学実験1	E1E2E3	○	◎	
		HH0 0 59 T e 23 M	調理学実習2	E1E2E3	◎	○	
		HH0 0 49 L f 11 L	基礎栄養学	E1E2E3	◎	○	○
		HH0 0 49 M f 12 M	基礎栄養学実験	E1E2E3	○	◎	
		HH0 0 49 L h 11 L	健康行動科学	E2	◎	○	○
HH0 0 49 E k 11 M	食事管理計画演習	E2	○	◎			
HH0 0 49 E o 11 M	口腔健康科学・技術演習		◎	○			

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
1・2	後期	UA0	0	36	L	1	02	M	総合女性学		◎	○	
		UA0	0	36	L	1	03	L	キャリア入門		◎	○	
		UA0	0	14	L	2	02	L	心のしくみ		◎	○	
		UA0	0	32	L	2	06	L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0	0	42	L	2	12	L	生活の物理		◎	○	
		UA0	0	45	L	2	13	L	地球環境と人間		◎	○	
		UA0	0	85	E	4	10	L	初級フランス語 2		◎	○	
		UA0	0	82	E	4	13	L	初級中国語 2		◎	○	
		UA0	0	78	P	6	03	L	スポーツ 2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
2	前期	UA0	0	83	E	4	03	M	Advanced English 1		○	◎	
		UA0	0	83	E	4	07	M	総合英語 B-1		○	◎	
		HH0	0	49	M	c	13	M	公衆衛生学実験	E2	○	◎	○
		HH0	0	49	M	d	13	M	解剖生理学実験	E1E2E3	○	◎	○
		HH0	0	49	L	d	22	L	代謝生化学	E2	○	◎	
		HH0	0	49	M	d	23	M	生化学実験	E1E2E3	○	◎	
		HH0	0	49	L	g	11	L	応用栄養学 1	E1E2E3	◎	○	
		HH0	0	49	L	h	12	L	栄養教育論	E1E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	i	11	L	臨床栄養学 1	E1E2E3	○	◎	
		HH0	0	49	T	i	12	M	臨床栄養学実習	E1E2	○	◎	○
		HH0	0	49	L	j	11	L	公衆栄養学 1	E1E2E3	○	◎	
2・3		UA0	0	11	L	2	01	L	哲学の方法		◎	○	
		UA0	0	91	L	2	03	L	文学の表現と鑑賞		○	◎	
		UA0	0	29	L	2	08	L	生活と地理		◎	○	
		UA0	0	76	E	3	01	L	音楽		◎	○	
		UA0	0	85	E	4	11	M	中級フランス語		○	◎	
		UA0	0	82	E	4	14	M	中級中国語		○	◎	
2	後期	UA0	0	83	E	4	04	M	Advanced English 2		○	◎	
		UA0	0	83	E	4	08	M	総合英語 B-2		○	◎	
		HH0	0	36	L	c	14	L	社会福祉概論	E1E2	◎	○	
		HH0	0	49	L	d	31	L	病態と治療の基礎	E1E2	◎	○	
		HH0	0	49	L	e	31	L	食品衛生学(微生物学を含む)	E1E2E3	◎	○	
		HH0	0	49	L	g	12	L	応用栄養学 2	E1E2E3	○	◎	
		HH0	0	49	T	g	13	M	応用栄養学実習	E1E2	○	◎	
		HH0	0	49	T	h	13	M	栄養教育実習	E1E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	i	13	L	臨床栄養学 2	E1E2E3	○	◎	
		HH0	0	49	L	j	12	L	公衆栄養学 2	E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	k	12	L	給食経営管理論	E1E2E3	○	◎	○
		HH0	0	49	T	k	13	M	給食経営管理基礎実習	E1E2E3	◎	○	○
		HH0	0	49	E	l	11	H	臨地実習事前事後演習 1	E2	○	◎	○
		HH0	0	49	L	o	12	M	口腔機能障害学			◎	○
HH0	0	83	E	p	12	M	健康栄養のための英語応用演習		○	◎			
HH0	0	49	E	p	13	M	国際健康栄養演習(海外研修)		○	○	◎		
2・3		UA0	0	21	L	2	04	L	歴史に学ぶ		◎	○	
		UA0	0	41	L	2	09	L	数学の世界		◎	○	
		UA0	0	72	E	3	02	L	美術		◎	○	
		UA0	0	72	E	3	03	L	書道		◎	○	
3	前期	HH0	0	49	L	d	32	M	病態と治療(疾病論) 1	E2	○	◎	
		HH0	0	49	M	e	14	M	食品学実験 2	E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	g	14	M	応用栄養学 3	E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	h	14	M	栄養カウンセリング論	E1E2	○	◎	
		HH0	0	49	L	i	14	M	臨床栄養学 3	E2	○	◎	
		HH0	0	49	T	i	15	M	栄養ケアプロセス実習	E2	○	◎	○
		HH0	0	49	T	j	13	M	公衆栄養学実習	E2		◎	○
		HH0	0	49	L	k	14	M	フードマーケティング論	E2	○	◎	○
		HH0	0	49	T	k	15	M	給食経営管理応用実習	E1E2	○	◎	○
		HH0	0	49	E	o	13	M	摂食嚥下リハビリテーション学・技術演習			◎	○
		HH0	0	37	L	s	11	M	栄養教諭概論	T7	◎	○	○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③	
3	後期	HH0 0 41 L a 12 L	基礎統計処理		◎	○		
		HH0 0 49 L d 14 M	運動生理学	E2	◎	○		
		HH0 0 49 M d 15 M	運動生理学実験	E2	○	◎		
		HH0 0 49 L d 33 M	病態と治療(疾病論) 2	E2	○	◎		
		HH0 0 49 M e 32 M	食品衛生学実験	E1E2E3	○	◎		
		HH0 0 59 M e 24 M	調理科学実験	E1E2	○	◎	○	
		HH0 0 49 L i 16 M	臨床栄養管理学	E2		◎	○	
		HH0 0 49 T n 11 M	栄養管理学実習		○	◎	○	
		HH0 0 37 L s 12 M	学校栄養教育論	T7	○	◎	○	
	HH0 0 00 L t 01 M	アカデミックスキルズ		○	○	◎		
	通年	HH0 0 49 E l 12 H	臨地実習事前事後演習 2	E2	○	○	◎	
		HH0 0 49 T m 01 H	給食の運営	E1E2	○	○	◎	
		HH0 0 49 T m 02 H	臨床栄養学臨地実習 1	E2	○	○	◎	
		HH0 0 49 T m 03 H	臨床栄養学臨地実習 2	E2	○	○	◎	
		HH0 0 49 T m 04 H	公衆栄養学臨地実習	E2	○	○	◎	
		HH0 0 49 T m 05 H	給食経営管理臨地実習	E2	○	○	◎	
	4	前期	HH0 0 49 L n 12 M	代謝栄養学		○	◎	
			HH0 0 49 L n 13 M	分子生物学		○	◎	
HH0 0 49 L n 14 M			食品機能論		○	◎		
HH0 0 49 L n 15 M			薬理学		○	◎		
HH0 0 49 L n 16 M			食物とアレルギー		○	◎		
HH0 0 49 E t 11 M			健康栄養学特論		○	◎	○	
HH0 0 00 E v 01 H			卒業演習		○	○	◎	
後期		HH0 0 49 E t 12 M	健康栄養学総合演習	E2	○	◎	○	
通年	HH0 0 00 E u 01 H	卒業研究		○	○	◎		
3・4	後期	HH0 0 49 L q 01 M	災害看護論		○	◎	○	
		HH0 0 49 L q 02 M	チーム医療連携論		○	◎	○	
		HH0 0 49 L q 03 M	認知症看護援助論		○	◎	○	
		HH0 0 49 L r 01 M	リハビリテーション概論		○	◎	○	
		HH0 0 49 L r 02 M	健康増進と理学療法		○	◎	○	
		HH0 49 L r 03 M	内部障害と作業療法		○	◎	○	

〈健康栄養学科〉カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) *印の科目は、いずれかの学年で履修できる。(2) 科目名に記載の①②③は、①DDP1、②DDP2、③DDP3を示す。
- (3) 科目名に記載されているa・b・c・dは、資格必修科目を示す。必修科目の区分は、a:栄養士、b:管理栄養士、c:栄養教諭一種免許(以下に、教育の基礎的理解に関する科目等が必要)、d:食品衛生監視員等を示す。
- (4) 科目間の→は履修順序を示す(逆方向の履修は控える)。

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間形成	③ 建学のところ ① 国際事情* ① 一般化学* ① 生命のしくみ* ① 地球環境と人間*	① 総合女性学* ① キャリア入門* ① 日本国憲法* :c ① 生活の物理* ① 心のしくみ* ① 哲学の方法* ① 生活と地理* ① くらしの経済* ② 文学の表現と鑑賞*	① 国際事情* ① 一般化学* ① 生命のしくみ* ① 地球環境と人間*	① 総合女性学* ① キャリア入門* ① 日本国憲法* :c ① 生活の物理* ① 心のしくみ* ① 哲学の方法* ① 生活と地理* ① 歴史に学ぶ* ① 数学の世界*	① 哲学の方法* ① 生活と地理* ② 文学の表現と鑑賞*	① 歴史に学ぶ* ① 数学の世界*			人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・情報・表現・体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身につける。
全学共通科目	① 初年次セミナー		① 音楽*	① 書道* ① 美術*	① 音楽*	① 書道* ① 美術*			
外国語	① Basic English 1 :c ① 総合英語 A-1 :c → ② 総合英語 A-2 :c ① 初級フランス語 1 * → ① 初級フランス語 2 *	① Basic English 2 :c ① 総合英語 B-1 → ② 総合英語 B-2 ① 初級フランス語 1 * → ① 初級フランス語 2 *	② Advanced English 1 ② 総合英語 B-1 → ② 総合英語 B-2 ① 初級フランス語 1 * → ① 初級フランス語 2 *	② Advanced English 2 ② 総合英語 B-1 → ② 総合英語 B-2 ① 初級フランス語 1 * → ① 初級フランス語 2 *	② 中級フランス語* ② 中級中国語*	② 中級フランス語* ② 中級中国語*			
情報・表現・体育・健康	① 情報処理演習 1 :c ① 日本語表現法 1 ① 健康科学* ① スポーツ 1 * :c → ① スポーツ 2 * :c	① 情報処理演習 2 :c ② 日本語表現法 2 ① 健康科学* ① スポーツ 1 * :c → ① スポーツ 2 * :c	① 健康科学* ① スポーツ 1 * :c → ① スポーツ 2 * :c	① 健康科学* ① スポーツ 1 * :c → ① スポーツ 2 * :c					
専門科目分類	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	到達目標
基礎関連科目	① 健康科学概論 ① 基礎化学(有機化学を含む) :d ① 情報処理概論	① 基礎生物学							専門科目の学修で必要となる健康科学、生物や化学、情報に関する知識と技能を身につける。
学基礎科目	① 栄養の基礎化学演習 ① 栄養の基礎生物学演習 ② 健康栄養学基礎実験								
社会・環境と健康	① 健康管理概論 :bd → ① 解剖生理学 1 :abd → ② 解剖生理学 2 :abd → ② 構造生化学 :abd → ② 代調生化学 :b ② 生化学実験 :abd	① 公衆衛生学 :abd → ② 公衆衛生学実験 :b → ① 社会福祉概論 :ab	② 公衆衛生学実験 :b → ② 公衆衛生学(微生物学を含む) :abd	① 社会福祉概論 :ab		① 基礎統計処理			人間の健康を規定する要因としての社会・環境について学び、人々の健康増進とその規定要因を測定・評価する方法、健康の維持・増進や疾病予防に役立つ考え方やその取組について理解する。また、保健・医療・福祉制度や関係法規の概要についても学修する。
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	① 食品学 1 :abd → ② 食品学実験 1 :abd ① 調理学 :abd ① 調理学実習 1 : → ① 調理学実習 2 :abd	① 食品学 2 (食品加工学を含む) :abd ② 食品学実験 1 :abd ② 代調生化学 :b ② 生化学実験 :abd	② 食品学実験 2 : b ② 食品衛生学(微生物学を含む) :abd	① 運動生理学 :b ② 運動生理学実験 :b ② 病態と治療(疾病論) :1:b ② 病態と治療(疾病論) :2:b	① 運動生理学 :b ② 運動生理学実験 :b			人体の様々な器官の構造と機能について、細胞や分子のレベルまで理解した上で、疾病の成り立ちを学修する。	
食べ物と健康									生育・生産・調理・加工・保存における食品成分の変化、食べ物のおいしさや栄養、健康に及ぼす影響を理解する。また、食品の安全確保のための理論と技能を修得する。

基礎栄養学	①基礎栄養学:abd ②基礎栄養学実験:ab						栄養の種類、消化・吸収、機能に関する基礎知識を修得し、健康の維持・増進における栄養の役割を理解する。
応用栄養学	①応用栄養学1:abd ②応用栄養学2:abd ③応用栄養学3:ab	②応用栄養学3:b	②応用栄養学3:b				日本人の食事摂取基準、各ライフステージの生理的特徴を理解し、対象に適した栄養管理のあり方を修得する。また、運動時、特殊環境、災害時などの生理的変化に基づく栄養活動とそのマネジメント能力を修得する。
栄養教育論	①健康行動科学:b ②栄養教育論:ab	②栄養教育実習:ab	②栄養カウンセリング論:ab				対象者の健康の維持・増進、傷病の回復、QOLの向上を目的に、対象(個人および集団)に応じた栄養教育計画の立案、実施と評価の方法を理解し、教育的的手法を用いた栄養教育マネジメント能力を修得する。様々な疾病及び症候とその原因について理解を深め、対応する栄養管理法の知識と実践を学ぶ。
臨床栄養学	①臨床栄養学1:abd ②臨床栄養学実習:ab	②臨床栄養学2:abd	②臨床栄養学3:b ②栄養ケアプロセス実習:b	②臨床栄養学管理学:b			集団または個人を対象に、健康の維持・増進、疾病予防における栄養課題を科学的に明確化し、それらの解決策について学修する。
公衆栄養学	②公衆栄養学1:abd ③公衆栄養学2:b	②公衆栄養学2:b	②公衆栄養学実習:b				給食運営とそれに関連する資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を修得する。
給食経営管理論	②食事管理計画演習:b	②給食経営管理論:abd ①給食経営管理基礎実習:abd	②フードマナーケータインング論:b ②給食経営管理応用実習:ab				集団または個人を対象に、健康の維持・増進、疾病予防における栄養課題を科学的に明確化し、それらの解決策について学修する。
総合演習① (臨地実習事前事後演習)		②臨地実習事前事後演習1:b	③臨地実習事前事後演習2:b				臨地実習の目的や目標を理解した上で、各種実習施設の概要、業務内容を学修し実習に備える。
臨地実習			③給食の運営:ab ③臨床栄養学臨地実習1:b ③臨床栄養学臨地実習2:b ③公衆栄養学臨地実習:b ③給食経営管理臨地実習:b				各種実習施設での実感活動における課題発見、解決の学びを通じて、管理栄養士として必要な知識と技術を統合的に修得する。
健康科学 発展・応用 科目	①口腔健康科学・技術演習	②口腔機能障害学	②口腔機能障害学 ②健康栄養のための英語応用演習 ③国際健康栄養演習(海外研修)	②代謝栄養学 ②分子生物学 ②食品機能論 ②薬理学 ②食物とアレルギー			健康科学に関するより専門的、実践的な知識を修得し、医療ならびに商品開発や教育・研究分野における管理栄養士として活躍できる思考力と判断力を養う。
看護 学 前 置 開 講 演 習 科目		②災害看護論* ②チーム医療連携論* ②認知症看護援助論*	②災害看護論* ②チーム医療連携論* ②認知症看護援助論*				口腔と嚥下に關わる口腔機能の理解を深め、「食べること」に關する理論と援助法を修得する。 国内外の多岐にわたる健康・栄養問題を理解し、国際的な視野をもって活躍できる管理栄養士を目指す。また、英語による自己表現能力を高め、コミュニケーション能力を養う。
リハビリテーション		②リハビリテーション ②健康増進と理学療法* ②内部障害と作業療法*	②リハビリテーション ②健康増進と理学療法* ②内部障害と作業療法*				看護学科や医療科学部の専門科目を履修することで、在宅医療や地域医療で管理栄養士として活躍するために必要な思考力や判断力を養う。
栄養教育論		①栄養教育論:c	①栄養教育論:c				栄養教育論の役割と職務を理解し、児童・生徒の食に関する様々な問題を解決するために必要な知識と実践力を身につける。
総合演習② 総合科目		③アカデミックスキルズ	③アカデミックスキルズ				管理栄養士として科学的根拠に基づいた総合的な判断力、実践力を身につける。
卒業研究 卒業演習			③卒業研究	③卒業演習			研究テーマに関して、主体的に探究する能力と研究結果を公表する能力を身につける。

D.P① 知識・技能

D.P② 思考・判断・表現

D.P③ 主体性・多様性・協働性

D.Pの科目別目標はカリキュラムマップを参照

看護学科

(1)教育目的について

健康栄養学科との連携・融合のメリットを活かした高い教養、高い専門知識とともに、豊かな感性・高い倫理観を有し、多職種協働のもと“身近に寄り添い・行き届く看護”を実践できる人材の育成を目的とします。

(2)授業科目について

健康科学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)は、学園訓である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。

看護学科においては、健康科学についての基本的な認識を土台として、看護の職務を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置、女性として活きたコミュニケーション能力をもち、専門職域のリーダーとして社会貢献のできる人材を育てるための教育課程を編成しています。

【全学共通科目(必修8科目、選択33科目:講義18科目、演習21科目、実技2科目)】

大学での学びの導入として、初年次セミナー(全学共通科目)を1年次において履修し、学ぶための姿勢と、総合的に“人”“生活”“科学”“看護”を捉え多元的なケアを担う基礎を育て、学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚をめざします。また、学士力育成を目指し、人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう配置しています。

【学部共通科目(必修1科目、選択4科目:講義5科目)】

理論と実践の一体的な専門教育をめざしたカリキュラムの一環として、健康栄養学科との連携のもと学部共通科目(基礎関連科目)を設置します。「健康科学概論(必修)」では、両学科の教員によるオムニバスの講義として、共通の基盤となる知識を講義するとともに、両学科が目指す医療人としての将来像を共有します。

【看護基礎科目(必修20科目、選択3科目:講義20科目、講義(演習含む)2科目、演習1科目)】

専門基礎分野群は、「健康と食」「健康と心」「健康と支援」の健康を主軸とした3領域と、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復促進」の計5領域で構成します。専門基礎分野の知識を活用しながら、専門分野を学修する上で欠くことのできない基礎的知識と崇高なヒューマニティを形成し、医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を身に付けることをねらいとした科目を配当しています。看護学科の特色としては、口腔機能が全身に与える影響(特に認知機能やストレス反応、脂質代謝、運動機能など)を理解し、口腔機能維持を目的とした口腔ケアを実践するための基礎的知識を習得する科目として「健康と食」の領域に「口腔健康管理学」を位置づけています。

【専門科目】

対象の如何にかかわらず、医療機関・在宅や地域社会の様々な場において必要とされる保健・看護活動に必要な看護知識と技術を学びます。地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を視点におき、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を学修します。

- ① 基礎看護学(必修10科目:講義3科目、講義(演習含む)1科目、演習4科目、実習2科目)
1年次から専門科目を開講し、学年進行とともに看護学の4つのメタパラダイム概念を関連させながら単純から複雑に、かつ看護学の対象である人間の成長・発達、療養環境に応じた看護を拡大しながら学修できるように科目を配置し、看護学の理解と技術の修得をめざしています。看護学演習科目は、最新の機器類を備えた学内環境での、対象者の健康状態・生活状態を適切に把握する技術や看護実践過程の具体的展開を行い、また、LTD(Learning Through Discussion:話し合い学習法)による思考中心の学習法を取り入れ、学生の人間関係を保つ力をも育成します。
- ② 地域・在宅看護学(必修7科目:講義3科目、演習2科目、実習2科目)では、在宅看護の歴史や社会的背景、法制度を理解したうえで、在宅看護の目的や療養者やその家族の特徴を理解するための基礎的な知識を学びます。在宅で過ごす療養者が疾病を抱えながらも、その人らしい生き方を続けていくために、求められている看護の役割について学修します。
- ③ 成人看護学(必修7科目:講義3科目、演習2科目、実習2科目)
青年期から向老期にあたる幅広い年代の『成人期を生きる人々』を対象とした看護を探求します。看護の対象には、健康な人から終末期にある人まで、あらゆる病期、あらゆる場で暮らす人が含まれます。急性・慢性看護学においては、急性的、慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、生涯にわたって生活習慣や生活様式の調整・再構築を必要としている人とその家族の特徴について学びます。
- ④ 小児看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)
変化する社会の中で成長・発達する子どもとその特徴を理解し、子どもの健やかな成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を全人的に学びます。子どもの基本的人権を守り、小児が一人の人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援の在り方を学びます。
- ⑤ 母性看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)
母性看護の概念・理念、リプロダクティブヘルス/ライツの概念、セクシャリティーの概念を明確にします。また、ウイメンズヘルスの視点から、ライフサイクル各期の健康上の特徴、生涯にわたる健康の維持・増進、健康問題を学ぶとともに、必要な母性看護の役割・支援について理解するとともに、母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状、関係法規、周産期医療の現状について学びます。
- ⑥ 老年看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)
老年期における身体的特徴、社会的背景および価値観などを全人的に理解します。また、老いを生きるとはどのようなことなのか、健やかに老い、その人らしい暮らしへの看護について学修します。さらに、高齢者への福祉対策の動向とその課題を通して、在宅・施設におけるケアと家族介護者への支援について学修します。
- ⑦ 精神看護学(必修4科目:講義1科目、演習2科目、実習1科目)
精神疾患や精神障がいを持ちながら病院・地域で生活する人々の全体像を理解し、個別性を重視した効果的な看護を提供するための実際を学びます。対象者と関係を築きながら、対象者となる人のその苦悩や生活のしづらさなどを深く理解し、精神看護が対象者との信頼関係や相互作用を基盤に進んでいくことをふまえながら、セルフケア能力の維持・向上を目指して看護を展開します。

⑧ 看護の統合と実践(必修7科目、選択5科目:講義10科目、演習1科目、実習1科目)

専門性が高く、個々の医療に対し臨機応変に対応・解決しなければならない能力を育むために、「医療安全」「災害看護論」「看護管理」を必修科目として履修します。また、看護を実践する際に浮上する問題点を多方面からアプローチし、方法論のゴールを見出すことができる能力を養う科目として「看護学研究方法論」「看護学研究ゼミナール(卒論)」「健康科学特論」を配置します。さらに、「チーム医療連携論」「家族看護論」「緩和ケア論」「認知症看護援助論」の4科目は、将来を見据えた学問として、選択科目に掲げています。

⑨ 学科間連携科目(選択3科目中2科目履修:講義3科目)

健康栄養学科との連携を活かして、看護の領域においてその修得が強みとなるように、ライフステージ別の栄養ケア、マネジメントと、臨床における栄養管理法について健康栄養学科の教員による講義を配置します。これらの講義を通じて、乳児の離乳食から高齢者の嚥下食に至る、望ましい食のあり方と、疾患別治療食の知識の理解を深めます。

看護学科 学科間連携科目一覧

学 科	授業科目	授業形態	単位数
健康栄養学科	臨床栄養学	講義	1単位
	ライフステージ栄養学1	講義	1単位
	ライフステージ栄養学2	講義	1単位

⑩ 公衆衛生看護学(選択10科目:講義4科目、演習4科目、実習2科目)

公衆衛生看護学は、保健師の活動ならびに公衆衛生活動を理解する科目として「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」「公衆衛生看護活動展開論Ⅱ」「公衆衛生看護援助論Ⅰ」「公衆衛生看護援助論Ⅱ」「公衆衛生看護援助論Ⅲ」「公衆衛生看護援助論Ⅳ」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」の科目を設定します。

公衆衛生看護学では、地域で生活する様々な健康レベル、発達段階にある人々が、自らの健康課題・問題を捉え、主体的に解決し、生活者として行動できるように援助していく視点を養います。地域で生活する人々を対象として展開される公衆衛生看護活動に必要な基礎的知識を習得します。対象の特性別に根拠となる動向、法・制度、社会資源、健康課題の解決方法などを理解し、特に、現代社会における主要な健康課題・問題について住民を対象とした地域づくりを目指した支援方法を具体的に考え、理解を深めます。

(3) 3年次への進級要件について

2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとします。

(4)教育課程について

看護学科 専門科目

授 業 科 目		単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	履 修 コー ス	
		必 修	選 択		1 年		2 年		3 年		4 年			看 護 師	保 健 師
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
学部共通科目	健康科学概論	2		講義	■							2	○	○	
	基礎化学(有機化学を含む)		2	講義		■						2	△	△	
	基礎生物学		2	講義		■						2	△	△	
	情報処理概論		2	講義		■						2	△	△	
	基礎統計処理		2	講義		■						2	△	○	
看護基礎科目	健康と食														
	口腔健康管理学	2		講義	■							2	○	○	
	栄養学(生化学を含む)	2		講義		■						2	○	○	
	食と健康	2		講義		■						2	○	○	
	栄養教育論	1		演習			■					2	○	○	
	健康と心														
	人間関係論	2		講義	■							2	○	○	
	コミュニケーション論	2		講義	■							2	○	○	
	臨床心理学	2		講義		■						2	○	○	
	健康と支援		2												
生活と環境	2		講義	■							2				
女性の健康科学	1		講義		■						1	○	○		
社会福祉	2		講義		■						2	○	○		
公衆衛生学	2		講義		■						2	○	○		
保健統計学	2		講義			■					2	○	○		
疫学		2	講義				■				2		○		
医療関係法	1		講義		■						1	○	○		
保健医療福祉行政論		3	講義				■				3		○		
看護科目	人体の構造と機能														
	人体構造・人体機能学Ⅰ	2		講義	■							4	○	○	演習含む
	人体構造・人体機能学Ⅱ	2		講義		■						4	○	○	演習含む
	病理/感染症学	2		講義		■						2	○	○	
	臨床薬理学	2		講義		■						2	○	○	
	病態と治療(疾病論)Ⅰ	2		講義		■						2	○	○	
	循環・呼吸・消化	2		講義		■						2	○	○	
	病態と治療(疾病論)Ⅱ	2		講義		■						2	○	○	
	腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血	2		講義		■						2	○	○	
	病態と治療(疾病論)Ⅲ	2		講義		■						2	○	○	
脳神経・運動・リハ・放射	2		講義		■						2	○	○		
病態と治療(疾病論)Ⅳ	2		講義		■						2	○	○		
産婦・小児・精神	2		講義		■						2	○	○		
看護専門科目	看護学概論	2		講義	■							2	○	○	
	看護倫理・生命倫理Ⅰ	1		講義		■						1	○	○	
	看護倫理・生命倫理Ⅱ	1		講義			■					1	○	○	
	フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)	1		演習		■						2	○	○	
	看護過程	2		講義		■						2	○	○	演習含む
	基礎看護技術演習Ⅰ	1		演習	■							2	○	○	
	基礎看護技術	1		演習		■						2	○	○	
	基礎看護技術演習Ⅱ	2		演習		■						4	○	○	
	日常生活援助技術	2		演習		■						4	○	○	
	基礎看護技術演習Ⅲ	1		演習		■						2	○	○	
診療援助技術	1		演習		■						2	○	○		
基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	■							-	○	○		
基礎看護学実習Ⅱ	3		実習		■						-	○	○		
地域・在宅看護学	地域看護学概論	1		講義		■						1	○	○	
	保健行動論	1		講義		■						1	○	○	
	在宅看護概論	2		講義		■						2	○	○	
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1		演習			■					2	○	○	
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1		演習			■					2	○	○	
	地域ふれあい実習	1		実習		■						-	○	○	
地域・在宅看護実習	3		実習			■					-	○	○		

看護学科

専	門	科	目	授業科目	単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	履修コース	
					必修	選択		1年		2年		3年		4年			看護師	保健師
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専	成人看護学	科	目	成人看護学概論	2		講義							2	○	○		
				成人慢性期看護援助論Ⅰ	2		講義							2	○	○		
				成人慢性期看護援助論Ⅱ	1		演習							2	○	○		
				成人急性期看護援助論Ⅰ	2		講義							2	○	○		
				成人急性期看護援助論Ⅱ	1		演習							2	○	○		
				成人慢性期看護学実習	2		実習							-	○	○		
				成人急性期看護学実習	2		実習							-	○	○		
	小児看護学	科	目	小児看護学概論	2		講義							2	○	○		
				小児看護援助論Ⅰ	1		演習						2	○	○			
				小児看護援助論Ⅱ	1		演習						2	○	○			
				小児看護学実習	2		実習						-	○	○			
	母性看護学	科	目	母性看護学概論	2		講義							2	○	○		
				母性看護援助論Ⅰ	1		演習						2	○	○			
				母性看護援助論Ⅱ	1		演習						2	○	○			
				母性看護学実習	2		実習						-	○	○			
	老年看護学	科	目	老年看護学概論	2		講義							2	○	○		
				老年看護援助論Ⅰ	1		演習						2	○	○			
				老年看護援助論Ⅱ	1		演習						2	○	○			
				老年看護学実習	2		実習						-	○	○			
	精神看護学	科	目	精神看護学概論	2		講義							2	○	○		
				精神看護援助論Ⅰ	1		演習						2	○	○			
				精神看護援助論Ⅱ	1		演習						2	○	○			
				精神看護学実習	2		実習						-	○	○			
	看護の統合と実践	科	目	看護管理	1		講義							1	○	○		
				医療安全	1		講義						1	○	○			
				緩和ケア論	1		講義						1					
				災害看護論	1		講義						1	○	○			
				国際看護論	1		講義						1					
				認知症看護援助論	1		講義						1		○			
				家族看護論	1		講義						1					
チーム医療連携論				1		講義						1						
看護学研究方法論				1		講義						1	○	○				
看護学研究ゼミナル(卒論)				2		演習						2	○	○				
健康科学特論	1		講義						1	○	○							
看護の統合と実践実習	3		実習						-	○	○							
連携科目	科	目	臨床栄養学	1		講義							1	☆	☆			
			ライフステージ栄養学1	1		講義						1	☆	☆				
			ライフステージ栄養学2	1		講義						1	☆	☆				
公衆衛生看護学	科	目	公衆衛生看護学概論	2		講義							2		○			
			公衆衛生看護管理論	2		講義						2		○				
			公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	2		講義						2		○				
			公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	2		講義						2		○				
			公衆衛生看護援助論Ⅰ	2		演習						2		○				
			公衆衛生看護援助論Ⅱ	2		演習						2		○				
			公衆衛生看護援助論Ⅲ	2		演習						2		○				
			公衆衛生看護援助論Ⅳ	2		演習						2		○				
			公衆衛生看護実習Ⅰ	3		実習						-		○				
			公衆衛生看護実習Ⅱ	2		実習						-		○				

看護学科

(注) 1. 履修コース欄の○は「看護師国家試験受験資格」「保健師国家試験受験資格(養護教諭二種免許状に必要な科目を含む)」それぞれの取得に必要な必修科目。△印は選択科目。☆印は選択必修科目。
 2. 2年次後期までに配当された必修科目の単位がすべて修得できない場合は、3年次への進級を「不可」とし、2年次に原級留め置きとする。

〈看護学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 看護に必要な基礎的知識を身につけ、看護分野における専門的知識・技術を広く学修することができる。
②思考・判断・表現	②DP2 科学的思考力のもと、効果的に看護を実践するため、人々の健康に関する課題を把握し、問題を解決するための思考力と判断力を身につけ、自分の考えを表現する能力を身につけることができる。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 保健・医療・福祉・看護に関する総合的な視野をもち、専門的知識や技術を獲得するために主体的に学修を続け、多面的な観点から問題に取り組み、保健医療チームの中で協働することができる。

	①DP1	②DP2	③DP3
1 年 次	初年次セミナー, 国際事情, 暮らしの経済, 生活と地理, 一般化学, 生命のしくみ, 生活の物理, 生活と環境, 地球環境と人間, Basic English 1, Basic English 2, 総合英語A-1, 情報処理演習 1, 情報処理演習 2, 日本語表現法 1, 日本語表現法 2, 健康科学, スポーツ 1, スポーツ 2, 健康科学概論, 情報処理概論, 口腔健康管理学, 基礎統計処理, 基礎化学(有機化学を含む), 基礎生物学, 人体構造・人体機能学 I, 人体構造・人体機能学 II, 病理/感染症学, 臨床薬理学, 栄養学(生化学を含む), 女性の健康科学	総合女性学, キャリア入門, 心のしくみ, 日本国憲法, 総合英語 A-2, 初級フランス語 1, 初級フランス語 2, 初級中国語 1, 初級中国語 2, 人間関係論, コミュニケーション論, 看護学概論, 基礎看護技術演習 I (基礎看護技術), 医療関係学, 看護倫理・生命倫理 I, フィジカルアセスメント(看護生理学を含む), 基礎看護技術演習 II (日常生活援助技術), 地域看護学概論, 老年看護学概論	建学のこころ, 基礎看護学実習 I, 地域ふれあい実習
2 年 次	歴史に学ぶ, 数学の世界, 美術, 書道, 哲学の方法, 基礎看護技術演習 III (診療援助技術), 保健統計学, 成人慢性期看護援助論 I, 成人急性期看護援助論 I, 小児看護援助論 I, 母性看護援助論 I, 老年看護援助論 I, 精神看護援助論 I, 在宅看護概論, ライフステージ栄養学 1, ライフステージ栄養学 2, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学活動展開論 I, 老年看護援助論 II	文学の表現と鑑賞, 音楽, Advanced English 1, Advanced English 2, 総合英語 B-1, 総合英語 B-2, 中級フランス語, 中級中国語 食と健康, 臨床心理学, 社会福祉, 公衆衛生学, 病態と治療(疾病論) I, 病態と治療(疾病論) II, 病態と治療(疾病論) III, 病態と治療(疾病論) IV, 看護過程, 保健行動論, 成人看護学概論, 小児看護学概論, 母性看護学概論, 精神看護学概論, 栄養教育論	基礎看護学実習 II
3 年 次	疫学, 地域・在宅看護援助論 I, 緩和ケア論, 認知症看護援助論, 臨床栄養学	保健医療福祉行政論, 地域・在宅看護援助論 II, 成人慢性期看護援助論 II, 成人急性期看護援助論 II, 小児看護援助論 II, 母性看護援助論 II, 精神看護援助論 II, 看護管理, 医療安全, 看護学研究方法論, 公衆衛生看護学活動展開論 II, 公衆衛生看護援助論 I, 公衆衛生看護援助論 II	成人慢性期看護学実習, 成人急性期看護学実習, 老年看護学実習, 小児看護学実習, 精神看護学実習, 母性看護学実習
4 年 次	災害看護論, 公衆衛生看護管理論, 国際看護論, 家族看護論, チーム医療連携論	公衆衛生看護援助論 III, 公衆衛生看護援助論 IV, 看護倫理・生命倫理 II	(母性看護学実習), 地域・在宅看護実習, 健康科学特論, 看護の統合と実践実習, 看護学研究ゼミナール(卒論), 公衆衛生看護実習 I, 公衆衛生看護実習 II

看護学科

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前 期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ			○	◎
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー		◎	○	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語 A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習 1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法 1	T4	◎	○	
		HNO 0 49 L a 03 L	健康科学概論	N1N2	◎	○	
		HNO 0 49 L b 01 L	口腔健康管理学	N1N2	◎	○	
		HNO 0 36 L c 11 L	人間関係論	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L c 21 L	コミュニケーション論	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 51 L d 01 L	生活と環境		◎	○	
		HNO 0 49 L e 01 L	人体構造・人体機能学 I	N1N2	◎	○	
		HNO 0 49 L g 01 L	看護学概論	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E g 11 L	基礎看護技術演習 I 基礎看護技術	N1N2	◎	◎	○
HNO 0 49 T g 21 H	基礎看護学実習 I	N1N2	○	◎	◎		
1 (2)		UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情		◎		○
		UA0 0 33 L 2 07 L	暮らしの経済		◎		○
		UA0 0 29 L 2 08 L	生活と地理		◎	○	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学		◎	○	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		◎	○	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語 1		○	◎	
		UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語 1		○	◎	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1	◎	○	
UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ 1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○			

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
1	後期	UA0	0	83	E	4	02	L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0	0	83	E	4	06	L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	○	◎	
		UA0	0	54	E	5	02	L	情報処理演習2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
		UA0	0	81	E	5	04	L	日本語表現法2	T4	◎	○	
		HN0	0	43	L	a	05	L	基礎化学(有機化学を含む)	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	b	11	L	栄養学(生化学を含む)	N1N2	◎	○	
		HN0	0	46	L	a	06	L	基礎生物学	N1N2	◎	○	
		HN0	0	54	L	a	01	L	情報処理概論	N1N2	◎	○	
		HN0	0	41	L	a	02	L	基礎統計処理	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	d	02	L	医療関係法	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	d	03	L	女性の健康科学	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	e	02	L	人体構造・人体機能学II	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	f	01	L	病理/感染症学	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	f	02	L	臨床薬理学	N1N2	◎	○	
		HN0	0	49	L	g	31	L	看護倫理・生命倫理I	N1N2	◎	◎	
		HN0	0	49	E	g	03	L	フィジカルアセスメント(看護生理学を含む)	N1N2	◎	◎	
		HN0	0	49	E	g	12	L	基礎看護技術演習II 日常生活援助技術	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	L	n	11	L	地域看護学概論	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	T	n	12	H	地域ふれあい実習	N1N2	○	◎	◎
HN0	0	49	L	j	11	L	老年看護学概論	N1N2	◎	◎	○		
1・2		UA0	0	36	L	1	03	L	キャリア入門		○	◎	○
		UA0	0	36	L	1	02	M	総合女性学		○	◎	
		UA0	0	14	L	2	02	L	心のしくみ		○	◎	
		UA0	0	85	E	4	10	L	初級フランス語2		○	◎	
		UA0	0	82	E	4	13	L	初級中国語2		○	◎	
		UA0	0	78	P	6	03	L	スポーツ2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	
1・2・4		UA0	0	32	L	2	06	L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7	○	◎	
		UA0	0	42	L	2	12	L	生活の物理		◎	○	
		UA0	0	45	L	2	13	L	地球環境と人間		◎	○	
2	前期	UA0	0	83	E	4	03	M	Advanced English 1		○	◎	
		UA0	0	83	E	4	07	M	総合英語B-1		○	◎	
		HN0	0	49	L	b	12	L	食と健康	N1N2	○	◎	
		HN0	0	14	L	c	12	L	臨床心理学	N1N2	○	◎	○
		HN0	0	36	L	d	04	L	社会福祉	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	d	05	L	公衆衛生学	N1N2	○	◎	
		HN0	0	20	L	f	03	L	病態と治療(疾病論)I 循環・呼吸・消化	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	f	04	L	病態と治療(疾病論)II 腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	f	05	L	病態と治療(疾病論)III 脳神経・運動・リハ・放射	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	f	06	L	病態と治療(疾病論)IV 産婦・小児・精神	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	g	04	L	看護過程	N1N2	○	◎	○
		HN0	0	49	E	g	13	L	基礎看護技術演習III 診療援助技術	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	L	n	1	M	保健行動論	N1N2	○	◎	
		HN0	0	49	L	h	11	L	成人看護学概論	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	L	i	11	L	小児看護学概論	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	L	i	21	L	母性看護学概論	N1N2	◎	◎	○
		HN0	0	49	E	j	12	L	老年看護援助論I	N1N2	○	◎	
HN0	0	49	L	j	21	L	精神看護学概論	N1N2	◎	◎	○		
2・3		UA0	0	11	L	2	01	L	哲学の方法		◎	○	
		UA0	0	91	L	2	03	L	文学の表現と鑑賞		○	◎	
		UA0	0	76	E	3	01	L	音楽		○	◎	
		UA0	0	85	E	4	11	M	中級フランス語		○	◎	
		UA0	0	82	E	4	14	M	中級中国語		○	◎	

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
2	後期	UA0 0 83 E 4 04 M	Advanced English 2		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 08 M	総合英語B-2		○	◎	
		HNO 0 49 E b 13 L	栄養教育論	N1N2	○	◎	
		HNO 0 49 L d 06 L	保健統計学	N1N2	◎	○	
		HNO 0 49 T g 22 H	基礎看護学実習Ⅱ	N1N2	○	◎	◎
		HNO 0 49 L n 13 L	在宅看護概論	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L h 12 L	成人慢性期看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L h 21 L	成人急性期看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E i 12 L	小児看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E i 22 L	母性看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E j 13 L	老年看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E j 22 L	精神看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L l 02 L	ライフステージ栄養学Ⅰ	N1N2	◎	○	
		HNO 0 49 L l 03 L	ライフステージ栄養学Ⅱ	N1N2	◎	○	
		HNO 0 49 L m 11 L	公衆衛生看護学概論	N2	◎	◎	○
HNO 0 49 E m 21 L	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	N2	◎	◎	○		
2・4		UA0 0 21 L 2 04 L	歴史に学ぶ		◎	○	
		UA0 0 41 L 2 09 L	数学の世界		◎	○	
		UA0 0 72 E 3 02 L	美術		◎	○	
		UA0 0 72 E 3 03 L	書道		◎	○	
3	前期	HNO 0 49 L d 11 L	疫学	N2	◎	○	
		HNO 0 49 L d 08 L	保健医療福祉行政論	N2	○	◎	
		HNO 0 49 E n 14 L	地域・在宅看護援助論Ⅰ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E n 15 L	地域・在宅看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 T h 13 L	成人慢性期看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L h 22 L	成人急性期看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E i 13 L	小児看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E i 23 L	母性看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E j 23 L	精神看護援助論Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L k 01 L	看護管理	N1N2	○	◎	
		HNO 0 49 L k 02 L	医療安全	N1N2	◎	◎	
		HNO 0 49 L k 03 M	緩和ケア論		◎	○	
		HNO 0 49 L k 06 M	認知症看護援助論		◎	○	○
		HNO 0 49 L k 21 L	看護学研究方法論	N1N2	○	◎	
	HNO 0 49 L l 11 L	臨床栄養学	N1N2	◎	○		
	HNO 0 49 E m 22 L	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	N2	◎	◎	○	
	HNO 0 49 E m 31 L	公衆衛生看護援助論Ⅰ	N2	◎	◎	○	
	HNO 0 49 E m 32 M	公衆衛生看護援助論Ⅱ	N2	◎	◎	○	
後期	HNO 0 49 T h 14 H	成人慢性期看護学実習	N1N2	○	◎	◎	
	HNO 0 49 T h 23 H	成人急性期看護学実習	N1N2	○	◎	◎	
	HNO 0 49 T j 14 H	老年看護学実習	N1N2	○	◎	◎	
	HNO 0 49 T i 14 H	小児看護学実習	N1N2	○	◎	◎	
	HNO 0 49 T j 24 H	精神看護学実習	N1N2	○	◎	◎	
3・4	後期/前期	HNO 0 49 T i 24 H	母性看護学実習	N1N2	○	◎	◎
4	前期	HNO 0 49 T n 16 H	地域・在宅看護実習	N1N2	○	◎	◎
		HNO 0 49 L k 04 M	災害看護論	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L k 10 M	健康科学特論	N1N2	○	◎	◎
		HNO 0 49 L m 12 L	公衆衛生看護管理論	N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E m 23 L	公衆衛生看護援助論Ⅲ	N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 E m 24 L	公衆衛生看護援助論Ⅳ	N2	◎	◎	○
	後期	HNO 0 49 T k 11 H	看護の統合と実践実習	N1N2	○	◎	◎
		HNO 0 49 L g 32 M	看護倫理・生命倫理Ⅱ	N1N2	◎	◎	○
		HNO 0 49 L k 07 M	家族看護論		◎	○	
		HNO 0 49 L k 08 M	チーム医療連携論		◎	○	○
	通年	HNO 0 49 L k 05 M	国際看護論		◎	○	
		HNO 0 00 E k 22 H	看護学研究ゼミナール(卒論)	N1N2	○	◎	◎
HNO 0 49 T m 16 H	公衆衛生看護実習Ⅰ	N2	○	◎	◎		
HNO 0 49 T m 17 H	公衆衛生看護実習Ⅱ	N2	○	◎	◎		

〈看護学科〉カリキュラムツリー

ツリーの見方

- (1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。
- (2) 科目名に記載の①②③は、①:DP1、②:DP2、③:DP3を示す。
- (3) 科目名に記載されているa・b・cは資格関連必修科目を示す。必修科目の区分は、a:看護師国家試験、b:保健師国家試験、c:養護教諭二種免許を示す(a・b区分の科目も必修)。
- (4) 科目間の→は履修順序を示す。

科目分類	1 年		2 年		3 年		4 年		到達目標		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間形成	②③建学のころゝa ①②③キャリア入門* ①②③初年次セミナーa	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ*	①②哲学の方法* ①②文学の表現と鑑賞* ①③国際事情* ①③くらしの経済* ①②生活と地理* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②哲学の方法* ①②文学の表現と鑑賞* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康科目から、幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付けている。		
全学共通科目	①②国際事情* ①③くらしの経済* ①②生活と地理* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*	①②日本国憲法*・bc ①③くらしの経済* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ*	①②哲学の方法* ①②文学の表現と鑑賞* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②総合女性学* ①②③キャリア入門* ①②心のしくみ* ①③国際事情* ①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①③数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②一般化学* ①②生命のしくみ* ①②音楽*	①②歴史に学ぶ* ①②日本国憲法*・bc ①②数学の世界* ①②生活と地理* ①②地球環境と人間* ①②美術* ①②書道*	
基礎	①②健康科学概念:ab ①②基礎生物学 ①②情報処理概念 ①②基礎統計処理:bc	①②健康科学概念:ab ①②基礎生物学 ①②情報処理概念 ①②基礎統計処理:bc	①②健康科学* ①②スポーツ1*・bc ①②スポーツ2*・bc	専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技術を身に付けている。							
学級共通	①②口腔健康管理学:ab ①②人間関係論:ab ①②コミュニケーション論:ab ①②生活と環境	①②栄養学(生化学含む):ab ①②人間関係論:ab ①②医療関係法:ab ①②女性の健康科学:ab	①②食と健康:ab ①②臨床心理学:ab ①②社会福祉:ab ①②公衆衛生学:ab	①②栄養教育論:ab ①②保健医療福祉行政論:b ①②疫学:b	人間の健康について、心理面・栄養面的側面からの理解、ヒトとして共通する身体・実体の生物学的存在としての側面を理解するために必要な知識を修得すると共に、個別な社会関係の中で営まれる生活過程において形成される生活体として、取り巻く社会環境からの影響を受けて存在する人間を包括的に理解する。						
看護基礎	①②人体構造・人体機能学I:ab ①②病理学I:ab ①②臨床薬理学:ab	①②人体構造・人体機能学II:ab ①②病理学II:ab ①②臨床薬理学:ab	①②病態と治療(疾病論I:ab) ①②循環・呼吸・消化 ①②病態と治療(疾病論II:ab) ①②腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血 ①②病態と治療(疾病論III:ab) ①②神経・運動・リハ・放射 ①②病態と治療(疾病論IV:ab) 産婦・小児・精神								
科目	①②人体構造・人体機能学I:ab ①②病理学I:ab ①②臨床薬理学:ab	①②人体構造・人体機能学II:ab ①②病理学II:ab ①②臨床薬理学:ab	①②病態と治療(疾病論I:ab) ①②循環・呼吸・消化 ①②病態と治療(疾病論II:ab) ①②腎・泌尿器・内分泌・代謝・造血 ①②病態と治療(疾病論III:ab) ①②神経・運動・リハ・放射 ①②病態と治療(疾病論IV:ab) 産婦・小児・精神								

教育の基礎的理解に関する科目等

授 業 科 目	単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考
	必 修	選 択		1 年		2 年		3 年		4 年			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
A		2	講義	■								2	
		2	講義		■							2	
		2	講義			■						2	
		2	講義			■						2	
		2	講義			■						2	
		2	講義				■					2	
		2	講義	■								2	
B		2	講義			■						2	
		2	講義					■				2	
		2	講義					■				2	
		2	講義				■					2	
		2	講義		■							2	
		2	講義				■					2	
C		1	講義						■			1	
		1	実習							■		(2)	
		2	演習								■	4	

教育の基礎的理解
に関する科目等

(注) 1. A 欄は「教育の基礎的理解に関する科目」

B 欄は「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」

C 欄は「教育実践に関する科目」

※教育の基礎的理解に関する科目等の修得方法はP 5 7を参照すること。

※教育の基礎的理解に関する科目等は卒業に必要な単位に含めない。

(注) 2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

(注) 3. 授業時間数に()が記してある科目は学外実習であることを示す。

健康科学部 教育の基礎的理解に関する科目等)カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 教職に関する幅広い基礎知識と技能および、栄養の専門的知識と技能を有し、授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
②思考・判断・表現	②DP2 学校現場等で生じている問題や地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができ、理論と実践を結びつけることができる。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができ、対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができる。

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	HT0 0 37 L V 01 L	教育原理	T7	○	◎	◎
		HT0 1 37 L V 07 L	教育課程論	T7	◎	○	
	後期	HT0 2 37 L V 02 L	教育史	T7	◎		
2	前期	HT0 3 37 L V 12 L	生徒指導論	T7	○	◎	
		HT0 4 37 L V 05 L	教育心理学	T7	◎	○	
		HT0 5 37 L V 04 L	教育制度論	T7	◎	○	
	HT0 6 37 L V 08 L	道徳の指導法	T7	◎		○	
	後期	HT0 7 37 L V 03 L	教師論	T7		◎	○
3	前期	HT0 8 37 L V 11 L	教育の方法と技術 (ICTの活用を含む)	T7	◎	○	
		HT0 9 37 L V 13 L	教育相談(カウンセリングを含む)	T7	◎	○	
	特別活動の指導法	T7	◎		○		
	特別支援教育論	T7		◎	○		
	総合的な学習の時間の指導法	T7	◎	○	○		
	後期	HT0 12 37 L V 10 L	栄養教諭教育実習指導	T7		○	◎
4	前期	HT0 13 37 L V 14 H	栄養教諭教育実習	T7		○	◎
	後期	HT0 14 37 T V 15 H	栄養教諭教育実習	T7		○	◎
	後期	HT0 15 37 E V 16 H	教職実践演習(栄養教諭)	T7	○	○	◎

健康科学部 教育の基礎的理解に関する科目等)カリキュラムツリー

ツリーの見方

科目間の→は履修順序を示す(逆方向の履修は控える)。

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	教育史	教育心理学 教育制度論	教師論	特別支援教育論				<ul style="list-style-type: none"> ◇教職の意義や教員の役割について理解し、教員の職務内容についての知識を身に付けている。 ◇特別な支援を要する児童・生徒への教育理論を修得する。 ◇教育の理念・歴史・思想について理解し、児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての理論を修得する。 ◇教育課程の意義や編成の方法、教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する知識を身に付けている。
	教育課程論								
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		生徒指導論	道徳の指導法	教育の方法と技術 (ICTの活用を含む)	特別活動の指導法	総合的な学習の時間の指導法			<ul style="list-style-type: none"> ◇道徳・特別活動・総合的な学習の時間についての指導法や情報機器及び教材の活用についての技術を身に付けている。 ◇生徒指導及び教育相談についての理論や方法を身に付けている。
				教育相談 (カウンセリングを含む)					
教育実践に関する科目							栄養教諭 教育実習		<ul style="list-style-type: none"> ◇教育実習において教員として必要な実践的な技術を修得するとともに、教職実践演習において教職についての知識・技術の補完と統合を行い、教員として必要な最低限の資質を身に付けている。

4.免許・資格

(1)教員免許状

〔1〕健康科学部(健康栄養学科)で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

学 科	免 許 状 の 種 類
健 康 栄 養 学 科	栄養教諭一種免許状

〔2〕教員免許状を取得するためには、基礎資格(下表)を有し、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。(56ページ、表1)

2) 法により栄養教諭は「栄養に係る教育に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」がそれぞれ規定されています。(下表)

履修方法を表2-1以降に掲載していますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。

免 許 状 の 種 類	基 礎 資 格	専 門 科 目 の 最 低 修 得 単 位 数	
		栄 養 に 係 る 教 育 に 関 す る 科 目	教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目 等
栄 養 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を有すること、かつ、管理栄養士養成施設の課程を修了し、栄養士の免許を受けていること。	4	18

(注) この表で示しているのは、法規上の最低修得単位数です。本学で必要とする単位数は57ページの各表に示してあります。

〔3〕教育実習の履修について

栄養教諭の教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」(1単位)と「事前及び事後の指導」(1単位)が必要です。

事前及び事後の指導の授業科目として、「栄養教諭教育実習指導」を開講しています。その授業内容は次のとおりです。

1. 事前指導

- (1) 実習の内容及び心得等
- (2) 実習記録の書き方
- (3) 学習指導案の作成
- (4) 模擬授業の実施

2. 事後指導

- (1) 実習報告会
- (2) 実習体験レポート提出

教育実習校の決定後はその変更はできません。また「教育の基礎的理解に関する科目等」が4単位以上不合格の場合は、実習が認められないことがあります。

実習にあたっては、本学及び実習校の指示に従わなくてはなりません。もしもその指示に反した場合には、実習を中止させられることがあります。教育実習を履修する学生は、教育実習に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

〔4〕教員免許状の授与申請について

栄養教諭の教員免許状は、本学で一括して申請し、栄養士免許証の取得後に渡します。申請に必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

所要資格の取得には、免許状の種類にかかわらず、表1に掲げる科目及び単位数を修得しなければなりません。

(表1)

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		開設授業科目	単位数		配当学年	備考
科目	単位数		必	選		
日本国憲法	2	日本国憲法	2		1・2年	
体育	2	スポーツ1 スポーツ2	1 1		1・2年 1・2年	
外国語コミュニケーション	2	Basic English 1 Basic English 2 総合英語A-1 総合英語A-2	1 1 1 1		1年 1年 1年 1年	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理演習1 情報処理演習2	1 1		1年 1年	
備考	各科目区分における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。					

〔栄養に係る教育に関する科目〕

健康栄養学科

栄教一種免

(表2-1)

免許法施行規則に定める科目区分等		栄養教諭一種免許状				
各科目に含める必要事項	単位数	開設授業科目	単位数		配当学年	備考
			必	選		
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	2単位	栄養教諭概論	2		3年	
・食に関する指導の方法に関する事項	2単位	学校栄養教育論	2		3年	
合 計	4単位					

〔教育の基礎的理解に関する科目等〕

健康栄養学科

栄教一種免

(表2-2)

免許法施行規則に定める科目区分等			栄養教諭一種免許状				
科目	各科目に含める必要事項	単位数	開設授業科目	単位数		配当学年	備考
				必	選		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8単位	教育原理史	2	2	1年 1年	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論	2		2年	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2		2年	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		2年	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2		3年	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2		1年	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容	6単位	道徳の指導法	2		2年	
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		特別活動の指導法	2		3年	
	生徒指導の理論及び方法		総合的な学習の時間の指導法	2		3年	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育の方法と技術(ICTの活用を含む)	2		2年	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2単位	生徒指導論	2		1年	
	教職実践演習		教育相談(カウンセリングを含む)	2		2年	
	栄養教諭教育実習指導		1		3年		
	栄養教諭教育実習		1		4年		
	教職実践演習(栄養教諭)		2		4年		
合 計		18単位	必修を含めて28単位以上修得のこと。				

教員免許状

(2) 管理栄養士(健康栄養学科)

1) 管理栄養士になるために

健康栄養学科においては栄養士免許証取得に必要な専門科目を修得すれば卒業と同時に栄養士免許が得られます。また、管理栄養士国家試験受験資格を取得するために必要な専門科目をすべて修得すると、「管理栄養士国家試験」が受験できます。(60ページ参照)

2) 管理栄養士の臨地実習

健康栄養学科において管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、「給食の運営」1単位ならびに「臨床栄養学臨地実習1」、「臨床栄養学臨地実習2」、「公衆栄養学臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」のうち3単位以上を修得しなければなりません。実習施設は医療機関、福祉施設、事業所、小学校、保健所、保健センターなどです。

臨地実習(「給食の運営」を除く)の履修には、原則として1～2年次の管理栄養士国家試験受験資格取得に必要なすべての専門科目の単位修得が必要です。ただし、単位未修得科目が3科目以内の場合は試験を行い、教授会の審議を経て臨地実習の履修を認める場合があります。「公衆栄養学臨地実習」の履修には「公衆衛生学」「公衆衛生学実験」「公衆栄養学1」「公衆栄養学2」の単位修得が必要です。また、臨地実習を履修するためには、それに必要な諸経費を所定の期間内に納める必要があります。

実習中は実習施設の指導者の指示にしたがって実習を行います。

栄養士免許証取得に必要な専門科目

栄養士法施行規則に定める科目区分		本学における開設科目	単位数	配当学年
必修科目	社会生活と健康	公衆衛生学	2	1年
		社会福祉概論	2	2年
	人体の構造と機能	解剖生理学 1	2	1年
		解剖生理学 2	2	1年
		解剖生理学実験	1	2年
		構造生化学	2	1年
		生化学実験	1	2年
		病態と治療の基礎	2	2年
	食品と衛生	食品学 1	2	1年
		食品学 2 (食品加工学を含む)	2	1年
食品学実験 1		1	1年	
食品衛生学 (微生物学を含む)		2	2年	
食品衛生学実験		1	3年	
栄養と健康	基礎栄養学	2	1年	
	基礎栄養学実験	1	1年	
	応用栄養学 1	2	2年	
	応用栄養学 2	2	2年	
	応用栄養学実習	1	2年	
	臨床栄養学 1	2	2年	
	臨床栄養学 2	2	2年	
	臨床栄養学実習	1	2年	
栄養の指導	栄養教育論	2	2年	
	栄養カウンセリング論	2	3年	
	栄養教育実習	1	2年	
	公衆栄養学	2	2年	
給食の運営	調理実習学	2	1年	
	調理実習 1	1	1年	
	調理実習 2	1	1年	
	調理科学実験	1	3年	
	給食経営管理論	2	2年	
	給食経営管理基礎実習	1	2年	
	給食経営管理応用実習	1	3年	
	給食の運営	1	3年	
合計	33科目	52単位		

管理栄養士国家試験受験資格を取得するために必要な専門科目

管理栄養士

栄養士法施行規則に定める科目区分		本学における開設科目	単位数	配当学年
必	社会・環境と健康	健康管理概論	2	1年
		公衆衛生学実験論	2	1年
修	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2	1年
		解剖生理学実験	2	1年
		解剖生理学実験	1	2年
		生化学	2	1年
		生化学実験	2	2年
		生化学実験	1	2年
		運動生理学	2	3年
		運動生理学実験	1	3年
		病態と治療の基礎	2	2年
		病態と治療(疾病論)	1	2年
		病態と治療(疾病論)	2	3年
		科	食べ物と健康	食品学1
食品学2(食品加工学を含む)	2			1年
食品学実験	1			1年
食品学実験	2			1年
食品衛生学(微生物学を含む)	2			3年
食品衛生学実験	2			2年
食品衛生学実験	1			3年
調理学実習	2			1年
調理学実習	1			1年
調理学実習	2			1年
調理学実習	1			3年
目	基礎栄養学			基礎栄養学実験
		基礎栄養学実験	1	1年
	応用栄養学	応用栄養学	2	2年
		応用栄養学	2	2年
		応用栄養学実習	2	3年
	栄養教育論	健康行動科学論	2	1年
		栄養カウンセリング論	2	2年
		栄養教育実習	2	3年
	臨床栄養学	臨床栄養学	1	2年
		臨床栄養学	2	2年
		臨床栄養学	2	3年
		臨床栄養学実習	2	3年
公衆栄養学	公衆栄養学	1	2年	
	公衆栄養学	2	2年	
	公衆栄養学実習	2	3年	
	公衆栄養学実習	1	3年	
給食経営管理論	給食経営管理論	2	2年	
	給食経営管理論	2	3年	
	給食経営管理基礎実習	1	2年	
	給食経営管理応用実習	1	3年	
総合演習	給食管理計画演習	1	1年	
	臨床栄養学総合演習	1	2年	
	健康栄養学総合演習	1	3年	
臨床実習	臨床栄養学実習	1	4年	
	臨床栄養学実習	1	3年	
	公衆栄養学実習	1	3年	
	給食経営管理実習	1	3年	
合計		56科目	86単位	

(3) 食品衛生監視員および食品衛生管理者(健康栄養学科)

健康栄養学科においては、食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格が得られます。そのためには、下記の「食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格を得るために必要な科目」について、40単位全てを修得しなければなりません。

食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格を得るために必要な科目

養成施設指定科目区分	本学における開設科目	単位数	配当学年
A群：化学関係	基礎化学（有機化学を含む）	2	1年
B群：生物化学関係	構造生化学	2	1年
	生化学実験	1	2年
	解剖生理学1	2	1年
	解剖生理学2	2	1年
	解剖生理学実験	1	2年
	食品学1	2	1年
	食品学2（食品加工学を含む）	2	1年
	食品学実験1	1	1年
C群：微生物学関係	食品衛生学（微生物学を含む）	2	2年
	食品衛生学実験	1	3年
D群：公衆衛生学関係	公衆衛生学	2	1年
	給食経営管理論	2	2年
	給食経営管理基礎実習	1	2年
E群：その他の関連科目	基礎栄養学	2	1年
	応用栄養学1	2	2年
	応用栄養学2	2	2年
	臨床栄養学1	2	2年
	臨床栄養学2	2	2年
	公衆栄養学1	2	2年
	健康管理概論	2	1年
	調理学	2	1年
	調理学実習1	1	1年
合計	23科目	40単位	

履修モデル(管理栄養士国家試験受験資格取得)

		1 年 次				2 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期	
全学 共通 科目	人間形成科目	○建学のこころ*	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2						
		一般化学	2					日本国憲法	2
	芸術科目								
	情報・表現科目	情報処理演習1	1	情報処理演習2	1				
	体育・健康科目	スポーツ1	1	スポーツ2	1				
外国語科目	○Basic English1	1	○Basic English2	1	Advanced English1	1	Advanced English2	1	
	○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1	
基礎関連科目 (学部共通科目)	○健康科学概論	2							
	○基礎化学(有機化学を含む)	2	基礎生物学	2					
	情報処理概論	2							
学科基礎科目	栄養の基礎化学演習	1							
	栄養の基礎生物学演習	1							
	○健康栄養学基礎実験	1							
社会・環境と健康	○健康管理概論	2	○公衆衛生学	2	公衆衛生学実験	1	社会福祉概論	2	
人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	○解剖生理学1	2	○解剖生理学2	2	○解剖生理学実験	1			
			○構造生化学	2	代謝生化学	2			
食べ物と健康	○食品学1	2	○食品学2(食品加工学を含む)	2			○病態と治療の基礎	2	
	○調理学	2	○食品学実験1	1			○食品衛生学(微生物学を含む)	2	
	○調理学実習1	1	○調理学実習2	1					
基礎栄養学			○基礎栄養学	2					
			基礎栄養学実験	1					
応用栄養学					○応用栄養学1	2	○応用栄養学2	2	
							応用栄養学実習	1	
栄養教育論			健康行動科学	2	○栄養教育論	2	栄養教育実習	1	
臨床栄養学					○臨床栄養学1	2	○臨床栄養学2	2	
					○臨床栄養学実習	1			
公衆栄養学					○公衆栄養学1	2	公衆栄養学2	2	
給食経営管理論							○給食経営管理論	2	
総合演習			食事管理計画演習	1			○給食経営管理基礎実習	1	
							臨地実習事前事後演習1	1	
臨地実習									
発展・応用科目	健康科学								
口腔と健康			口腔健康科学・技術演習	1			口腔機能障害学	1	
グローバル コミュニケーション					健康栄養のための英語基礎演習	1	健康栄養のための英語応用演習	1	
							国際健康栄養演習(海外研修)	2	
栄養教諭									
総合科目									
卒業研究									
卒業演習									
学部学科間連携科目	看護								
リハビリテーション									
取得単位数	27		23		17		26		
上限単位数	49				48				

*建学のこころ1単位は上限単位数から除外

(4) 看護師(看護学科)

1) 看護師とは

保健師助産師看護師法の第5条において「看護師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」と定められています。看護師は、医療、保健、福祉などの場において、他職種との連携を図り、専門的な知識、技術に基づいて病気や障がいを持つ人々の療養上の世話や診療の補助を行います。また医療チームの一員として、対象者の方々の身体と心の両面をサポートし、すべての健康レベルの人々に対応した健康と福祉に貢献できることをめざします。

2) 看護師になるためには

看護師免許(国家資格)を取得するためには、厚生労働省が所管する「看護師国家試験」に合格し、資格を取る必要があります。これは、保健師助産師看護師法の第7条において「看護師になろうとする者は、看護師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。看護師国家試験の受験資格は、文部科学大臣の指定した学校教育法に基づく大学などにおいて看護師になるために必要な科目を修めて卒業した者に与えられます。看護学科では所定の125単位を修得することによって、看護師国家試験の受験資格を得ることができます。

看護師コース

科目区分	資格取得要件
全学共通科目	必修9単位を含む13単位以上履修
学部共通科目	必修2単位を含む2単位以上を履修
看護基礎科目	必修37単位以上を履修
専門科目	必修71単位と学科間連携科目2単位以上を履修
卒業要件単位数	125単位以上

3) 看護師の臨地実習

臨地実習施設は医療機関のみならず、在宅、福祉施設(医療福祉センター、心身障がい者施設、老人保健施設)も含み、障がいをもつ子ども(人)とその家族の特徴を理解し、個別性のある生活・看護を学びます。また、医療機関においては、地域医療連携の実際、その部署におけるチーム運営の実際、情報共有や情報保護の実際、生活支援に応えるチームワーク(チームケアカンファレンスなど)の実際を体験することにより、看護専門職としての自己のあり方を省察します。

(5)保健師(看護学科)

1)保健師とは

保健師とは、保健師助産師看護師法の第2条において「厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて保健指導に従事することを業とする者」と定められています。保健師は地域で生活している人たちの健康保持・増進に向けた支援を行い、予防や衛生等の活動を行う仕事です。健康な人も病気を持っている人も全ての人を対象にし、乳幼児から高齢者まで幅広い世代と関わり、健康増進や生活の質の向上をサポートします。保健師は、主に都道府県や市町村の保健所・保健センターなどで行政職として従事する行政保健師、企業などで産業保健スタッフとして勤務する産業保健師、学校などで学生や教職員の心身の健康保持に努める学校保健師に大きく区分されます。

2)保健師資格を取得するには

保健師の資格は、保健師国家試験および看護師国家試験に合格することで得ることができます。保健師国家試験を受験するためには、文部科学大臣の指定した学校などにおいて必要な科目を修める必要があります。保健師国家試験受験資格取得希望者は、あらかじめ第1年次に開講される「日本国憲法」「スポーツ1」「スポーツ2」「基礎統計処理」と、第2年次に開講される「保健統計学」を選択し、単位を修得しておくことが必要です。看護学科における保健師コースは1学年12名程度とし、第2年次の後期に選抜します。

保健師コースの卒業要件

科目区分	資格取得要件
全学共通科目	必修11単位を含む13単位以上履修
学部共通科目	必修4単位以上を履修
看護基礎科目	必修42単位以上を履修
専門科目	必修93単位と学科間連携科目2単位以上を履修
卒業要件単位数	154単位以上

3)保健師の臨地実習

第4年次に「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」を履修します。「公衆衛生看護実習Ⅰ」においては、地域で生活している人々の健康水準とQOL(Quality Of Life)の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を学びます。「公衆衛生看護実習Ⅱ」では、産業保健活動・学校保健活動が展開される場において、各看護活動の特徴や役割を学びます。また、これら臨地実習に必要な実習費は自己負担とし、所定の期間内に納めなければなりません。

4)保健師コース学生選抜について

看護学科において保健師コースを選択できる学生は12名程度となっており、第2年次の後期に選抜試験を実施します。この12名は、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目(表1)を修得している条件を満たした希望者のうち、第2年次終了時までの必修専門科目のGPAと小論文、面接評価の上位者から選抜します。第1年次・第2年次にガイダンスを行い、第2年次1月末頃に志願票提出、3月中旬に選抜、3月下旬に合格者の決定とガイダンスを予定しています。第3年次前期より公衆衛生看護学に関する選択科目を履修し、第4年次に公衆衛生看護実習を履修します。

(表1)保健師国家試験受験に必要な選択すべき科目

科目区分	授業科目の名称	開講時期
全学共通科目	日本国憲法 2単位	1年後期
	スポーツ1 1単位	1年前期
	スポーツ2 1単位	1年後期
学部共通科目	基礎統計処理 2単位	1年後期
看護基礎科目	保健統計学 2単位	2年後期

5) 養護教諭二種免許状の取得について

教育職員免許法別表第2の規定により、保健師免許を基礎資格として養護教諭二種免許状の授与を受けることができます。保健師免許取得後、各都道府県の教育委員会へ個人申請を行うことで養護教諭二種免許状を取得することができます。そのためには、第1～2年次で、「日本国憲法」の2単位、「スポーツ1・2」の2単位、「Basic English 1・2」と「総合英語A-1・A-2」のうち2単位、「情報処理演習1・2」の2単位を修得しておく必要があります。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		開設授業科目	単位数	配当学年	備考
科目	単位数				
日本国憲法	2	日本国憲法	2	1・2・4年	
体育	2	スポーツ1	1	1・2年	
		スポーツ2	1	1・2年	
外国語コミュニケーション	2	Basic English 1	1	1年	
		Basic English 2	1	1年	
		総合英語A-1	1	1年	
		総合英語A-2	1	1年	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理演習1	1	1年	
		情報処理演習2	1	1年	
備考	各科目区分における開設科目をそれぞれ2単位以上修得すること。				

6) 第1種衛生管理者免許の取得について

保健師免許取得後、各都道府県の労働基準局に個人申請を行うことにより、衛生管理者(第1種)を取得することができます。

労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業者では、衛生管理者免許を有する者のうちから、労働者数に応じ一定数以上の衛生管理者を選任することが義務付けられています。

7) 保健師に従事することにより取得できる資格

- ・健康運動指導士：健康・体力づくり事業財団が実施する講習会受講後受験
- ・健康運動実践指導者：健康運動実践指導者養成校での養成講座受講後、健康運動実践指導者認定試験受験(健康運動実践指導者台帳に登録)
- ・介護支援専門員：介護支援専門員実務研修受講後受験(5年以上の実務経験)

履修モデル(看護師コース)

		1年次				2年次			
		前期		後期		前期		後期	
全学 共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	心のしくみ	2				
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1
	情報・表現科目	○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
		○情報処理演習1	1	○情報処理演習2	1				
体育・健康科目	日本語表現法1	1							
学部 共通科目	基礎関連科目	○健康科学概論	2	情報処理概論	2				
				基礎統計処理	2				
看護 基礎 科目	健康と食	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2	○栄養教育論	1
	健康と心	○人間関係論	2			○臨床心理学	2		
		○コミュニケーション論	2						
	健康生活と支援			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2	○保健統計学	2
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2		
	人体の構造と機能	○人体構造・人体機能学I	2						
				○人体構造・人体機能学II	2				
	疾病の成り立ちと回復促進			○病理/感染症学	2	○病態と治療I	2		
				○臨床薬理学	2	○病態と治療II	2		
						○病態と治療III	2		
					○病態と治療IV	2			
専門 科目	基礎看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理I	1	○看護過程	2	○基礎看護学実習II	3
		○基礎看護技術演習I (基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習II (日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習III (診療援助技術)	1		
		○基礎看護学実習I	1	○フィジカルアセスメント	1				
	成人看護学					○成人看護学概論	2		
								○成人慢性期看護援助論I	2
								○成人急性期看護援助論I	2
	小児看護学					○小児看護学概論	2		
								○小児看護援助論I	1
	母性看護学					○母性看護学概論	2		
								○母性看護援助論I	1
老年看護学			○老年看護学概論	2	○老年看護援助論I	1	○老年看護援助論II	1	
精神看護学					○精神看護学概論	2			
							○精神看護援助論I	1	
地域・在宅看護学			○地域看護学概論	1	○保健行動論	1	○在宅看護概論	2	
			○地域ふれあい実習	1					
看護の統合と実践									
学科間連携科目							ライフステージ栄養学1	1	
							ライフステージ栄養学2	1	
取得単位数		21		27		30		19	

履修モデル
(看護師コース)

3年次				4年次				取得単位数
前期		後期		前期		後期		
								1
								4
								0
								6
								3
								0
								6
								7
								6
								8
								4
								12
						○看護倫理・生命倫理II	1	15
								12
○成人慢性期看護援助論II	1	○成人慢性期看護学実習	2					12
○成人急性期看護援助論II	1	○成人急性期看護学実習	2					
		○小児看護学実習	2					6
○小児看護援助論II	1							
		○母性看護学実習	2					6
○母性看護援助論II	1							
		○老年看護学実習	2					6
		○精神看護学実習	2					6
○精神看護援助論II	1							
○地域・在宅看護援助論I	1			○地域・在宅看護実習	3			10
○地域・在宅看護援助論II	1							
○看護管理	1			○看護学研究ゼミナール(卒論)			2	
○医療安全	1			○看護の統合と実践実習	3	家族看護論	1	
緩和ケア論	1			○健康科学特論	1	チーム医療連携論	1	15
○看護学研究方法論	1			○災害看護論	1	国際看護論	1	
認知症看護援助論	1							
臨床栄養学	1							3
13		12		8		6		136

履修モデル(保健師コース)

		1年次				2年次			
		前期		後期		前期		後期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	◎日本国憲法	2				
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1				
	情報・表現科目	○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
	体育・健康科目	○情報処理演習 1	1	○情報処理演習 2	1				
学部共通科目	基礎関連科目	◎スポーツ 1	1	◎スポーツ 2	1				
		健康科学	2						
看護基礎科目	健康と食	○健康科学概論	2	◎基礎統計処理	2				
	健康と心	○口腔健康管理学	2	○栄養学(生化学含む)	2	○食と健康	2		○栄養教育論 1
	健康生活と支援	○人間関係論	2			○臨床心理学	2		
		○コミュニケーション論	2						
	人体の構造と機能			○女性の健康科学	1	○社会福祉	2		
				○医療関係法	1	○公衆衛生学	2		○保健統計学 2
疾病の成り立ちと回復促進	○人体構造・人体機能学 I	2							
専門科目	基礎看護学			○人体構造・人体機能学 II	2				
				○病理/感染症学	2	○病態と治療 I	2		
				○臨床薬理学	2	○病態と治療 II	2		
	成人看護学	○看護学概論	2	○看護倫理・生命倫理 I	1	○看護過程	2	○基礎看護学実習 II	3
		○基礎看護技術演習 I (基礎看護技術)	1	○基礎看護技術演習 II (日常生活援助技術)	2	○基礎看護技術演習 III (診療援助技術)	1		
	小児看護学	○基礎看護学実習 I	1	○フィジカルアセスメント	1				
						○成人看護学概論	2		○成人慢性期看護援助論 I 2 ○成人急性期看護援助論 I 2
	母性看護学								
	老年看護学					○小児看護学概論	2		○小児看護援助論 I 1
	精神看護学					○母性看護学概論	2		○母性看護援助論 I 1
	地域・在宅看護学			○老年看護学概論	2	○老年看護援助論 I	1	○老年看護援助論 II	1
						○精神看護学概論	2		
	看護の統合と実践			○地域看護学概論	1	○保健行動論	1	○精神看護援助論 I	1
				○地域ふれあい実習	1			○在宅看護概論	2
学科間連携科目									
公衆衛生看護学									
取得単位数		23		26		29		22	

看護師国家試験受験資格 必修=○

保健師国家試験受験資格 必修=◎

養護教諭二種免許状 必修=○,◎

3年次				4年次				取得単位数
前期		後期		前期		後期		
								1
								4
								0
								4
								2
								4
								4
								7
								6
◎疫学	2							13
◎保健医療福祉行政論	3							
								4
								12
								15
						○看護倫理・生命倫理II	1	
○成人慢性期看護援助論II	1	○成人慢性期看護学実習	2					12
○成人急性期看護援助論II	1	○成人急性期看護学実習	2					
		○小児看護学実習	2					6
○小児看護援助論II	1							6
		○母性看護学実習	2					
○母性看護援助論II	1							6
		○老年看護学実習	2					6
○精神看護援助論II	1	○精神看護学実習	2					
								6
○地域・在宅看護援助論I	1			○地域・在宅看護実習	3			10
○地域・在宅看護援助論II	1							
○看護管理	1					○看護学研究ゼミナール(卒論)	2	15
○医療安全	1			○看護の統合と実践実習	3	家族看護論	1	
緩和ケア論	1			○健康科学特論	1	チーム医療連携論	1	
○看護学研究方法論	1			○災害看護論	1	国際看護論	1	
◎認知症看護援助論	1							
臨床栄養学	1							3
				◎公衆衛生看護管理論	2			21
						◎公衆衛生看護実習I	3	
◎公衆衛生看護活動展開論II	2					◎公衆衛生看護実習II	2	
◎公衆衛生看護援助論I	2							
◎公衆衛生看護援助論II	2							
				◎公衆衛生看護援助論III	2			161
				◎公衆衛生看護援助論IV	2			
24		12		14		11		

医療科学部

1.ディプロマポリシー(学位授与の方針)

医療科学部

医療科学部のディプロマポリシーは教育理念及び教育目標に基づき、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。

これらのディプロマポリシーに基づき、各学科が定める所定の単位を修得し、以下の条件を満たす人に学位を授与します。

理学療法学科

医療科学部のディプロマポリシーに基づき、理学療法学科の特色を考慮したディプロマポリシーを示します。

理学療法の専門的知識、技術を修得し、科学的根拠に基づく治療のできる理学療法士を目指し、健康増進、障害の予防に貢献できる人に学位を授与します。

1.「知識・技能」

- 科学的根拠に基づく医学的専門知識を有し、多様な病態やニーズのある対象者に向けた、健康増進、障害の予防に対する理学療法を実践できること。

2.「思考・判断・表現」

- 高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。

3.「主体性・多様性・協働性」

- 多様化する社会に貢献できるよう、常に自己を省み主体的に自己研鑽できること。

- 保健医療福祉のシステムの中で、他の職種と連携を図ることができるコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

作業療法学科

医療科学部のディプロマポリシーに基づき、作業療法学科の特色を考慮したディプロマポリシーを示します。

作業療法の専門的知識、技術を修得し、対象者の作業ニーズを捉えられる作業療法士を目指し、健康増進、疾病と障害の予防に貢献できる人に学位を授与します。

1.「知識・技能」

- 科学的根拠に基づく専門知識と技能を有し、幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、健康増進、疾病と障害の予防に対する作業療法を実践できること。

2.「思考・判断・表現」

- 高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。

3.「主体性・多様性・協働性」

- 人々の健康増進に貢献できるよう、自己の成長のために主体的に自己研鑽できること。

- 保健医療福祉等の他職種と連携し得るコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

2.カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療科学部

幅広い視野で物事を捉え、高い倫理観、豊かな人間性を備えた保健医療福祉分野の専門職としての素養を磨き、併せて、保健医療福祉に関する十分な専門的知識・技術を身に付け、対象者の障害予防及び健康増進に貢献しようとする人材の育成を目的とします。

編成の基本的考え方としては、「学士力」を教育課程において培い、高い倫理観と教養と高度な専門性を兼ね備えた人材を育成することに加え、学生自身がどのような資質や能力をどのようにして獲得していくのかを十分に理解することで、学修計画を自ら立案し、これに沿って学修することができるように、体系的で整理された教育課程を編成します。

1. 教育課程の編成目標(学科共通)

ディプロマポリシーの達成に向け、全学共通科目、学部学科間共通科目、専門基礎分野科目及び専門分野科目で学ぶ知識や技術を結び付けながら学べるように各科目を学年進行に合わせて配置する。

- (1) 幅広い視野から物事を捉え、高い倫理観と教養、豊かな人間性を身に付けるため全学共通科目として、人間形成科目、一般教育科目、芸術科目、外国語科目、情報・表現科目、体育・健康科目を配置する。
- (2) 科学的根拠に基づく基本的な専門的知識と技能を修得するために、学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、理学療法学科においては理学療法専門分野科目、作業療法学科においては作業療法専門分野科目を配置する。
- (3) 主体的な学びにより自己研鑽する能力の向上が図れるように、学生参加型グループワーク、課題発表型授業等のアクティブラーニングを取り入れるとともに、研究関連科目を配置する。
- (4) コミュニケーションスキルと協調性を身に付けるために、演習系科目、実技系科目を中心に学生の共同作業機会を取り入れる。

2. 教育課程の編成と特色(学科共通)

(1) セメスター制

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能になります。

(2) CAP制度

本学の建学の精神、医療科学部の設置の趣旨を実現させるための教育課程とし、適切な履修登録制限(CAP制度)によって、学生自身の希望に沿った履修計画が可能となるように編成しています。

(3) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として初年次セミナーを1年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるように設置します。

(4) 学部学科間共通科目

1) 学部間共通科目

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、栄養面のフレイル対策、健康と食、口腔機能と疾病予防、口腔健康維持のための口腔ケアの重要性等を学べる科目を配置します。また、がんや終末期の支援を学べる科目として「緩和ケア論」を配置します。その他、「災害看護論」も配置し、これらの学びによって多職種連携を見据えた学部間連携を図ります。

2) 学科間共通科目

対象者の障害予防及び健康増進に貢献し得る療法士の育成に向け、「健康増進とリハビリテーション」を配置します。さらに女子大学での学びの環境を生かし、女性特有の健康的課題を学ぶ「女性の健康」、理学療法士及び作業療法士の共通事項として、リハビリテーションにおける医学的基礎知識を修得するための「リハビリテーション医学」を配置します。

理学療法学科

1. 教育課程の編成目標

学科共通のディプロマポリシーを基軸として、理学療法学科のカリキュラムポリシーを定めます。

- (1) 理学療法士として必要な高い倫理観と教養、豊かな人間性を養う科目を開講する。
- (2) 科学的根拠に基づき、対象となる人々の障害予防と障害の改善を含めた健康増進に貢献できる理学療法士に必要な、専門的知識と技術、幅広い視野から物事を捉え実践できる能力を養う科目と専門性を学修できる科目を開講する。
- (3) 多様化する病態や対象者のニーズに貢献できるようになるためには、主体性を発揮した学びが必須であり、理学療法についての理論と実践及び学修の統合を図る演習・実習系科目、及び研究関連の専門科目においてアクティブラーニングを取り入れて開講する。
- (4) 他の職種と円滑な連携を図ったチーム医療に貢献できるように、コミュニケーションスキルと協調性を身に付けることは重要であるため、学生間の協力関係のもとで展開される演習系科目、実技系科目を開講する。

2. 教育課程の編成と特色

(1) 専門科目群

理学療法士養成課程として、知識と技術の一体的な専門教育を目指したカリキュラムを以下のカテゴリーに区分するとともに必修・選択等の割合を適切に配置して系統的に編成します。

- 1) 「全学共通科目」(必修6科目、選択35科目)
- 2) 「学部学科間共通科目」(必修5科目、選択8科目)
 - 内訳 学部間共通科目(選択7科目)
 - 学科間共通科目(必修5科目、選択1科目)
- 3) 「専門基礎分野科目」(必修26科目)
 - 内訳 人体の構造と機能及び心身の発達(必修10科目)
 - 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進(必修11科目)
 - 保健医療福祉とリハビリテーションの理念(必修5科目)
- 4) 「理学療法専門分野科目」(必修36科目、選択4科目)
 - 内訳 基礎理学療法学(必修5科目)
 - 理学療法管理学(必修1科目)
 - 理学療法評価学(必修7科目)
 - 理学療法治療学(必修16科目、選択4科目)
 - 地域理学療法学(必修2科目)
 - 臨床実習(必修5科目)

(2) 学修成果測定

- 1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- 2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を図っていきます。
- 3) 学生の卒業時における知識・技術の確保と国際通用性のある成績評価を実施する目的から、GPA(Grade Point Average)を導入します。
- 4) 年次ごとに、必修科目の修得等の進級基準を設けています。

- 5) 理学療法士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。
 - 6) 理学療法士の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (3) 学修環境
- 1) 学生からの履修や学修についての相談に応じるオフィスアワーを全教員が設定します。また、オフィスアワー以外の時間帯でも、可能な限り対応をします。
 - 2) クラス担任及び副担任を中心に学科教員全員が、履修指導をはじめ、学生生活全般、進路等について相談を受けたり指導したりします。
 - 3) 授業担当者と学年担当を中心とした学科教員の緊密な連絡によりきめ細やかな指導を行います。
 - 4) 授業以外にも理学療法技術のきめ細やかな指導を行います。

作業療法学科

1. 教育課程の編成目標

学科共通のディプロマポリシーを基軸として、作業療法学科のカリキュラムポリシーを定めます。

- (1) 作業療法士として必要な高い倫理観と教養、豊かな人間性を養う科目を開講する。
- (2) 幅広い対象者の作業ニーズを捉え的確に評価し、障害予防と障害の改善を含めた健康増進に貢献できる作業療法士に必要な、科学的根拠に基づく専門的知識と技能を修得する科目を開講する。
- (3) 幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、的確な医療的支援ができるようになるためには、主体性を発揮した学びが必須であり、作業療法についての理論と実践及び学修の統合を図る演習・実習系科目、及び研究関連の専門科目においてアクティブラーニングを取り入れて開講する。
- (4) 対象者への最善の支援に向けた多職種連携ができるようになるために、コミュニケーションスキルと協調性を身に付けることが重要であるため、学生間の協力関係のもとで展開される演習系科目、実技系科目を開講する。

2. 教育課程の編成と特色

(1) 専門科目群

作業療法士養成課程として、知識と技術の一体的な専門教育を目指したカリキュラムを以下のカテゴリーに区分するとともに必修・選択等の割合を適切に配置して系統的に編成します。

- 1) 「全学共通科目」(必修6科目、選択35科目)
 - 2) 「学部学科間共通科目」(必修5科目、選択8科目)
 - 内訳 学部間共通科目(選択7科目)
 - 学科間共通科目(必修5科目、選択1科目)
 - 3) 「専門基礎分野科目」(必修25科目、選択1科目)
 - 内訳 人体の構造と機能及び心身の発達(必修10科目)
 - 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進(必修11科目)
 - 保健医療福祉とリハビリテーションの理念(必修4科目、選択1科目)
 - 4) 「作業療法専門分野科目」(必修37科目、選択3科目)
 - 内訳 基礎作業療法学(必修6科目)
 - 作業療法管理学(必修1科目)
 - 作業療法評価学(必修7科目)
 - 作業療法治療学(必修15科目、選択3科目)
 - 地域作業療法学(必修3科目)
 - 臨床実習(必修5科目)
- (2) 学修成果測定
- 1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。

- 2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を図っていきます。
 - 3) 学生の卒業時における知識・技術の確保と国際通用性のある成績評価を実施する目的から、GPA (Grade Point Average)を導入します。
 - 4) 年次ごとに、必修科目の修得等の進級基準を設けています。
 - 5) 作業療法士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。
 - 6) 作業療法士の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- (3) 学修環境
- 1) 学生からの履修や学修についての相談に応じるオフィスアワーを全教員が設定します。また、オフィスアワー以外の時間帯でも、可能な限り対応をします。
 - 2) クラス担任及び副担任を中心に学科教員全員が、履修指導をはじめ、学生生活全般、進路等について相談を受けたり指導をしたりします。
 - 3) 授業担当者と学年担当を中心とした学科教員の緊密な連絡によりきめ細やかな指導を行います。
 - 4) 授業以外にも作業療法技術のきめ細やかな指導を行います。

3.教育課程

全学共通科目

■医療科学部開講科目

授業科目	単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	備考	
	必修	選択		1年		2年		3年		4年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間形成科目	建学のこころ	1	講義									-		
	総合女性学	2	講義									2		
	キャリア入門	2	講義									2		
一般教育科目	哲学の方法	2	講義									2		
	心のしくみ	2	講義									2		
	文学の表現と鑑賞	2	講義									2		
	歴史に学ぶ	2	講義									2		
	国際事情	2	講義									2		
	日本国憲法	2	講義									2		
	くらしの経済	2	講義									2		
	生活と地理	2	講義									2		
	数学の世界	2	講義									2		
	一般化学	2	講義									2		
	生命のしくみ	2	講義									2		
	生活の物理	2	講義									2		
地球環境と人間	2	講義									2			
初年次セミナー	2	講義									2			
芸術科目	音楽	1	演習									2		
	美術	1	演習									2		
	書道	1	演習									2		
外国語科目	Basic English 1	1	演習									2		
	Basic English 2	1	演習									2		
	Advanced English 1	1	演習									2		
	Advanced English 2	1	演習									2		
	総合英語 A-1	1	演習									2		
	総合英語 A-2	1	演習									2		
	総合英語 B-1	1	演習									2		
	総合英語 B-2	1	演習									2		
	初級フランス語 1	1	演習									2	「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を修得していないと履修できません。	
	初級フランス語 2	1	演習									2		
	中級フランス語	1	演習									2		
	初級中国語 1	1	演習									2		
初級中国語 2	1	演習									2			
中級中国語	1	演習									2			
情報・表現科目	情報処理演習 1	1	演習									2		
	情報処理演習 2	1	演習									2		
	日本語表現法 1	1	演習									2		
	日本語表現法 2	1	演習									2		
体育・健康科目	健康科学	2	講義									2		
	スポーツ 1	1	実技									2		
	スポーツ 2	1	実技									2		

(注) 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

理学療法学科

(1)教育目的について

多様化する社会に貢献し、高い倫理観と教養、高度な専門的知識や技術、コミュニケーションスキルや協調性、創造的に問題を把握し解決する能力、他の職種と連携し役割を果たせる能力を身につけた理学療法士の育成を目的とします。

(2)授業科目について

医療科学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)はディプロマポリシーの達成に向け、全学共通科目、学部学科間共通科目、専門基礎分野科目及び専門分野科目で学ぶ知識や技術を結び付けながら学べるように各科目を学年進行に合わせて配置しています。

理学療法学科においては、理学療法を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。また、健康科学部と連携した看護や栄養に関する科目、女子大学での学びの環境を生かした女性特有の健康的課題を学ぶ科目などを配置し、特色ある教育課程を編成しています。

【全学共通科目】(必修6科目、選択35科目:講義18科目、演習21科目、実技2科目)

全学共通科目については、幅広く学び、高い教養を持ち、理学療法士として、対象者、その家族及び周囲の人々に対して敬意と倫理観を持って接することができる能力を身に付けるための科目を配置しています。

人間形成科目では、「親切」の信条と「建学の精神」を理解して医療専門職を目指す学生に向け「建学のこころ」を必修科目とし、選択科目は2科目を配置します。一般教育科目では、高等学校からの円滑な移行と人格的な成長に向け、大学での学びの意義や学びに必要なアカデミックスキルを必修科目「初年次セミナー」で修得します。その他、一般教育科目として、13科目を配置し、芸術科目は選択3科目を配置します。外国語科目では、「Basic English 1」「Basic English 2」「総合英語A-1」「総合英語A-2」、その他選択科目10科目を置いて、国際社会にも通用するような豊かなコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた広範な視野と多様な価値観を学び取る力を育成します。情報・表現科目には4科目、体育・健康科目には3科目をそれぞれ選択科目で配置します。

【学部学科間共通科目】(必修5科目、選択8科目:講義12科目、演習1科目)

(1)学部間共通科目(選択7科目:講義7科目)

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、栄養面のフレイル対策、健康と食、口腔機能と疾病予防、口腔健康維持のための口腔ケアの重要性等を学べる科目として「口腔健康管理学」「ライフステージ栄養学1」を配置し、がんや終末期の支援を学べる科目として「緩和ケア論」を配置します。その他、「災害看護論」も配置し、これらの学びによって多職種連携を見据えた学部間連携を図ります。また、人体構造の基礎、科学的思考及び分析力を培うために、「基礎生物学」「情報処理概論」「基礎統計処理」を配置します。

(2)学科間共通科目(必修5科目、選択1科目:講義5科目、演習1科目)

「基礎ゼミナール」を置いて大学での学びの導入として全学共通科目「初年次セミナー」で学修したことを活用して、グループワークを行うことにより、主体的・対話的な学修習慣を修得します。対象者の障害予防及び健康増進に貢献し得る理学療法士の育成に向けて「健康増進とリハビリテーション」を配置します。女子大学での学びの環境を生かし、女性特有の健康的課題を学ぶ科目として「女性の健康」を配置します。また、リハビリテーションにおける医学的基礎知識を修得するため「リハビリテーション医学」を配置します。将来、臨床での実習生の指導、教員や研究者を目指す場合の基礎を「教育学」で修得し、その他選択1科目を配置します。

【専門基礎分野科目】(必修26科目:講義21科目、演習3科目、実習2科目)

専門基礎分野科目である人体の構造と機能及び心身の発達に関する科目群では、「解剖学I」「解剖学II」「解剖学実習」及び「生理学I」「生理学II」「生理学実習」「基礎運動学」「基礎運動学演習」等を配置し、人体の構造と機能の正常状態を学修します。疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進の科目群では、その対象となる基本的疾病の原因や診断基準と治療に関しては「内科学」「整形外科」「神経内科学」「小児科学」「老年医学」「精神医学」等を配置します。また、救急救命や薬理学、診断と治療に関わる各種検査所見等については「臨床医学概論」「臨床検査診断概論」を配置し、「災害医療」で災害発生時の基本的医療について学修します。保健医療福祉とリハビリテーションの理念の科目群は、生命と人間の尊厳を尊重する全人的視点を基盤とするリハビリテーション、多職種連携の基礎、地域住民全体の健康、地域住民に対する多職種による包括的支援を理解するために、「生命倫理学」「リハビリテーション概論」「チーム医療連携論」「公衆衛生学」「保健医療福祉制度」を配置します。

【理学療法専門分野科目】(必修36科目、選択4科目:講義18科目、演習17科目、実習5科目)

(1) 基礎理学療法学(必修5科目:講義3科目、演習2科目)

理学療法の歴史的背景、理学療法士が現在求められている多様な役割と理学療法実践の理論や理学療法技術の活用に関しては、「理学療法学概論」「機能障害病態論」で学修します。また、理学療法の科学的思考や生涯の自己研鑽の基礎となる「理学療法学研究法」「理学療法学研究法演習」「理学療法卒業研究」を配置します。

(2) 理学療法管理学(必修1科目:講義1科目)

理学療法実践のリスク管理と組織運営や職員指導の理論を「理学療法管理学」で修得します。

(3) 理学療法評価学(必修7科目:講義1科目、演習6科目)

障害予防及び健康増進への支援に必要な理学療法評価、理学療法実践の基礎となる対象者の状態把握に必要な評価の意義とボトムアップ・アプローチ及びトップダウン・アプローチのそれぞれに必要な観察、身体機能と心理社会機能や生活機能、発達機能の評価を修得します。基本的な理学療法実践に必要な評価の意義と具体的方法としての観察と身体機能面や生活機能面と心理社会面等のICFを包含する内容については「理学療法評価学」で、さらに、各領域の病態を理解するために「運動器障害理学療法評価学演習」「神経障害理学療法評価学演習」「内部障害理学療法評価学演習」を配置します。「理学療法動作分析学演習」では人間の運動・動作の理解を深めます。臨床実習へ向けた総合的な理学療法の知識・技術・態度を修得させる客観的臨床能力試験(OSCE)については、「理学療法評価学総合演習I」「理学療法評価学総合演習II」で実施します。

(4) 理学療法治療学(必修16科目、選択4科目:講義12科目、演習8科目)

障害予防及び健康増進への支援に主要な対象疾患・障害に応じた理学療法を実践するために、理学療法評価学と関連付けながら必要な知識と技術を修得します。理学療法全般の運動療法技術については、「基礎運動療法学」において、将来理学療法士として担当する機会が多い、運動器障害については「運動器障害理学療法学」「運動器障害理学療法学演習」、神経筋障害については「神経筋障害理学療法学」「神経筋障害理学療法学演習」、内部障害については、「内部障害理学療法学」「内部障害理学療法学演習」において学修します。また、スポーツ障害及び発達障害については、「スポーツ障害理学療法学」「発達障害理学療法学演習」、高齢者の運動障害や認知症に関わる知識と技術の理解及び応用については「老年期障害理学療法学」を配置します。さらに、運動器障害や神経筋障害で用いられる理学療法技術として、「義肢装具学」「義肢装具学演習」と「物理療法学」「物理療法学演習」を、理学療法対象者の生活自立とその支援に関する知識と技術、環境調整を修得するために「日常生活活動学」を配置します。「理学療法学セミナー」では、1年次から4年次の学修を総括的に行います。理学療法対象者に多様な対応ができるよう、それぞれの内容に特化した「理学療法治療学特論」を4科目配置します。

(5) 地域理学療法学(必修2科目:講義1科目、演習1科目)

地域住民を対象とした生活支援と社会参加の促進や、必要に応じた教育と就労支援に関わる知識や環境調整等を修得します。また、障害予防及び健康増進による健康寿命延伸の観点から、地域包括ケアシステムにおいて貢献できる能力を養うために「地域理学療法学」「地域理学療法学演習」を配置します。

(6) 臨床実習(必修5科目:実習5科目)

一連の理学療法過程を段階的に学修できるよう、1年次から4年次に「見学実習」「理学療法評価学実習」「総合臨床実習I」「総合臨床実習II」「地域理学療法臨床実習」を配置します。全実習を通じて理学療法士に必要な倫理観とチーム医療の一員として他職種との連携のあり方を修得します。そして「理学療法評価学実習」「総合臨床実習I」「総合臨床実習II」では、臨床実習指導者の指導の下で見学・模倣・独立実施の過程を踏まえて理学療法対象者に応じた理学療法を実践できる基盤を構築します。チーム医療での理学療法士が担う役割を現場で見学、学修できる機会としてカンファレンスへの適宜聴講の機会を設定します。

(3)進級要件について

進級時期	進級要件
1年生から2年生	1年生後期までに配当されている学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、理学療法専門分野科目の必修科目をすべて修得していること。
2年生から3年生	2年生後期までに配当されているすべての必修科目を修得していること。
3年生から4年生	総合臨床実習II、地域理学療法臨床実習、理学療法評価学総合演習II、理学療法卒業研究、理学療法学セミナーを除く、卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得していること。

留年した場合は、留まった学年に配当されている進級に必要な必修科目を再履修します。なお、既に修得した単位は卒業まで有効であり再履修する必要はありません。また、留まった学年までに配当されている科目を履修することができます。

4.教育課程について

理学療法学科 専門科目

学部	学科	授業科目	単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	備考
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
理学療法学科	学部間共通科目	基礎生物学	2		講義									2	
		情報処理概論	2		講義									2	
		基礎統計処理	2		講義									2	
		口腔健康管理学	2		講義									2	
		ライフステージ栄養学1	1		講義									1	
		緩和ケア論	1		講義									1	
		災害看護論	1		講義									1	
	学科間共通科目	基礎ゼミナール	1		演習									2	
		リハビリテーション医学	1		講義									1	
		健康増進とリハビリテーション	2		講義									2	
		女性の健康	1		講義									1	
		教育学	2		講義									2	
		教育方法論	2		講義								2		
専門基礎分野科目	及人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2		講義									2	
		解剖学Ⅱ	1		演習									2	
		解剖学実習	1		実習									3	
		生理学Ⅰ	2		講義									2	
		生理学Ⅱ	1		演習									2	
		生理学実習	1		実習									3	
		人間発達学	2		講義									2	
		基礎運動学	2		講義									2	
		基礎運動学演習	1		演習									2	
		臨床心理学	1		講義									1	
	及疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学概論	1		講義									1	
		病理・感染学	2		講義									2	
		整形外科学	2		講義									2	
		神経内科学	2		講義									2	
		老年医学	1		講義									1	
		精神医学	2		講義									2	
		内科学	2		講義									2	
		小児科学	1		講義									1	
		臨床検査診断概論	1		講義									1	
		臨床栄養学1	1		講義									1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	災害医療	1		講義									1		
	リハビリテーション概論	1		講義									1		
	生命倫理学	1		講義									1		
	公衆衛生学	1		講義									1		
	チーム医療連携論	1		講義									1		
理学療法	保健医療福祉制度	1		講義									1		
	理学療法学概論	2		講義									2		
	機能障害病態論	2		講義									2		
	理学療法学研究法	1		講義									1		
	理学療法学研究法演習	1		演習									2		
理学療法卒業研究	4		演習									-			

授業科目		単位数		授業形態	配当学年								授業時間数	備考	
					1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
理学療法専門分野科目	理学療法管理学	2	講義										2		
	理学療法評価学	理学療法評価学	1	講義										1	
		運動器障害理学療法評価学演習	1	演習										2	
		神経障害理学療法評価学演習	1	演習										2	
		内部障害理学療法評価学演習	1	演習										2	
		理学療法動作分析学演習	1	演習										2	
		理学療法評価学総合演習Ⅰ	1	演習										2	
		理学療法評価学総合演習Ⅱ	1	演習										2	
	理学療法治療学	基礎運動療法学	1	演習										2	
		運動器障害理学療法学	2	講義										2	
		運動器障害理学療法学演習	1	演習										2	
		神経筋障害理学療法学	2	講義										2	
		神経筋障害理学療法学演習	1	演習										2	
		内部障害理学療法学	2	講義										2	
		内部障害理学療法学演習	1	演習										2	
		スポーツ障害理学療法学	1	講義										1	
		発達障害理学療法学演習	1	演習										2	
		老年期障害理学療法学	2	講義										2	
		義肢装具学	1	講義										1	
		義肢装具学演習	1	演習										2	
		物理療法学	2	講義										2	
		物理療法学演習	1	演習										2	
		日常生活活動学	2	講義										2	
		理学療法学セミナー	1	演習										2	
	理学療法治療学特論Ⅰ(健康増進・予防)	1	講義										1		
	理学療法治療学特論Ⅱ(中枢神経障害)	1	講義										1		
	理学療法治療学特論Ⅲ(内部障害)	1	講義										1		
	理学療法治療学特論Ⅳ(脳機能)	1	講義										1		
	地域理学療法学	地域理学療法学	2	講義										2	
		地域理学療法学演習	1	演習										2	
臨床実習	見学実習	1	実習										-		
	理学療法評価学実習	4	実習										-		
	総合臨床実習Ⅰ	6	実習										-		
	総合臨床実習Ⅱ	8	実習										-		
	地域理学療法臨床実習	1	実習										-		

〈理学療法学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 科学的根拠に基づく医学的専門知識を有し、多様な病態やニーズのある対象者に向けた、健康増進、障害の予防に対する理学療法を実践できること。
②思考・判断・表現	②DP2 高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 多様化する社会に貢献できるよう、常に自己を省み主体的に自己研鑽できること。 保健医療福祉のシステムの中で、他の職種と連携を図ることができるコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング							科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0	0	00	L	1	01	Z	建学のこころ			◎	○
		UA0	0	37	L	2	14	L	初年次セミナー			◎	○
		MB0	0	54	L	a	11	L	情報処理概論		○	◎	
		UA0	0	83	E	4	05	L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	83	E	4	01	L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	81	E	5	03	L	日本語表現法1	T4		◎	
		UA0	0	54	E	5	01	L	情報処理演習1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	33	L	2	07	L	くらしの経済			◎	
		UA0	0	29	L	2	08	L	生活と地理			◎	
		UA0	0	49	L	6	01	L	健康科学	H1	○	◎	
1	2	UA0	0	33	L	2	05	L	国際事情			◎	
		UA0	0	78	P	6	02	L	スポーツ1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	43	L	2	10	L	一般化学			◎	
		UA0	0	85	E	4	09	L	初級フランス語1			◎	
		UA0	0	46	L	2	11	L	生命のしくみ		○	◎	
		UA0	0	82	E	4	12	L	初級中国語1			◎	
		MB0	0	49	L	c	11	L	解剖学I	R1	◎	○	
MB0	0	49	L	c	21	L	生理学I	R1	◎	○			
1	後期	UA0	0	54	E	5	02	L	情報処理演習2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	83	E	4	06	L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	83	E	4	02	L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	81	E	5	04	L	日本語表現法2	T4		◎	
		MB0	0	46	L	a	01	L	基礎生物学		○	◎	
		MB0	0	41	L	a	12	L	基礎統計処理		○	◎	
		MB0	0	49	L	a	21	L	口腔健康管理学		◎	◎	
		MB0	0	00	E	b	01	L	基礎ゼミナール	R1	○	◎	○
		MB0	0	49	E	c	12	L	解剖学II	R1	◎	○	
		MB0	0	49	E	c	22	L	生理学II	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	c	01	L	人間発達学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	c	31	L	基礎運動学	R1	◎	○	
		MB0	0	14	L	c	02	L	臨床心理学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	01	L	臨床医学概論	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	02	L	病理・感染学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	e	02	L	リハビリテーション概論	R1	◎	◎	○
		MB0	0	49	L	e	01	L	生命倫理学	R1	◎	◎	○
		MP0	0	49	L	f	01	L	理学療法概論	R1	◎	○	
MP0	0	49	L	i	01	L	日常生活活動学	R1	◎	○			
MP0	0	49	T	k	11	H	見学実習	R1	◎	◎	◎		

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
1・2	後期	UA0	0	14	L	2	02	L	心のしくみ			◎	
		UA0	0	78	P	6	03	L	スポーツ2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	32	L	2	06	L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	85	E	4	10	L	初級フランス語2			◎	
		UA0	0	82	E	4	13	L	初級中国語2			◎	
		UA0	0	42	L	2	12	L	生活の物理			◎	
		UA0	0	36	L	1	02	M	総合女性学			◎	
		UA0	0	45	L	2	13	L	地球環境と人間			◎	
		UA0	0	36	L	1	03	L	キャリア入門			◎	
2	前期	UA0	0	83	E	4	03	M	Advanced English 1			◎	
		UA0	0	83	E	4	07	M	総合英語B-1			◎	
		MB0	0	49	L	b	02	L	リハビリテーション医学	R1	◎	◎	○
		MB0	0	37	L	b	11	L	教育学	R1	○	◎	○
		MB0	0	49	T	c	13	H	解剖学実習	R1	◎	○	
		MB0	0	49	T	c	23	H	生理学実習	R1	◎	○	
		MB0	0	49	E	c	32	M	基礎運動学演習	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	04	L	整形外科学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	05	L	神経内科学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	03	L	老年医学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	06	L	精神医学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	e	03	L	公衆衛生学	R1	◎	◎	○
		MP0	0	49	L	f	02	L	機能障害病態論	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	h	01	L	理学療法評価学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	h	02	M	運動器障害理学療法評価学演習	R1	◎	○	
		2・3		UA0	0	76	E	3	01	L	音楽		
UA0	0			11	L	2	01	L	哲学の方法			◎	
UA0	0			91	L	2	03	L	文学の表現と鑑賞			◎	
UA0	0			85	E	4	11	M	中級フランス語			◎	
UA0	0			82	E	4	14	M	中級中国語			◎	
2	後期	UA0	0	83	E	4	04	M	Advanced English 2			◎	
		UA0	0	83	E	4	08	M	総合英語B-2			◎	
		MB0	0	49	L	a	22	L	ライフステージ栄養学1		◎	◎	
		MB0	0	49	L	d	07	L	内科学	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	08	L	小児科学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	h	03	M	神経障害理学療法評価学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	h	04	M	内部障害理学療法評価学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	h	05	M	理学療法動作分析学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	02	L	老年期障害理学療法学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	31	L	義肢装具学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	i	22	M	物理療法学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	03	L	理学療法治療学特論I(健康増進・予防)		◎	○	
		MP0	0	49	L	i	04	L	理学療法治療学特論II(中枢神経障害)		◎	○	
		MP0	0	49	E	j	12	M	地域理学療法学演習	R1	◎	◎	○
2・3		MP0	0	49	T	k	12	H	理学療法評価学実習	R1	◎	◎	◎
		UA0	0	72	E	3	03	L	書道			◎	
		UA0	0	72	E	3	02	L	美術			◎	
		UA0	0	21	L	2	04	L	歴史に学ぶ			◎	
		UA0	0	41	L	2	09	L	数学の世界			◎	

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
3	前期	MB0	0	49	L	a	02	L	緩和ケア論		◎	◎	
		MB0	0	49	L	d	09	L	臨床検査診断概論	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	e	04	L	チーム医療連携論	R1	◎	◎	○
		MP0	0	49	L	f	11	L	理学療法学研究法	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	g	01	L	理学療法管理学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	12	L	運動器障害理学療法学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	41	L	神経筋障害理学療法学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	51	L	内部障害理学療法学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	07	L	スポーツ障害理学療法学	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	i	32	M	義肢装具学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	L	i	05	L	理学療法治療学特論Ⅲ(内部障害)		◎	○	
	MP0	0	49	L	i	06	L	理学療法治療学特論Ⅳ(脳機能)		◎	○		
	後期	MB0	0	49	L	a	03	L	災害看護論		◎	◎	○
		MB0	0	49	L	b	03	L	健康増進とリハビリテーション	R1	◎	◎	○
		MB0	0	49	L	b	04	L	女性の健康	R1	◎	◎	
		MB0	0	49	L	d	11	L	臨床栄養学 1	R1	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	21	L	災害医療	R1	◎	◎	○
		MB0	0	49	L	e	05	L	保健医療福祉制度	R1	◎	◎	○
		MP0	0	49	E	f	12	M	理学療法学研究法演習	R1	◎	○	○
		MP0	0	49	E	h	11	M	理学療法評価学総合演習Ⅰ	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	i	13	M	運動器障害理学療法学演習	R1	◎	○	
		MP0	0	49	E	i	42	M	神経筋障害理学療法学演習	R1	◎	○	
MP0		0	49	E	i	52	M	内部障害理学療法学演習	R1	◎	○		
MP0	0	49	E	i	08	M	発達障害理学療法学演習	R1	◎	○	○		
MP0	0	49	T	k	13	H	総合臨床実習Ⅰ	R1	◎	◎	◎		
4	前期	MP0	0	49	E	h	12	M	理学療法評価学総合演習Ⅱ	R1	◎	○	○
		MP0	0	49	T	k	14	H	総合臨床実習Ⅱ	R1	◎	◎	◎
		MP0	0	49	T	k	15	H	地域理学療法臨床実習	R1	◎	◎	◎
	後期	MB0	0	37	L	b	12	L	教育方法論		○	◎	○
		MP0	0	49	E	i	09	M	理学療法学セミナー	R1	◎	○	
通年	MP0	0	00	E	f	13	H	理学療法卒業研究	R1	◎	○		

療基 法理 学学 学	①②理学療法概論 ①②機能障害病態論	①②理学療法研究法 ①②③理学療法研究法 演習	①②理学療法卒業研究	理学療法史の背景と理学療法士が現在求められている多様な役割と理学療法史の理論と理学療法士の活用について、理学療法史の発展の歴史「機能障害病態論」で学習する。また、理学療法史の発展の歴史「理学療法卒業研究」を配置する。
管理 理学 学	①②理学療法管理論	①②理学療法管理学		理学療法実践のリスク管理と組織運営や職員指導の理論を「理学療法管理学」で修得する。
理 学 療 法 評 価 学	①②理学療法評価学 ①②運動器障害 理学療法評価学演習 ①②内部障害 理学療法評価学演習 ①②理学療法動作 分析学演習	①②理学療法評価学 総合演習	①②③理学療法評価学 総合演習II	障害予防及び健康増進への支援に必要な理学療法評価。理学療法実践の基礎となる対象者の状態把握と必要となる評価の意義とボトムアップ・アプローチ及びフィードバックの重要性を講義と実習を必要とする。基本的な機能と心理社会的機能や生活機能、状態把握の評価に必要な観察、身体的機能と心理社会的機能と具体的な方法としての観察と身体機能評価「理学療法評価学」で、さらに、各領域の機能を理解する内容に「運動器障害理学療法評価学演習」「神経障害理学療法評価学演習」「内部障害理学療法評価学演習」を配置し、臨床実習へ向けた総合的理学療法史の知識、技術、態度を修得させる総合的臨床能力試験(OSCE)について、「理学療法評価学総合演習」「理学療法評価学総合演習II」で実施する。
理 学 療 法 専 門 分 野 科 目	①②基礎運動療法学 ①②日常生活活動学	①②運動器障害理学療法学 ①②神経筋障害理学療法学 ①②内部障害理学療法学 ①②義肢装具学演習 ①②老年期障害理学療法学 ①②物理療法学演習	①②理学療法学 セミナー	障害予防及び健康増進への支援に必要な対象疾患・障害に応じた理学療法実践のために、理学療法評価学と理学療法実践の基礎となる対象者の状態把握と必要となる評価の意義とボトムアップ・アプローチ及びフィードバックの重要性を講義と実習を必要とする。基本的な機能と心理社会的機能や生活機能、状態把握の評価に必要な観察、身体的機能と心理社会的機能と具体的な方法としての観察と身体機能評価「理学療法評価学」で、さらに、各領域の機能を理解する内容に「運動器障害理学療法評価学演習」「神経障害理学療法評価学演習」「内部障害理学療法評価学演習」を配置し、臨床実習へ向けた総合的理学療法史の知識、技術、態度を修得させる総合的臨床能力試験(OSCE)について、「理学療法評価学総合演習II」で実施する。
療 域 理 学 療 法 学	①②③地域理学療法学演習	①②理学療法治療学 特論I(健康増進・予防) ①②理学療法治療学 特論II(中枢神経障害)		地域住民を対象とした生活支援と社会参加の促進や、必要に応じた教育と教育支援に関する知識や実践的知識を修得する。また、障害予防及び健康増進による健康寿命延伸の観点から、地域包括ケアシステムにおいて貢献できる能力を養うために「地域理学療法学」「地域理学療法学演習」を配置する。
臨 床 実 習	①②③見学実習	①②③理学療法 評価学実習	①②③総合臨床 実習I ①②③総合臨床 実習II ①②③地域理学療法 臨床実習	一連の理学療法実習プログラムを段階的に修得できるように、1年次から4年次に「理学療法実習I」「理学療法実習II」「理学療法実習III」「理学療法実習IV」を配置する。各実習を通じて理学療法士に必要となる倫理観とチーム医療の一員として多職種との連携のあり方を修得する。そして「理学療法指導者実習」「総合臨床実習II」では、臨床実習指導者の立場の下で見学・観察・独立実習の過程を踏まえて理学療法士が担った理学療法を実践できる基礎を構築する。チーム医療での理学療法士が担う役割を現場で見学・実習できる機会としてケアシミュレーションへの適宜参加の機会を設定する。

D.P.① 知識・技能

D.P.② 思考・判断・表現

D.P.③ 主体性・多様性・協働性

D.P.の科目別目標はカリキュラムマップを参照

履修モデル(理学療法学科)

理学療法学科

		1年次				2年次			
		前期		後期		前期		後期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	生活の物理	2				
		生命のしくみ	2						
	芸術科目								
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1				
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
情報・表現科目	情報処理演習1	1							
体育・健康科目	健康科学	2							
	スポーツ1	1							
学部学科間共通科目	学部間共通科目	情報処理概論	2				ライフステージ栄養学1	1	
学部学科間共通科目	学科間共通科目			○基礎ゼミナール	1	○リハビリテーション医学	1		
						○教育学	2		
専門基礎分野科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○解剖学I	2	○解剖学II	1	○解剖学実習	1		
		○生理学I	2	○生理学II	1	○生理学実習	1		
				○人間発達学	2	○基礎運動学演習	1		
				○基礎運動学	2				
	疾病と障害の成り立ちと回復促進			○臨床心理学	1				
				○臨床医学概論	1	○整形外科学	2	○内科学	2
				○病理・感染学	2	○神経内科学	2	○小児科学	1
	保健医療福祉とリハビリテーション					○老年医学	1		
						○精神医学	2		
				○リハビリテーション概論	2	○公衆衛生学	1		
理学療法専門分野科目	基礎理学療法学		○理学療法学概論	2	○機能障害病態論	2			
	理学療法管理学								
	理学療法評価学					○理学療法評価学	1	○神経障害理学療法評価学演習	1
						○運動器障害理学療法評価学演習	1	○内部障害理学療法評価学演習	1
								○理学療法動作分析学演習	1
	理学療法学治療学			○日常生活活動学	2	○基礎運動療法学	1	○老年期障害理学療法学	2
						○物理療法学	2	○義肢装具学	1
								○物理療法学演習	1
								理学療法治療学特論I (健康増進・予防)	1
								理学療法治療学特論II (中枢神経障害)	1
地域理学療法学					○地域理学療法学	2	○地域理学療法学演習	1	
臨床実習		○見学実習	1			○理学療法評価学実習	4		
取得単位数		17		23		23		18	

○:必修科目

3 年 次				4 年 次				取得単位数
前 期		後 期		前 期		後 期		
								1
								6
								0
								4
								1
								3
								3
		○健康増進とリハビリテーション	2			教育方法論	2	9
		○女性の健康	1					
								14
○臨床検査診断概論	1	○臨床栄養学 1	1					16
		○災害医療	1					
○チーム医療連携論	1	○保健医療福祉制度	1					6
○理学療法学研究法	1	○理学療法学研究法演習	1	○理学療法卒業研究			4	10
○理学療法管理学	2							2
		○理学療法評価学総合演習 I	1	○理学療法評価学総合演習 II	1			7
○運動器障害理学療法学	2	○運動器障害理学療法学演習	1			○理学療法学セミナー	1	26
○神経筋障害理学療法学	2	○神経筋障害理学療法学演習	1					
○内部障害理学療法学	2	○内部障害理学療法学演習	1					
○スポーツ障害理学療法学	1	○発達障害理学療法学演習	1					
○義肢装具学演習	1							
理学療法治療学特論 III (内部障害)	1							
理学療法治療学 IV (脳機能)	1							
								3
		○総合臨床実習 I	6	○総合臨床実習 II	8			20
				○地域理学療法臨床実習	1			
15		18		10		7		131

作業療法学科

(1)教育目的について

多様化する社会に貢献し、高い倫理観と教養、コミュニケーションスキルや協調性、障害を負った人々に対する生活の再構築に向けた支援を実践できる能力を身につけた作業療法士の育成を目的とします。

(2)授業科目について

医療科学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)はディプロマポリシーの達成に向け、全学共通科目、学部学科間共通科目、専門基礎分野科目及び専門分野科目で学ぶ知識や技術を結び付けながら学べるように各科目を学年進行に合わせて配置しています。

作業療法学科においては、作業療法を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。また、健康科学部と連携した看護や栄養に関する科目、女子大学での学びの環境を生かした女性特有の健康的課題を学ぶ科目などを配置し、特色ある教育課程を編成しています。

【全学共通科目】(必修6科目、選択35科目:講義18科目、演習21科目、実技2科目)

全学共通科目については、幅広く学び、高い教養を持ち、作業療法士として、対象者、その家族及び周囲の人々に対して敬意と倫理観を持って接することができる能力を身に付けるための科目を配置しています。

人間形成科目では、「親切」の信条と「建学の精神」を理解して医療専門職を目指す学生に向け「建学のこころ」を必修科目とし、選択科目は2科目を配置します。一般教育科目では、高等学校からの円滑な移行と人格的な成長に向け、大学での学びの意義や学びに必要なアカデミックスキルを必修科目「初年次セミナー」で修得します。その他、一般教育科目として、13科目を配置し、芸術科目は選択3科目を配置します。外国語科目では、「Basic English 1」「Basic English 2」「総合英語A-1」「総合英語A-2」、その他選択科目10科目を置いて、国際社会にも通用するような豊かなコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた広範な視野と多様な価値観を学び取る力を育成します。情報・表現科目には4科目、体育・健康科目には3科目をそれぞれ選択科目で配置します。

【学部学科間共通科目】(必修5科目、選択8科目:講義12科目、演習1科目)

(1)学部間共通科目(選択7科目:講義7科目)

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、栄養面のフレイル対策、健康と食、口腔機能と疾病予防、口腔健康維持のための口腔ケアの重要性等を学べる科目として「口腔健康管理学」「ライフステージ栄養学1」を配置し、がんや終末期の支援を学べる科目として「緩和ケア論」を配置します。その他、「災害看護論」も配置し、これらの学びによって多職種連携を見据えた学部間連携を図ります。また、人体構造の基礎、科学的思考及び分析力を培うために、「基礎生物学」「情報処理概論」「基礎統計処理」を配置します。

(2)学科間共通科目(必修5科目、選択1科目:講義5科目、演習1科目)

「基礎ゼミナール」を置いて大学での学びの導入として全学共通科目「初年次セミナー」で学修したことを活用して、グループワークを行うことにより、主体的・対話的な学修習慣を修得します。対象者の障害予防及び健康増進に貢献し得る作業療法士の育成に向けて「健康増進とリハビリテーション」を配置します。女子大学での学びの環境を生かし、女性特有の健康的課題を学ぶ科目として「女性の健康」を配置します。また、リハビリテーションにおける医学的基礎知識を修得するため「リハビリテーション医学」を配置します。将来、臨床での実習生の指導、教員や研究者を目指す場合の基礎を「教育学」で修得し、その他選択1科目を配置します。

【専門基礎分野科目】(必修25科目、選択1科目:講義21科目、演習3科目、実習2科目)

専門基礎分野科目である人体の構造と機能及び心身の発達に関する科目群では、「解剖学I」「解剖学II」「解剖学実習」及び「生理学I」「生理学II」「生理学実習」「基礎運動学」「基礎運動学演習」等を配置し、人体の構造と機能の正常状態を学修します。疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進の科目群では、その対象となる基本的疾病の原因や診断基準と治療に関しては「内科学」「整形外科学」「神経内科学」「小児科学」「老年医学」「精神医学」等を配置します。また、救急救命や薬理学、診断と治療に関わる各種検査所見等については「臨床医学概論」「臨床検査診断概論」を配置し、「災害医療」で災害発生時の基本的医療について学修します。保健医療福祉とリハビリテーションの理念の科目群は、生命と人間の尊厳を尊重する全人的視点を基盤とするリハビリテーション、多職種連携の基礎、地域住民全体の健康、地域住民に対する多職種による包括的支援を理解するために、「生命倫理学」「リハビリテーション概論」「チーム医療連携論」「保健医療福祉制度」を配置します。その他に選択「公衆衛生学」1科目を配置します。

【作業療法専門分野科目】(必修37科目、選択3科目:講義18科目、演習17科目、実習5科目)

(1) 基礎作業療法学(必修6科目:講義3科目、演習3科目)

作業療法の歴史的背景、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践の理論や作業活動応用については、「作業療法学概論」「基礎作業療法学」「基礎作業療法学演習」で修得します。また、作業療法の科学的根拠を深める科学的思考や生涯の自己研鑽の基礎となる「研究法概論」「研究法演習」「卒業研究」を配置します。

(2) 作業療法管理学(必修1科目:講義1科目)

作業療法実践のリスク管理と組織運営や職員指導の理論を「作業療法管理学」で修得します。

(3) 作業療法評価学(必修7科目:講義1科目、演習6科目)

障害予防及び健康増進に向けた作業療法実践に必要な評価の意義と具体的方法としての観察、身体機能面や生活機能面、心理社会面等、ICFを包含する内容について、「作業療法評価学」「作業療法評価学演習I」「作業療法評価学演習II」「作業療法評価学演習III」で修得します。「作業療法動作分析学演習」では人間の生活行為・動作の理解を深めます。臨床実習前に「作業療法学総合演習I」でICFを用いた生活障害に対する評価の思考プロセスを修得します。また、「作業療法学総合演習II」で事例基盤型学習を用いて検査測定、統合と解釈と治療プログラムの立案を模擬的に実施し、一連のプロセスを修得します。

(4) 作業療法治療学(必修15科目、選択3科目:講義11科目、演習7科目)

障害予防及び健康増進への支援に向けて、主要な対象疾患・障害に応じた作業療法を実践するために、作業療法評価学と関連付けながら必要な知識と技術を修得します。将来、作業療法士として担当する機会が多い疾患ごとに、身体障害系では、脳血管障害と運動器障害、内部障害について「身体障害作業療法学I」「身体障害作業療法学II」「身体障害作業療法学演習」「義肢装具学」「義肢装具学演習」「作業療法学特論III(内部疾患)」を配置します。また、精神障害及び発達障害については「精神障害作業療法学」「精神障害作業療法学演習」「発達障害作業療法学」「発達障害作業療法学演習」を配置します。共通する障害である高次脳機能障害や認知症に関わる知識と技術の理解及び応用は「高次脳機能障害作業療法学」「高次脳機能障害作業療法学演習」「老年期障害作業療法」で修得します。また、対象者の生活自立とその支援に関する知識と技術、環境調整を修得するために「日常生活活動学」「日常生活活動学演習」を配置します。「作業療法学セミナー」にて1年次から4年次の学修を統合します。また、昨今のさまざまな問題に多様な対応ができるよう「作業療法学特論I(学校・仕事)・II(生活・環境)」を配置します。

(5) 地域作業療法学(必修3科目:講義2科目、演習1科目)

地域住民を対象とした生活支援と社会参加促進や必要に応じた教育と就労支援に関わる知識や環境調整等を修得します。また、障害予防及び健康増進による健康寿命延伸に向けた介護予防の観点から地域在住高齢者対象の健康関連事業の企画と運営を担うことによって、地域包括ケアシステムにおける地域貢献できる能力を養うために「地域作業療法学」「地域作業療法学演習」「予防的作業療法学」を配置します。

(6) 臨床実習(必修5科目:実習5科目)

臨床実習では一連の作業療法過程を段階的に学修できるように、1年次から4年次に「臨床実習Ⅰ(見学実習)」「臨床実習Ⅱ(地域実習)」「臨床実習Ⅲ(評価実習)」「臨床実習Ⅳ(総合実習)」「臨床実習Ⅴ(総合実習)」を配置します。全臨床実習を通じて作業療法士に必要な倫理観とチーム医療の一員として他職種との連携のあり方を修得します。そして「臨床実習Ⅲ(評価実習)」「臨床実習Ⅳ(総合実習)」「臨床実習Ⅴ(総合実習)」では、臨床実習指導者の指導の下で見学・模倣・独立実施の過程を踏まえて対象者に応じた作業療法を実践できる基盤を構築します。チーム医療での作業療法士が担う役割を現場で見学、学修できる機会としてカンファレンスへの適宜聴講の機会を設定します。

(3)進級要件について

進級時期	進級要件
1年生から2年生	1年生後期までに配当されている学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、作業療法専門分野の必修科目をすべて修得していること。
2年生から3年生	2年生後期までに配当されているすべての必修科目を修得していること。
3年生から4年生	臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く、卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得していること。

留年した場合は、留まった学年に配当されている進級に必要な必修科目を再履修します。なお、既に修得した単位は卒業まで有効であり再履修する必要はありません。また、留まった学年までに配当されている科目を履修することができます。

4.教育課程について

作業療法学科 専門科目

授業科目	単位数	授業形態	配当学年								授業時間数	備考	
			1年		2年		3年		4年				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
学部学科間共通科目	学部間共通科目	基礎生物学	2	講義								2	
		情報処理概論	2	講義								2	
		基礎統計処理	2	講義								2	
		口腔健康管理学	2	講義								2	
		ライフステージ栄養学1	1	講義								1	
		緩和ケア論	1	講義								1	
	災害看護論	1	講義								1		
	学科間共通科目	基礎ゼミナール	1	演習								2	
		リハビリテーション医学	1	講義								1	
		健康増進とリハビリテーション	2	講義								2	
		女性の健康	1	講義								1	
		教育学	2	講義								2	
教育方法論		2	講義								2		
専門基礎	及び人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2	講義								2	
		解剖学Ⅱ	1	演習								2	
		解剖学実習	1	実習								3	
		生理学Ⅰ	2	講義								2	
		生理学Ⅱ	1	演習								2	
		生理学実習	1	実習								3	
		人間発達学	2	講義								2	
		基礎運動学	2	講義								2	
		基礎運動学演習	1	演習								2	
	及び疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	1	講義								1	
		臨床医学概論	1	講義								1	
		病理・感染学	2	講義								2	
		整形外科学	2	講義								2	
		神経内科学	2	講義								2	
		老年医学	1	講義								1	
		精神医学	2	講義								2	
		内科学	2	講義								2	
		小児科学	1	講義								1	
臨床検査診断概論		1	講義								1		
目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	臨床栄養学1	1	講義							1		
		災害医療	1	講義							1		
		リハビリテーション概論	1	講義							1		
		生命倫理学	1	講義							1		
		公衆衛生学	1	講義							1		
専門分野科目	基礎作業療法学	チーム医療連携論	1	講義							1		
		保健医療福祉制度	1	講義							1		
		作業療法学概論	2	講義							2		
		基礎作業療法学	1	講義							1		
		基礎作業療法学演習	1	演習							2		
		研究法概論	1	講義							1		
研究法演習	1	演習							2				
卒業研究	2	演習								-			

作業療法学科

授 業 科 目		単位数	授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考	
				1年		2年		3年		4年				
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
作 業 療 法 専 門 分 野 科 目	作業療法管理学	2	講義									2		
	作業療法評価学	作業療法評価学	1	講義									1	
		作業療法評価学演習Ⅰ	1	演習									2	
		作業療法評価学演習Ⅱ	1	演習									2	
		作業療法評価学演習Ⅲ	1	演習									2	
		作業療法動作分析学演習	1	演習									2	
		作業療法学総合演習Ⅰ	1	演習									2	
		作業療法学総合演習Ⅱ	1	演習									2	
	作業療法治療学	身体障害作業療法Ⅰ	2	講義									2	
		身体障害作業療法Ⅱ	1	講義									1	
		身体障害作業療法演習	1	演習									2	
		義肢装具学	1	講義									1	
		義肢装具学演習	1	演習									2	
		精神障害作業療法	2	講義									2	
		精神障害作業療法演習	1	演習									2	
		発達障害作業療法	2	講義									2	
		発達障害作業療法演習	1	演習									2	
		老年期作業療法	2	講義									2	
		高次脳機能障害作業療法	2	講義									2	
		高次脳機能障害作業療法演習	1	演習									2	
		日常生活活動学	1	講義									1	
		日常生活活動学演習	1	演習									2	
		作業療法学セミナー	1	演習									2	
		作業療法治療学特論Ⅰ(学校・仕事)	1	講義									1	
	作業療法治療学特論Ⅱ(生活・環境)	1	講義									1		
	作業療法治療学特論Ⅲ(内部疾患)	1	講義									1		
	地域作業療法学	地域作業療法	2	講義									2	
地域作業療法演習		1	演習									2		
予防的作業療法		1	講義									1		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(見学実習)	1	実習									-		
	臨床実習Ⅱ(地域実習)	2	実習									-		
	臨床実習Ⅲ(評価実習)	6	実習									-		
	臨床実習Ⅳ(総合実習)	8	実習									-		
	臨床実習Ⅴ(総合実習)	8	実習									-		

作業療法学科

〈作業療法学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 科学的根拠に基づく専門知識と技能を有し、幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、健康増進、疾病と障害の予防に対する作業療法を実践できること。
②思考・判断・表現	②DP2 高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 人々の健康増進に貢献できるよう、自己の成長のために主体的に自己研鑽できること。 保健医療福祉等の他職種と連携し得るコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ			◎	○
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー			◎	○
		MB0 0 54 L a 11 L	情報処理概論		○	◎	
		MB0 0 49 L c 11 L	解剖学I	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 21 L	生理学I	R2	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法 1	T4		◎	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		MO0 0 49 L f 11 L	作業療法学概論	R2	◎		○
1・2		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済			◎	
		UA0 0 29 L 2 08 L	生活と地理			◎	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1	○	◎	
		UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情			◎	
		UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ 1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学			◎	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語 1			◎	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		○	◎	
1	後期	UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習 2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		MB0 0 41 L a 12 L	基礎統計処理		○	◎	
		MB0 0 46 L a 01 L	基礎生物学		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法 2	T4		◎	
		MB0 0 49 L d 01 L	臨床医学概論	R2	◎	○	
		MB0 0 00 E b 01 L	基礎ゼミナール	R2	○	◎	○
		MB0 0 49 L e 01 L	生命倫理学	R2	◎	◎	○
		MB0 0 14 L c 02 L	臨床心理学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L a 21 L	口腔健康管理学		◎	◎	
		MB0 0 49 E c 12 L	解剖学II	R2	◎	○	
		MB0 0 49 E c 22 L	生理学II	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 01 L	人間発達学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 31 L	基礎運動学	R2	○	◎	○
		MB0 0 49 L d 02 L	病理・感染学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L e 02 L	リハビリテーション概論	R2	◎	◎	○
		MO0 0 49 L f 12 L	基礎作業療法学	R2	○	◎	
MO0 0 49 T k 11 H	臨床実習 I (見学実習)	R2	◎	○	◎		

作業療法学科

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
1・2	後期	UA0	0	14	L	2	02	L	心のしくみ			◎	
		UA0	0	78	P	6	03	L	スポーツ2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	32	L	2	06	L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0	0	85	E	4	10	L	初級フランス語2			◎	
		UA0	0	82	E	4	13	L	初級中国語2			◎	
		UA0	0	42	L	2	12	L	生活の物理			◎	
		UA0	0	36	L	1	02	M	総合女性学			◎	
		UA0	0	45	L	2	13	L	地球環境と人間			◎	
		UA0	0	36	L	1	03	L	キャリア入門			◎	
2	前期	UA0	0	83	E	4	03	M	Advanced English 1			◎	
		UA0	0	83	E	4	07	M	総合英語B-1			◎	
		MB0	0	49	T	c	13	H	解剖学実習	R2	◎	○	
		MB0	0	49	T	c	23	H	生理学実習	R2	◎	○	
		MB0	0	49	E	c	32	M	基礎運動学演習	R2	◎	○	
		MB0	0	37	L	b	11	L	教育学	R2	○	◎	○
		MB0	0	49	L	b	02	L	リハビリテーション医学	R2	◎	◎	○
		MB0	0	49	L	d	03	L	老年医学	R2	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	04	L	整形外科学	R2	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	05	L	神経内科学	R2	◎	○	
		MB0	0	49	L	e	03	L	公衆衛生学		◎	◎	○
		MB0	0	49	L	d	06	L	精神医学	R2	◎	○	
		MO0	0	49	L	h	01	L	作業療法評価学	R2	◎		◎
		MO0	0	49	E	h	02	M	作業療法評価学演習Ⅰ	R2	◎		◎
		MO0	0	49	E	h	03	M	作業療法評価学演習Ⅱ	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	11	L	日常生活活動学	R2	◎		◎
MO0	0	49	L	j	11	L	地域作業療法学	R2	◎		◎		
2・3		UA0	0	76	E	3	01	L	音楽			◎	
		UA0	0	11	L	2	01	L	哲学の方法			◎	
		UA0	0	91	L	2	03	L	文学の表現と鑑賞			◎	
		UA0	0	85	E	4	11	M	中級フランス語			◎	
		UA0	0	82	E	4	14	M	中級中国語			◎	
2	後期	UA0	0	83	E	4	04	M	Advanced English 2			◎	
		UA0	0	83	E	4	08	M	総合英語B-2			◎	
		MB0	0	49	L	a	22	L	ライフステージ栄養学1		◎	◎	
		MB0	0	49	L	d	07	L	内科学	R2	◎	○	
		MB0	0	49	L	d	08	L	小児科学	R2	◎	○	
		MO0	0	49	E	h	04	M	作業療法評価学演習Ⅲ	R2	◎		◎
		MO0	0	49	E	h	05	M	作業療法動作分析学演習	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	21	L	精神障害作業療法学	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	31	L	発達障害作業療法学	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	01	L	老年期作業療法学	R2	◎		◎
		MO0	0	49	E	i	12	M	日常生活活動学演習	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	51	L	作業療法治療学特論Ⅰ(学校・仕事)		◎		◎
		MO0	0	49	E	j	12	M	地域作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0	0	49	L	i	41	L	高次脳機能障害作業療法学	R2	◎		○
MO0	0	49	T	k	12	H	臨床実習Ⅱ(地域実習)	R2	◎	○	◎		
2・3		UA0	0	72	E	3	03	L	書道			◎	
		UA0	0	72	E	3	02	L	美術			◎	
		UA0	0	21	L	2	04	L	歴史に学ぶ			◎	
		UA0	0	41	L	2	09	L	数学の世界			◎	

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
3	前期	MB0 0 49 L a 02 L	緩和ケア論		◎	○	
		MB0 0 49 L e 04 L	チーム医療連携論	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L d 09 L	臨床検査診断概論	R2	◎	○	
		MO0 0 49 L f 21 L	研究法概論	R2	◎		○
		MO0 0 49 L g 01 L	作業療法管理学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 61 L	身体障害作業療法Ⅰ	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 02 L	身体障害作業療法Ⅱ	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 71 L	義肢装具学	R2	○	◎	○
		MO0 0 49 E i 22 M	精神障害作業療法学演習	R2	◎		○
		MO0 0 49 E i 32 M	発達障害作業療法学演習	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 52 L	作業療法治療学特論Ⅱ(生活・環境)		◎		○
	MO0 0 49 E h 11 M	作業療法学総合演習Ⅰ	R2	◎		◎	
	後期	MB0 0 49 L d 11 L	臨床栄養学Ⅰ	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L a 03 L	災害看護論		◎	○	○
		MB0 0 49 L b 03 L	健康増進とリハビリテーション	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L d 21 L	災害医療	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L b 04 L	女性の健康	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L e 05 L	保健医療福祉制度	R2	◎	○	○
		MO0 0 49 E f 22 M	研究法演習	R2	◎	○	◎
		MO0 0 49 E h 12 M	作業療法学総合演習Ⅱ	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E i 62 M	身体障害作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E i 72 M	義肢装具学演習	R2	○	◎	○
		MO0 0 49 E i 42 M	高次脳機能障害作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L j 01 L	予防的作業療法学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E f 01 M	基礎作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 53 L	作業療法治療学特論Ⅲ(内部疾患)		◎		○
		MO0 0 49 T k 13 H	臨床実習Ⅲ(評価実習)	R2	◎	○	◎
4		前期	MO0 0 49 T k 14 H	臨床実習Ⅳ(総合実習)	R2	◎	○
	MO0 0 49 T k 15 H		臨床実習Ⅴ(総合実習)	R2	◎	○	◎
	後期	MO0 0 49 E i 03 M	作業療法学セミナー	R2	◎		○
		MO0 0 00 E f 23 H	卒業研究	R2	◎		◎
		MB0 0 37 L b 12 L	教育方法論		○	◎	○

〈作業療法学科〉カリキュラムツリー

(1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2)科目名に記載の①②③は①DP1,②DP2,③DPP3を示す。
 (3)科目間の→は履修順序を示す。(逆方向の履修は控える) (4)全学共通科目で、複数の年次に開講される場合、推奨の履修年次を太字で示した。

ツリーの見方

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間形成科目	②③建学のこころ ②一般化学* ①②生命のしくみ* ②生活と地理* ②国際事情* ②くらしの経済* ②③初年次セミナー	②総合女性学* ②キャリア入門*	②総合女性学* ②キャリア入門*	②総合女性学* ②キャリア入門*					幅広い学び、高い教養を持ち、作業療法士として、対象者、その家族及び周囲の人々に対して敬意と倫理観を持って接することができる能力を身に付ける。 高等学校からの円滑な移行と人格的な成長に向け、大学での学びの意義や学びに必要なアカデミックスキルを身に付ける。国際社会にも通用するよう豊富なコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた広範な視野と多様な価値観を学び取る力を身に付ける。	
全学共通教育科目		②心のしくみ* ②日本国憲法* ②生活の物理* ②地球環境と人間*	②心のしくみ* ②日本国憲法* ②生活の物理* ②地球環境と人間*	②哲学の方法* ②文学の表現と鑑賞*	②歴史に学ぶ* ②数学の世界*	②歴史に学ぶ* ②数学の世界*				
芸術科目			②音楽*	②音楽* ②書道* ②美術*	②音楽* ②書道* ②美術*	②音楽* ②書道* ②美術*				
外国語科目	②Basic English 1 → ②総合英語A-1 → ②初級フランス語1* → ②初級中国語1* →	②Basic English 2 → ②総合英語A-2 → ②初級フランス語2* → ②初級中国語2* →	②Advanced English 1 → ②総合英語B-1 → ②中級フランス語* → ②初級フランス語1* → ②中級中国語* → ②初級中国語1* →	②Advanced English 2 → ②総合英語B-2 → ②中級フランス語* → ②初級フランス語2* → ②中級中国語* → ②初級中国語2* →	②中級フランス語* ②中級中国語* ②初級中国語*					
情報・承認科目	②情報処理演習1 → ②日本語表現法1 →	②情報処理演習2 ②日本語表現法2								
体育・健康科目	①②健康科学* ②スポーツ1* →	②健康科学* ②スポーツ2*								
専門科目分類	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	到達目標	
学部学科間共通科目	①②情報処理概論 → ①②基礎統計処理 ①②基礎生化学 ①②口腔健康管理学	①②基礎統計処理 ①②基礎生化学 ①②口腔健康管理学		①②ライフステージ栄養学1	①②緩和ケア論	①②③災害看護論			栄養面のフレイル対策、健康と食、口腔機能と疾病予防、口腔健康維持のための口腔ケアの重要性等を修得する。 高齢者のターミナルケア等の学びによって多職種連携を見据えた学修、また、人体構造の基礎、科学的思考及び分析力を培う。	
学科間共通科目		①②③基礎ゼミナール	①②③教育学 ①②③リハビリテーション医学				①②③教育方法論 ①②③健康増進とリハビリテーション ①②女性の健康		グループワークも活用して課題探求と意見交換等を行い、主体的・対話的な学修習慣を修得する。 対象者の障害予防及び健康増進への寄与、女性特有の健康的課題への支援に関する知識を修得する。 医学的リハビリテーションにおける医学的基礎知識を修得する。臨床での実習生の指導、教員や研究者を目指す場合の基礎を修得する。	
専門基礎分野科目	①②解剖学I → ①②生理学I →	①②解剖学II → ①②生理学II → ①②③基礎運動学 → ①②人間発達学 ①②臨床心理学	①②解剖学実習 ①②生理学実習 ①③基礎運動学演習						疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で重要となる基礎医学的知識として、生命現象を細胞・分子レベルで理解できるようにするため、生命体の最小単位である細胞や、人間の生命維持活動に必須の三大分子の構造と機能について修得する。さらに、身体を構成する組織・器官を筋・骨格系(運動器)、神経系、内臓器官系に大別し、これらの構造と機能について学び、ヒトの身体の運動を学び動作分析の基礎知識を身に付ける。	

疾病と障害の回復過程の成り立ちの進歩	①②臨床医学概論 ①②病理・感染症学	①②老年医学 ①②整形外科学 ①②神経内科学 ①②精神医学	①②内科学 ①②小児科学	①②臨床検査診断概論 ①②臨床実習1 ①②災害医療	疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶとともに、リハビリテーション医学を始め、整形外科学、神経学、内科学といった臨床医学を理解し、医療に携わる専門職者として必須の知識考え方を身に付ける。 自然災害と生活・健康の関連についての基礎的知識を修得する。
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	①②③生命倫理学 ①②③リハビリテーション概論	①②③公衆衛生学		①②③保健医療福祉制度 ①②③研究法演習 ①③基礎作業療法学演習	社会習慣や社会制度の基本的知識を習得するとともに、作業療法士の役割を理解して社会と作業療法との関係についても修得する。 対象者のニーズにあった作業療法士の展開に役立てられるように、社会構造や様々な生活様式を理解するとともに、人々の健康に及ぼす社会や障害要因についても修得する。 保健、医療、福祉、介護などに関する社会システムや制度の基本的知識を修得する。
基礎作業療法学	①③作業療法学概論	①③基礎作業療法学	①③作業療法管理学	①③卒業研究	作業療法学概論の定義と歴史的背景を理解しこれから学ぶ作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な質を保障するために、作業療法理論や作業活動の応用的応用及び作業療法実践の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
作業療法管理学	①③作業療法評価学演習I ①③作業療法評価学演習II ①③作業療法評価学演習III	①③作業療法評価学演習I ①③作業療法評価学演習II ①③作業療法評価学演習III	①③作業療法学総合演習I ①③作業療法学総合演習II ①③作業療法学総合演習III		作業療法実践のリスク管理と組織運営や職員指導の理論に関する知識を修得する。
作業療法評価学	①③日常生活活動学演習 ①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③老年期作業療法学演習	①③日常生活活動学演習 ①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③老年期作業療法学演習	①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①②③義肢装具学演習 ①③高次脳機能障害作業療法学演習 ①③作業療法治療学特論I(学校・仕事)	①③身体障害作業療法学演習 ①③高次脳機能障害作業療法学演習 ①③作業療法治療学特論III(内部疾患)	作業療法実践の基礎となる評価の意義とポトムアップ、アプローチやトップダウン、アプローチそれぞれに必要な観察、身体機能と心理社会機能や生活機能、発達機能の各評価手法を習得し、その結果の解釈について学ぶ。 評価における医療情報等の入手、検査、測定の実施、問題点の抽出、プログラムの立案という一連の過程を理解し、作業療法へと展開できるように評価の知識と技術を身に付ける。
作業療法治療学	①③日常生活活動学演習 ①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③老年期作業療法学演習	①③日常生活活動学演習 ①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③老年期作業療法学演習	①③精神障害作業療法学演習 ①③発達障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①③身体障害作業療法学演習 ①②③義肢装具学演習 ①③高次脳機能障害作業療法学演習 ①③作業療法治療学特論II(生活・環境)	①③予防的作業療法学	疾患や障害の特性を踏まえた治療理論と実践、日常生活活動の自立促進に向けた知識と技術、環境調整について修得する。 臨床において効果的な作業療法を実践する上で必要となる作業療法の基本的事項について理解し、それらを基礎として評価結果から課題抽出、目標設定、作業療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れを学び、各領域の治療学への展開を理解する。 安全かつ効果的な作業療法が提供できるように、疾患、障害の違いに際して適用される基本的な技術について、演習を通して実践できるようにする。
地域作業療法学	①③地域作業療法学演習	①③地域作業療法学演習			地域住民を対象とした生活支援と社会参加の促進や、必要に応じた教育と就労支援に関わる知識や環境調整等を習得する。また、障害予防及び健康増進による健康寿命延伸の観点から、地域包括ケアシステムにおいて貢献できる能力を身に付ける。
臨床実習	①②③臨床実習I(見学実習)	①②③臨床実習II(地域実習)	①②③臨床実習III(評価実習)	①②③臨床実習IV(総合実習) ①②③臨床実習V(総合実習)	全臨床実習を通じて、臨床現場の実践に際しての理解、作業療法士に必要な倫理観とチーム医療の一員として多職種との連携のあり方を修得する。 I(臨床実習I)「臨床実習I」(総合実習) II(臨床実習II)「臨床実習II」(総合実習) III(臨床実習III)「臨床実習III」(総合実習) IV(臨床実習IV)「臨床実習IV」(総合実習) V(臨床実習V)「臨床実習V」(総合実習)

D.P.① 知識・技能

D.P.② 思考・判断・表現

D.P.③ 主体性・多様性・協働性

D.P.の科目別目標はカリキュラムマップを参照

作業療法学科

履修モデル(作業療法学科)

作業療法学科

		1 年 次				2 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	地球環境と人間	2			歴史に学ぶ	2
		国際事情	2						
		生命のしくみ	2						
	芸術科目					音楽	1	書道	1
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
情報・表現科目	情報処理演習1	1							
	日本語表現法1	1							
体育・健康科目	健康科学	2							
学部学科間共通科目	学部間共通科目			口腔健康管理学	2				
		情報処理概論	2						
	学科間関連科目			○基礎ゼミナール	1	○リハビリテーション医学	1		
						○教育学	2		
専門基礎分野科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○解剖学Ⅰ	2	○解剖学Ⅱ	1	○解剖学実習	1		
		○生理学Ⅰ	2	○生理学Ⅱ	1	○生理学実習	1		
				○基礎運動学	2	○基礎運動学演習	1		
				○人間発達学	2				
	疾病と障害の成り立ちと回復促進			○臨床心理学	1				
				○病理・感染学	2	○神経内科学	2	○内科学	2
				○臨床医学概論	1	○整形外科学	2	○小児科学	1
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念					○老年医学	1		
				○生命倫理学	1	○精神医学	2		
				○リハビリテーション概論	1				
作業療法専門分野科目	基礎作業療法学	○作業療法学概論	2	○基礎作業療法学	1				
	作業療法管理学								
	作業療法評価学					○作業療法評価学	1	○作業療法評価学演習Ⅲ	1
						○作業療法評価学演習Ⅰ	1	○作業療法動作分析学演習	1
						○作業療法評価学演習Ⅱ	1		
	作業療法学治療学					○日常生活活動学	1	○日常生活活動学演習	1
								○精神障害作業療法学	2
								○発達障害作業療法学	2
							○老年期作業療法学	2	
						○高次脳機能障害作業療法学	2		
地域作業療法学					○地域作業療法学	2	○地域作業療法学演習	1	
臨床実習			○臨床実習Ⅰ(見学実習)	1			○臨床実習Ⅱ(地域実習)	2	
取得単位数		21		21		21		21	

3年次				4年次				取得単位数
前期		後期		前期		後期		
								1
								10
								2
								6
								2
								2
緩和ケア論	1							5
		○健康増進とリハビリテーション	2		教育方法論		2	9
		○女性の健康	1					
								14
○臨床検査診断概論	1	○災害医療	1					16
		○臨床栄養学1	1					
○チーム医療連携論	1	○保健医療福祉制度	1					4
○研究法概論	1	○研究法演習	1		○卒業研究		2	8
		○基礎作業療法学演習	1					
○作業療法管理学	2							2
○作業療法学総合演習Ⅰ	1	○作業療法学総合演習Ⅱ	1					7
○身体障害作業療法学Ⅰ	2	○身体障害作業療法学演習	1		○作業療法学セミナー		1	20
○身体障害作業療法学Ⅱ	1	○義肢装具学演習	1					
○義肢装具学	1	○高次脳機能障害作業療法学演習	1					
○精神障害作業療法学演習	1							
○発達障害作業療法学演習	1							
		○予防的作業療法学	1					4
		○臨床実習Ⅲ(評価実習)	6	○臨床実習Ⅳ(総合実習)	8			25
				○臨床実習Ⅴ(総合実習)	8			
13		19		16		5		137

4.免許・資格

(1)理学療法士(理学療法学科)

1)理学療法士とは

理学療法士及び作業療法士法の第2条において「理学療法士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、理学療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、理学療法を行なうことを業とする者をいう。」と定められています。理学療法士は医療、保健、福祉など様々な分野で他職種と連携し、日常生活に必要な基本的動作の回復や維持、および障害の悪化を予防するために、運動や物理療法を通じてサポートするリハビリテーション専門職です。

2)理学療法士になるためには

理学療法士免許を取得するためには、厚生労働省が所管する「理学療法士国家試験」に合格する必要があります。これは、理学療法士及び作業療法士法第3条に「理学療法士又は作業療法士になろうとする者は、理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。理学療法士国家試験の受験資格は、文部科学大臣が指定した学校又は都道府県知事が指定した理学療法士養成施設において、三年以上理学療法士として必要な知識及び技能を修得したものに与えられます。理学療法学科では所定の127単位を取得することによって理学療法士国家試験受験資格を得ることができます。

理学療法士コース

科目区分	卒業要件	
全学共通科目	必修7単位を含む14単位以上を履修	
学部学科間共通科目	必修7単位	必修106単位を含めて113単位以上を履修
専門基礎分野科目	必修35単位	
理学療法専門分野科目	必修64単位	
卒業要件単位数	127単位以上	

3)理学療法士の臨床実習

臨床実習では医療機関、在宅、福祉施設などの幅広い実習地先に赴き、理学療法士としての自身を確立していく過程において、役割遂行に必要な高い倫理観を持つこと、チームアプローチを理解し、問題解決に向けた知識・技術の応用を図る態度を養います。

4)臨床実習参加基準・要件

臨床実習に参加できる基準・要件は次に示すとおりです。

実習科目名	年次	履修前提条件
見学実習	1年次後期	学部学科間共通科目と、専門基礎分野科目、理学療法専門分野科目のうち、1年次後期までに配置された必修科目をすべて履修していること。
理学療法評価学実習	2年次後期	学部学科間共通科目と専門基礎分野科目と理学療法専門分野科目のうち、2年次前期までに配置された必修科目の単位修得済みであり、2年次後期に配置された必修科目を履修していること。
総合臨床実習Ⅰ	3年次後期	学部学科間共通科目と、専門基礎分野科目と理学療法専門分野科目のうち、3年次前期までに配置された必修科目の単位修得済みであり、3年次後期に配置された必修科目を履修していること。
総合臨床実習Ⅱ	4年次前期	理学療法専門分野科目のうち、3年次までの必修科目の単位をすべて修得済みであること。
地域理学療法臨床実習	4年次前期	理学療法専門分野科目のうち、3年次までの必修科目の単位をすべて修得済みであること。

(2) 作業療法士(作業療法学科)

1) 作業療法士とは

理学療法士及び作業療法士法の第2条において「作業療法士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、作業療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、作業療法を行なうことを業とする者をいう。」と定められています。作業療法士は医療、保健、福祉など様々な分野で他職種と連携し、基本的動作能力や応用的動作能力、社会適応力の回復を図るため、各種作業活動を通じてアプローチを行うリハビリテーション専門職です。

2) 作業療法士になるためには

作業療法士免許を取得するためには、厚生労働省が所管する「作業療法士国家試験」に合格する必要があります。これは、理学療法士及び作業療法士法第3条に「理学療法士又は作業療法士になろうとする者は、理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。作業療法士国家試験の受験資格は、文部科学大臣が指定した学校又は都道府県知事が指定した作業療法士養成施設において、三年以上作業療法士として必要な知識及び技能を修得したものに与えられます。作業療法学科では所定の130単位を取得することによって作業療法士国家試験受験資格を得ることができます。

作業療法士コース

科目区分	卒業要件	
全学共通科目	必修7単位	選択15単位以上を履修
学部学科間共通科目	必修7単位	
専門基礎分野科目	必修34単位	選択1単位以上を履修
作業療法専門分野科目	必修66単位	
卒業要件単位数	130単位以上	

3) 作業療法士の臨床実習

臨床実習では医療機関、在宅、福祉施設などの幅広い実習地先に赴き、作業療法士としての自身を確立していく過程において、役割遂行に必要な高い倫理観を持つこと、チームアプローチを理解し、問題解決に向けた知識・技術の応用を図る態度を養います。

4) 臨床実習参加基準・要件

臨床実習に参加できる基準・要件は次に示すとおりです。

実習科目名	年次	履修前提条件
臨床実習Ⅰ (見学実習)	1年次後期	原則、1年生後期までに担当されている学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、作業療法専門分野科目の必修科目をすべて修得していること。
臨床実習Ⅱ (地域実習)	2年次後期	原則、2年生後期までに担当されているすべての必修科目を修得していること。
臨床実習Ⅲ (評価実習)	3年次後期	3年生後期までに配置された卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。
臨床実習Ⅳ (総合実習)	4年次前期	臨床実習Ⅳ・Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。
臨床実習Ⅴ (総合実習)	4年次前期	臨床実習Ⅳ・Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。

